



始



明治大學
教授 大内武次述

農業政策 完

東京文信社發行

14-721



明治大學
大内武次述

政策
完

東京
文信
社發行

大正
13. 2. 29
丙午

農業政策

目次

| | | |
|-----|-----------|---|
| 第一編 | 總論 | 一 |
| 第一章 | 農業政策ノ意義 | 一 |
| 第二章 | 農業ノ性質 | 一 |
| 第一節 | 生産業トシテノ農業 | 一 |
| 第二節 | 企業トシテノ農業 | 三 |
| 第一款 | 農企業ノ發達 | 二 |
| 第二款 | 農企業ノ性質 | 二 |
| 第三款 | 農企業ノ形態 | 三 |
| 第四章 | 農民ノ地位 | 四 |
| 第五章 | 農民ノ社會的意義 | 四 |
| 第二編 | 農業政策ノ根本問題 | 五 |

農業政策目次終

| | | |
|-----|--------|-----|
| 第三編 | 農業生産政策 | 六五 |
| 第一章 | 總說 | 六五 |
| 第二章 | 農用地論 | 六七 |
| 第一節 | 耕地ノ面積 | 六七 |
| 第二節 | 經營耕地 | 七八 |
| 第一節 | 經營ノ規模 | 七八 |
| 第二節 | 經營ノ精粗 | 八〇 |
| 第三節 | 土地改良論 | 一一六 |
| 第三章 | 農産物運送論 | 一三〇 |
| 第四章 | 農業金融論 | 一四一 |
| 第五章 | 農業組合 | 一五八 |
| 第六章 | 農事教育 | 一七六 |

農業政策

明治大學 大内武次 述

第一編 總論

第一章 農業政策ノ意義

最初ニ農業政策ノ意義ヲ明ニスルノ必要アリ、コレヲ明ニスルカ
 為メハ先ツ少シク廣ク經濟現象ヲ研究スル事向ニ付テ一瞥見セサ
 ルヘカラス、通例經濟現象ヲ研究スル事向ヲ廣ク一般ニ經濟事ト欲
 ス、コレヲ廣ク經濟事トナス、コノ廣義ノ經濟事ハコレヲ三編ニ
 別ツコトヲ得ヘシ、即經濟現象ニ付テ過去ノソレヲ研究スル事向ト
 現在ノソレヲ研究スル事向ト、未來ノソレヲ研究スル事向トコレト
 リ、過去ノ經濟現象ヲ研究スルハ經濟史ノ任務トスル処ナリ、



現在ノ経済現象ヲ研究スルハコレ即狭義ノ経済学ニシテ所謂経済原
論ノ一分トスル處コレナリ、未来ノ経済現象ニ関スル事向ハコレ即
経済政策ニシテ、将来ノ経済現象ニ関シコレヲ如何ニ是正スルカ
ヲ研究スルモノコレナリ、コレ三箇ノ経済学ハ相互密接ナル關係ヲ
有シ、別々ニコレヲ孤立シテ研究スルコトヲ得サルモノナリト云
究ノ便宜上一般ニ斯ク區分スルヲ常トス、而シテソノ内特ニ密接ノ
關係ヲ有スルハ経済原論ト経済政策トノ二者ナリトス、経済原論ニ
アリテハ現在ノ経済組織ノ下ニ於テ行ハル、諸般ノ経済現象ニ付
ソノ間ニ存スル一定ノ秩序法則ヲ尋見シ因果ノ理法ヲ明ニスルモノ
ナリ、從ツテ現在ノ経済現象ニ於ケル原理原則ノ研究ニ他ナラサル
ナリ、反之経済政策ニアリテハ吾人ノ理想的見地ヨリ現在ノ経済狀
態ヲ觀察シ、ソノ中ニ不合理ト認ムル處ハ之ヲ、弊害ト認ムル處ハ之ヲ
存スルアラハ將來ニ於テコレ等ノ欠矣ヲ是正セン事ヲ企圖スルモノ
ニシテソノ研究ノ目的トスル處ハ一ニ円満ナル経済状態ノ實現ヲ將來
ニ期待セント欲スルモノ也從ツテ吾人ノ期待スルモノハ經濟現象ノ發生

ヲ將來ニ惹起セシメント欲シソレカ標ルハ之ヲ手段ヲ考究スルモノニ
他ナラス、サレハ経済政策ニ於テ吾人ノ目標トスル處ハ一ニ未来ノ
経済現象ニノニ関スルモノナレハ、茲ニ吾人カ以テ將來ノ経済現象
ニ関スル事向トナシタレソノ義ニ他ナラサルナリ、
故經濟原論ト經濟政策トハ以上ノ如ク現在ト將來トヲ研究スル處ニ
於テ相遠存スルノミナラス又事向ノ性質トシテモ相遠アルモノナリ
コトヲ注意セサルハカラス、經濟原論ハ現在ノ経済組織ノ下ニ於テ
行ハル、經濟現象間ノ秩序法則ヲ尋見セントスルモノナリカ故ニ現
狀ヲ説明シ解釋スルモノニシテ *What is* ニ對シ解答ヲ與フルモノ
ナリ、カク所云 *Science* ノ事向ト云ハル、モノコレニシテ一ニ、
クアル、コトヲ研究スレナリ、又之經濟政策ニアリテハ一定ノ目的
ヲ定メ、ソレニ適合セザルト認メラル、場合ニ於テ完全ナル將來ノ
經濟現象ヲ發生セシムル為メ標ルハ之ヲ手段ヲ研究スルモノニシテ、
將來ノ經濟現象ハ如何ニアルハ之ヲカト云フ向ニ對シ、*How* アルハ之
ト云フ事ヲ實現スルカ為メノ方策ヲ講究スルモノナリ、從ツテ經濟

原論カ *What is* 一 本問 (*sein*) 本問 (ナル) 又 *What ought to be* 一 本問 (*Sollen*) 本問 (應スル)
見シ因果ノ關係ヲ明ニスルモノニシテ、カノ自然科學ニ於ケル諸分
科例ハ物理化學等トソノ性質ヲ等シクスルモノナルカ故ニコレヲ
法則本ト称スヘク、又一般ニ *What ought to be* 一 本問ハ現
狀ヲ是正シ將來ニ於ケル田疇、完全ナル狀態ノ現狀ヲ企圖スルモノ
ナルカ故ニコレヲ政策本ト称スヘク、又ソノ目的トスル必倫理本、
法律本等ト毫モ相違スル處ナキカ故ニコレヲ規範本ノ中ニ包括セシ
ムルコトモ得ヘシ、斯クノ如ク經濟學論ハ現在ニ於ケル經濟現象ノ
原理原則ヲ解明シ、經濟政策ハ將來ノ理想的經濟狀態ノ實現ヲ企圖
スルモノナルカ故ニ茲ニソノ二者ノ間ニ密接ナル關係ヲ生スルモノ
ナリトス、即經濟學政策ヲ將來ニ於テ理想トスル經濟現象ノ發生ヲ
期待シ、ソノ理想トセサル經濟現象ノ不發生ヲ期待スルカ故ニハ
現在ニ於テ如何ナル原因事情ヲ發生セシムルコトヲ必要トスルカヲ

研究シ、以テソノ原因事情ヲ發生セシメ將來ノ經濟現象ヲ左右セシ
コトヲ主張スルモノナレハ、一般經濟現象間ニ通スル原因結果ノ法
則ヲ知悉セサルヘカラスコノ因果ノ法則ヲ知りテ始メテ經濟政策ニ
関スル論議ヲ為ス事ヲ得ルナリ、然ルニ一般經濟現象間ニ通スル因
果ノ法則ハ前ニ述ヘタル如ク經濟學論ニ於テ発見政究スヘキ事柄ナ
ルカ故ニ經濟政策ヲ論スルカ為メニハ必ス經濟學論ノ智識ヲ必要ト
ス、經濟學論ニヨリテ知り得タル經濟法則ニ関スル智識ヲ利用スル
コトニヨリ茲ニ經濟政策ノ任務ハ遂行セラル、ナリ、從ツテ經濟政
策ノ研究ニハ必ス經濟學論ノ智識ヲ必要トス、以テコノ二者カ如何
ニ密接ノ關係ニアルカ知ルコトヲ得ヘシ、サレハ從來或ハ經濟學論
ヲ純理經濟本ト称シ、經濟政策ヲ應用經濟本ト称セルモノ、コレ一
ニ經濟學論ハ原理原則ヲ謂シ經濟政策ハソノ原理原則ヲ人生ノ實際
ニ應用スルモノナルノ矣ニ着眼シテ称ヘラレタルモノ、又或ハ經濟
學論ヲ「科學本トシテ、經濟學本トナシ、經濟政策ヲ「技術本トシテ、
經濟本ト称スルモノ、コノ見地ヨリセルモノニシテ一ハ法則ニ関ス

Weyl の學問ニシテ他ハ法則ノ智識ニヨツテ實際ノ現象ヲ尤右
セント欲スルモノナルカ故ニ斯ク欲スルニ他ナラス。其他經濟原論
ヲ論シ經濟政策ヲ各論ト欲スルモノアレトコレ亦必一ノ見地ヨリ斯
ク欲スルナリ。

ソレ等諸種ノ名称アリト雖畢竟經濟原論ハ經濟現象ニ関シ現在ノ法
則ヲ説明シ、經濟政策ハ經濟現象ニ関シ將來ヲ立則スルモノニテ
ソレカ爲メ經濟政策ノ研究ニハ經濟原論ノ智識ヲ必要トスルモノナ
ルコトハ予メ注意ナシオカラサルヘカラス。

以上經濟原論ト經濟政策トノ關係ヲ述ヘ經濟政策ハ經濟現象ニ関
シ將來ヲ立則スル事同ナルコトヲ主張セリ、換言セバ將來ノ理想的
經濟狀態ノ察見ヲ企圖スル事同ナリ、從ツテ經濟政策ニアリテハ一
定ノ目的、一定ノ理想ヲ必要トスヘシ、コレ蓋一定ノ目的、一定ノ
理想アリテ茲ニ始メテ將來ヲ如何ニスヘシカノ問題ヲ生シ未リ、斯
クテソノ理想、目的ニ適合スヘシ現象ヲ產生セシムヘシ主張ヲ生シ
末ルモノナルカ故ナリ、然ラハ吾人カ經濟政策ニ於テ實現セシメン

ント欲スル究局ノ目的、究局ノ理想ハ何ソヤ、如何ナル目的、如何
ナル理想ヲ以テ將來ノ經濟現象ヲ立則セント欲スルヤ、コノ問題ハ
頗ル重要ナリ、蓋經濟政策ニ於テ確固タル理想、確固タル目的ノ認
識ナクハ遂ニ徹底セル矛盾ナキ研究ヲ遂クルコトヲ得サルヘク、又
吾人ノ期待スル究局ノ到達カ奈辺ニアルヘシカコレヲ指示スルコ
トヲ得サルヘシカ故ナリ、而シテコノ理想、目的ハ種々ノ標準ニ持
テ來ラハコトヲ得ヘシ、從ツテ理想、目的トシテ種々ヘシモ種々
アルヘシ、然レトモ吾人ハコレヲ吾人々類ノ社會生活上ニ於ケル究
局ノ目的ニ求メント欲ス、何トナレハ經濟本ニ於テ究竟スヘシ事柄
ハ吾人カ社會ヲ形成シ生活ヲ營メル方面ノ事實ニシテ即經濟政策ニ
於ケル理想目的ニ社會生活上ノ理想目的ニ他ナラサレハナリ、而シ
テ吾人カ社會生活上ニ於テ理想トシ目的トスル處人ニヨリテ種々ナ
ルヘシト雖ソノ至上最高ノ理想、目的ハ吾人生活ノ幸福幸福ニ他ナ
ラス、カノ支那ニ於テ厚生ト欲シ、美語カ Welfare 十ル語ヲ以テ
表ハス處ノモノ即コレナリ。

吾人ハ常ニ人類ノ各員カアラユル方面ニ於テ人格的発展ノ機会ヲ得
而モソノ最大ノ統一的發展ヲ期スルモノナルカコノ状態ハ完全ニ実
現セラレテ始メテ吾人々生ノ幸福幸福ハ期待セラルヘシ、コノ實現
ハ吾人カ常ニ理想トシテ尊重スルモノナレハ經濟政策ノ奉スヘ
キ理想モコノ *Welfare*ニ存セザルハカラス、コノ *Welfare*
ヲ理想トシ、ソノ實現ニ向ツテ將來ノ經濟ヲ立則スルノ意向コソ即
經濟政策ナリ從ツテ經濟政策カ研究シ主張セント欲スルモノ、
將來ノ經濟ヲシテ *Welfare*ノ實現ヲ可能トラシムヘキ實ニ存ス
ト云フコトヲ得ヘシ

以上述フル如ク經濟政策ハ吾人々生ノ幸福安寧ヲ理想トシテ將來
ヲ立則スルモノナルカ、コレカ實現ノ手段トシテ經濟學論ニ於テ研
究シ得タル成果ヲ利用スヘキモノナルコトハ曩ニ述ヘタル如ナリ、
然ルニ此等經濟學則ノ智識ヲ利用シ將來ヲ立則スト虽コレカ實際ノ
實現ヲ見ルカ爲メニハコレヲ實行スルモノノナカハカラス、吾
人ハ只單ニ研究、論議ノモノヲ以テ満足スルモノニ非ス、コレカ具體

八

的實現ヲ研究スルニ非レハ經濟政策ハ遂ニ空論タルニ終ラン、尤未
吾人ハ生活ノ目的ヲ達スレ爲メ家族ヲ形成シ國家ヲ組織スルモノナ
リ、而シテ人類ノ社会上ニ於ケル諸般ノ活動モコノ範圍内ニ於テ行
ハル、モノナルカ特ニ國家ハソレニ因リ法律ヲ備ヘ吾人ノ生活ヲ保
障ス、從ツテ吾人カ經濟活動モノノ最大限ハ國家ヲ範圍トセル域内
ニ於テ行ヘル、ナリ、コレ國民經濟 *Volkswirtschaft* ナル語
ノ生ツタル所以ナルカ、經濟政策カ *Welfare*ヲ實現セシムルカ
爲メノ諸般ノ研究モ國家ノ立法並ニ諸般ノ施設アルコトニヨリ實現
セラルヘキモノソノ大部分ヲ占ム、從ツテ經濟政策カ研究スル *Welfare*
*Welfare*ノ實現ニ適スヘキ經濟現象ノ發生ニハソレカ實現ノ具體的
手段トシテ國家施設ニ待ツヘキモノ甚々大ナリ、故ニ經濟政策ハ市
場スヘキ經濟現象ヲ惹起セシムル爲メ國家カ操ルヘキ手段ヲ研究ス
ル事固ナリトモ云フコトヲ得ヘシ、コノ具體的手段ノ研究アリテ經
濟政策ノ主張ハ全キヲ得ヘシ

以上一般ノ經濟政策ニ就テ述ヘタリ、然レトモ一般ニ經濟活動ハ

九

3/3/2

生産ノ種類並ニ態様ヲ異ニスルニ從ヒ農業、工業、商業ニ分ツ事ヲ
普通トス、從ツテ経済政策モ夫々ノ経済活動ニ付テ分チテ研究セラ
ル、ヲ一般トス、而シテソノ農業ニ関スル経済政策コレ即農業政策
ナリ、サレハ農業政策トハ、吾人ノ生活ニ於テ *Welfare* ノ実現ニ
適合スヘマ状態ヲ惹起セシムルキ様、農業ニ對シテ國家々派ルハ
経済上ノ手段ヲ研究スル事也トナスコトヲ得ヘシ、

尚ホ農業政策トハ上述ノ如キモノナレハ只單ニ農業ノミヲ対象ト
ラシムル政策ト誤解セサル様注意セサルハカラス、農業政策ノ目的
トスルハモ一般経済政策ニ於ケル目的ト合シク吾人生活ノ *Welfare*
ノ実現ニアリ、而シテ *Welfare* ノ目的ヲ実現スルカ爲メ農業ニ
對シ採ルルハ手段ヲ考究スルモノナリ、サレハソノ究局ノ目的ハ

Welfare ノ実現ニ存シソノ目的ノ爲メニ學口農業ノ發微希望ス
ヘキモノナリトセハソレカ實現ヲ研究スルモノニラテ、只單ニ農業
階級ノ利益ノミヲ主眼トスルモノニ非ルナリ、農學者ノ農業政策或
ハ又農民党ノ主張ト経済政策ノ一分派タル農業政策トヲ混合セサル

事極メテ肝要ナリ

尚ホ本次ニ注意スヘキハ農業政策ヲ以テ農企業ヲシテ異大ナル利益ヲ
得セシムルハ方法ヲ研究スル事同ト混合スルカラス、コハカノ農業
經營者トモ林スヘキモノニラテ私經濟者ニ屬ス、然ルニ農業政策ハ
國民經濟上ニ於ケル農業ニ関シ研究スルモノニシテ私經濟學ニ非ス
國家並ニ社会ヨリ見タル農業ノ研究ニシテ農企業者ナル私人經營上
見地ニ立チテ研究スルモノニ非ス

從来各國ニ於ケル農業政策研究齊達ノ跡ヲ顧ミルニ、カノ独乙ニ
於テハソノ國是カ國民食料品ノ自給状態ヲ造リ出スコトニ存シタル
カ故ニ農業政策ノ原則ハ主トシテソノ目的ト手段トニ向ケラル、一
般國民ノ *Welfare* ノ實現ヲ企圖スヘキ見地ヨリ研究セラレス、
政治上、軍事上ノ特殊ノ目的ニ適合スルカ爲メ農業ニ對シテ
方策ハ研究セラレタリ、從ツテ独乙ノ所云 *Agrarian-political* の
政治方針トシテ農業ニ對シテ幾ルハ政策ニ偏セルノ嫌アリ、及之ハ
東西ニ於ケル *Economic manual* ハ主トシテ私人ノ農業經營

ニ関スル研究ニ偏ス、又米ニ於テハ特ニ農業政策トシテ研究セラ
ル、モ、少ク農業ニ関シテハ多ク穀物、地代ニ関シ議論セラレタル
モノアリタルニスモ、コレ等ハ各國各々事情ヲ異ニスルヨリ生
米リタル農業政策研究上ニ於ケル色彩ナルカ、吾國ニ於テハ農業本
論古クヨリ行ハレタルカ故ニ農業政策上ノ著述亦少カラス、特ニ此
種ノ研究ヲ農政家ト稱シ、徳川時代ノ後期ニ於テ北條信淵ノ農政本
論、小宮山昌秀ノ農政坐右等ノ好著述アリ、サレトモノ時代ニ於テ
農政トハ主トシテ農業ノ基本タル土地制度ニ関スル政策ヲ意味シ特
ニ又地租ノ問題ニ偏重セリ、吾國今茲ニ此等一般ノ農業政策ニ関ス
ル本問ノ齊達ニ顧ミ、又一般經濟政策ノ性質ヲ鑑ミテ農業政策ノ内
容ヲ量ニ述ハタル如何ク解サント欲スルナリ

一二

第二章 農業ノ性質

第一節 生産業トシテ農業

吾人カ政策ノ攻究ノ歩ヲ進メントスルニ當リ予メ明ニスレヲ要ス
ルハ諸般經濟活動ノ中ニ於テ農業ハ如何ナル地位ヲ占ムルマ、換言
セハ農業カ他ノ經濟活動ト比較シテ如何ナル相違ヲ有シ、如何ナル
特徴ヲ有スルカコレナリ、元來人類ノ經濟的活動ハソノ物質的慾望
ヲ満足センムルコトニ存シ、又コレ等ノ慾望満足ハ外界ノ財貨ヲ獲
得スルコトニヨツテ行ハル、而シテコノ外界ノ財貨ヲ獲得スル行為
ハコレ即チ生産行為ニ他ナラサレハ今茲ニ屢ク生産ノ全般ニ亘リ觀
察ヲ以テ農業カソノ中ニ占ムル地位ヲ明ニセント欲ス、今茲ク人類
カ外界ノ財貨ヲ獲得スル行為ヲ生産行為ト稱サハコレニ二種アリ、
一ハ單純ナル占行行為ニシテニハ放蕩ノ固有ノ意義ニ於ケル生産行
為ナリ、單純ナル占行行為トハ自然ニ既ニ存在スル無主ノ物體ヲ占
有スルコトニシテ例ハハ採斂、狩獵、漁獵ノ行為ノ如ク之レニ屬ス

一三

一般ニコノ種ノ行為ヨリナル産業抽出業ハ *Extractive industry*
 (Industry) ト云フ。固有ノ生産行為トハ單純ナル既存物ノ占有ニ止ラス
 人類カ一定ノ手段ヲ用ヒテ人類ニ役立つヘク財貨ヲ産出スル行為ヲ
 云フモノニシテコレハ更ニ三種ニ區別スルコトヲ得ヘシ、ソノ一ハ
 特定ノ植物又ハ動物ヲソレ等カ育スル自然ノ生育力ヲ利用シテ栽培
 飼育スルコトニシテ農耕、牧畜、植林ニ於ケル行為コレニシテ、此
 種ノ産業ヲ汎ク農業ト称ス、ソノ二ハ抽出業又ハ農業ニヨリテ獲得
 セラレタル物體ヲ原料トシテコレニ變形又ハ加工ヲ加フル行為ニシ
 テ、諸般ノ製造工業ニ於ケルモノコレナリ、ソノ三ハ抽出業、農業
 又ハ工業ニヨリテ産出セラレタル財貨ヲソノ使用者ニ接近セシメ客
 易ニ使用シ易カラシムル狀態ニオク行為ニシテ、商業及運送業ニ於
 ケルモノコレナリ、吾人ノ生産上ニ於ケル活動ハ以上ノ四種ヲ以テ
 コレヲ尽マコトヲ得ヘク、コレニヨリ農業カ生産上ニ於ケル地位モ
 亦明ナルヘシ、從テ故テ説明ノ要ナクニ似タレトモ尚ソノ特徴ヲ明
 ニスル為メニ三述フルルルルヘシ

以上ノ四種ノ生産中農業ト抽出業ハ極メ相似タル矣、レカ故ニコ
 レヲ全一ノ産業部類ニ属セシムルモノアリ、第一ニ農業ハ商工業ニ
 対シ原料ヲ獲得シ供給スルモノナルカ抽出業モ亦全株ナリ、而シテ
 又此種ノ産業ハ只單ニ原料ノ産出ニ止マリ、ソノ原料ニ加工スルコ
 トナクモノナルカ故ニソノ原料ハ粗製原料ト称スルコトヲ得ヘク、
 他ノ産業カ粗製原料ヨリ精製品ノ産品ヲ掌ルニ比較シ、ソノ生産階
 程上最初ノ階段ヲ占ムルモノナリ、從ツテ此矣ヨリ見テ農業ト抽出
 業ハ第一次的産業トシテコレヲ檢括スヘシトス、第二ニ農業ハ大體
 ヨリ原料ヲ獲得スルモノナルカコハ抽出業ニ於テモ亦同様ナリ、他
 ノ産業カ人為的努力ニヨリテ生産物ヲ獲得スルニ至ル、唯ル處ヲ異
 ナス、從ツテコノ矣ヨリ農業並ニ抽出業ヲ一括シテ原始的産業ト称
 スヘシトナス、
 斯クノ如クシテ農業ト抽出業トヲ全一性復ノ産業トシテ取扱フベシ
 トナスモノアレトモコハ一面ニ於ケル點似矣、ミヲ見テ他面ニ於テ
 ル重大ナル相違ニ注目セサルモノニシテ、本同上此ニ種ノ産業ハ公

一ニ取扱フコトヲ得ス、抽出業ト農業トハ業ニ違ハタル如ク根本的
ニソノ性質ヲ異ニス、即前者ハソノ行為カ單純ナル占有行為ヨリナ
レルモノニ及シ他ハ固有ノ生産行為ニナルモノナリ、農業ハ元ヨリ
原料ヲ獲得スル行為ニシテ、更ニソノ原料ニ加工ヲ加フル行為ニ非
サズ莫ヨリ見レハ抽出業ト何等扱フ処ナキニ似タレトモソノ行為ハ
又單ニ天然ノ存在物ヲ抽出スルモノニ非スシテ一定ノ手段ヲ用ヒテ
以テ天然ノ産物ヲ收取スルモノナリ、從テ抽出業カ又單ニ占有行為
ノヨリナラズ及シ農業ニハ特ニ産出ノ行為ヲ必要トス、從テ農業
ト抽出業トハ嚴格ニ區別シ研究上別種ノ取扱ヲ為サベレハカラス、
コレヲ混合スルコトハ不可ナリ。

一ニ然ラハ農業ハ固有ノ生産行為ヨリナル他ノ生産業ト如何ナル矣
ニ於テ相違スレカ、コノ矣ニ付テハ今モ述ヘタル如ク農業ハ粗製原
料ヲ獲得スル第一の生産業タル矣並ニ天然ヨリ原料ヲ獲得シ特ニ
人的爲要素ニ乏シキ原始産業タル矣ニ於テ商工業ト區別スル事ヲ得
ハント虽コレ等ハ只比較的ノ観念ニシテ正確ナルコト能ハズ、又業

一ニ取ト考フルコトヲ得ルノミニテ本向上ニ於テ用ヒラルハ又區分ニ
ハ非ス、從ツテ精進ナル區別ヲナスカ爲メニハ固有ノ生産行為ノ行
ハルハ又生産行程ノ本質ニシテ求メザルハカラス、先ツ第一ニ農
業ト商工業特ニ工業トハ生産ノ目的ヲ異ニスルモノナリ、農業カ目
的トスルモノハ動物ノ生育ニ存シ、ソノ取扱ヲ処ノモノハ生
命アル有機体ナリ、生命ナキ死物ニ非ス、然ルニ工業ニ於テ目的ト
スルモノハ一定ノ原料品ニ對シ加工スル事ニシテソノ取扱ヲ原
料ハ一ニコレ生命ナキ物ナリ、一ハ生物ヲ取扱フニ又シ他ハ死物
ヲ取扱フ、コノ矣ニ於テ農業ト工業トノ間ニ重大ナル相違アルヲ見
ルハシ、斯クノ如ク先ツ生産ノ目的ニ合シ相異アルト共ニ第一ニソ
レカ爲メ生産ニ於ケルソノ過程モ本質的ニ相異シ来ラサルヲ得ス、
農業ハ生物ヲ生育セシメ以テ産物ヲ收取セント欲スルモノナルカ故
ニソノ生産物ヲ得ルニ到ル迄ノ生産過程ハ一ニ生物ノ發育ニ存シソ
ノ基ク第一ニ天然ノ作用ニ他ナラス、及之商工業特ニ工業ニアツテ
ハ生物ニ非サル一定ノ物復ニ對シ人為的処置ヲ加ヘ以テ生産物ヲ作

出セント欲スルモノニシテソノ基クハ一ニ人爲的ノ作用ナリ、天然
ノ作用ニノミヨルモノニ非ス、從ツテソノ生産過程ハ一ハ *Organic*
ノモノニシテ全然生物本質タルニ及シ他ハ *mechanic* ニシテ全
ク機械的ナリ、今一例ヲ以テセハ農業ニ於テ麦ヲ蒔種シ收穫ヲ得
ル場合ソノ生産力ノ基クハ一ニ麦ノ種子カキテ生育スル天然
ノ生育力ニヨルモノニシテ、天然ノ作用タル生物ノ生長力ニノミヨ
ルモノナリ、然レニ工業ニ於テ鉄ニ加工シテ諸種ノ器具身作或スル
ハ一定ノ物質ニ対シ機械力ヲ應用シ以テコレヲ処理スルモノニシテ
ソノ過程ハ一ニ機械的ノ作業ニ他ナラス元ヨリ農業ノ生産ニ於テモ
機械ヲ用フルコトアリ、然レトモ農業ニ於ケル機械ノ使用ハ工業ニ
於ケル機械ノ使用トソノ趣ヲ頗ル異ニス農業ニ於テハ仅令機械ヲ使
用スルコトアルモ、ソハ農業ノ生産過程ヲナスモノニ非ス、農業ノ
生産過程ハ一ニ生物ノ生育ニ存ス例ハハ麦ヲ蒔種セル場合ニソノ天
ノ種子ニハ元来胚芽スヘキ天然ノ素質ヲ有スルモノナルカ故ニ生育
成長シテ收穫ヲ得ルモノニシテ農業ノ生産ノ過程ハ此ニソレヲ以テ尽ク

ノハ

サレハ今ソレニ対シ機械ヲ用フルコトアリトナスモ、ソハ又蒔種ノ
爲メ脱穀ノ爲メ、運搬ノ爲メ等ソノ生産過程以下ニ於テ始メテ彼等
ツモノニシテソノ事タルニ農業ノ準備乃至蒔種ノ作事ニ関スル
モノタルニシテソノ等ノ機械ハ農業ノ生産過程ノ本質タル生物
ノ生育ソレ自身ニ対シテハ何等寄與スルコト能ハサルナリ、及之工
業ニ於ケル機械ノ作用ハソノ生産過程ノ本質ヲ爲スモノニシテ此等
機械ナケレハ工業ナシ、農業ニ於ケル機械カソノ生産ノ補助ヲ爲ス
ニ止マルト全ク異ナルモノナリ、斯クノ如ク農業ノ生産過程ハ天然
ノ作用ニ待ツモノニシテ、コノ点ニ於テ商工業トハ本質的ニソノ性
質ヲ異ニスルナリ、故ニラハ以上述ハタル趣ヲ總括シテ農業ヲ定義
セハ「農業トハ人類カ勤植物ヲソレ等カ有スル自然ノ生育力ヲ利用
シテ飼育、栽培ヲ以テソノ產物ヲ收取スル行爲ヲ云フ」ト爲スコト
ヲ有ヘシ、元ヨリ農業ニ関スル定義ハ種々ノ標準ヨリ爲スコトヲ得
ヘシト雖モソノ特質ヲ生産過程ノ本質ニ求メ以テ農業ナル生産業ノ範
圍ヲ定ムル事ハ最も根本的ニシテ且學向上ノ取扱ニ適スルモノナリ

ノ九

ト高ス、斯クシテ上掲ノ定義ニヨリ實際ノ業務中如何ナルモノヲ以テ農業ト称スヘキカト云フニ、狩獵、漁獲、製塩等ハ元ヨリ抽出業ニシテ農業ニ屬スヘキニ非レカ、一般ノ畑畑ノ耕作ト共ニ桑、茶、楮、果樹ノ栽培、並ニ箇ノ收穫ヲ目的トスル付林、椎茸ノ養成ノ如キ元ヨリ農業ニ屬セシムルモノ又植林ノ如キモ農業ノ一種ト見サルヘカラス、又牛馬ノ飼育並ニ養蚕カ農業ニ屬スヘキハ勿論ナルカソレト共ニ養魚、蠶、臭珠ノ養殖等モ亦ソノ性質ヲ全フスルモノニシテ農業ヨリ除外スヘキ理由ナシ、尚注意スヘキコトハ農産製造ハ農産ノ結果得タルモノ、加工ニ付スルモノナレハコレヲ農業ト混合スヘカラス、工業ニ屬スヘキモノナリ。

第二節 企業トシテノ農業

第一款 農企業ノ發達

農業ノ起源ハ頗ル古シト云農業者カ企業トシテ發達スルニ至リタルハ極メテ最近ノ事ナリトス、抑々人類ノ經濟生活ハ家族ヲ經濟單位トナス自給自給ノ交換ナキ状態ヨリ漸ク足セルモノナルカ、此時期ニアツテ動物ヲ馴化シ、植物ノ植栽ヲ知ルニ及ヘハ既に牧畜、農耕ノ術ヲ心得シ農業ヲ知ルニ及ヒタルモノニシテ、ソノ起源ハ太古ノ湖ルコトヲ得ヘシト云、コハ只單ニ生計ノ方便トシテ自家消費ノタメノ農業ニシテ、換言セハ又單ニ農業ナル生産形態ヲ生スルニ至リタルニ止マリ、未タ企業トシテノ農業ハ存在シタルニハ非リシナリ、而シテ其後經濟漸次發達シテ交換所々行ハル、ニ至レハ自給自足ノ家族經濟ハ介化シテ職業トシテノ生産的活動ヲ生スルニ至リ從來自家消費ノ為メノ生産モ茲ニ他人ノ為メニ生産スルモノアルニ至リ漸クシテ各職業ニ於テ生産セルモノヲ交互交換シテ以テ生活ヲ営ムニ至レリ、先ツ最初ニ家族經濟タル農業ヨリ独立ノ職業トシテ工業ハ介離シ、次ニ商工業ハ独立セリ、斯ク如キ状態ノ下ニ自給自足ノ家族經濟ハ破レテ、職業ニ介岐セル生産業ヨリナル交換經濟ハ發

達スルニ至リタルモノナルカ、更ニ貨幣經濟ノ弊達ヲ見ツニ及ハハ
斯ク介岐セル生産業ニ於テ生産セル各自ノ生産物ハ貨幣ヲ以テ評價
セラレ、コレヲ他人ニ賣却シ、以テ貨幣利得ヲ得ルコトヲ主トスル
ニ至レリ、茲ニ於テ生産ニ従来スルモノハソノ生産ニ要スル經費ヲ
成ル可ク小ナラシメ、而カモ又ソノ生産物ノ價值ハコレヲ大ナラシ
メ以テソノ間ニ於テ出来ル丈多額ノ余剰利得ヲ收得セント欲スルニ
至ルハ自然ノ勢ニシテ、斯クシテ生産活動ハ溢利經濟トシテ現ハル
ニ至リ、各種ノ生産業ハ企業トシテ成立スルニ至レルモノナリ、
元ヨリ各種生産業ノ企業化ハ先ツ商業工業ノ方面ニ於テ行ハレ、次
テ農業ニ及ヒタルモノニシテ、ソノ企業トシテ弊達スルニ至レル經
路ハ農業ニ於テハ極メテ緩慢ナリ、コレ蓋理由ノアル事ナリ、元
來農業ハ食料其他ノ原料品ノ生産ヲ目的トシ第一の産業タル性質
ヲ有スルモノナルカ故ニ昔時自給經濟ヲ行ハレタル時代ニ至ッ
テハ加給、現時ノ貨幣經濟ノ組織ノ下ニ於テモ又單ニ自家消費ニ充
テナレズ、食料其他ヲ生産セバ自家ヲ生活ハ兒モ角モ維持スル事ヲ

得ルモノニシテ從ツテ周囲ノ經濟狀態ハ如何ニ變遷ナスル、ソレニ
ハ頓着ナク農業ハ依然トシテ只單ニ家庭的自給的經濟トシテ存立ス
ルコトヲ得ルモノナリ、從テ一般ニ他種ノ生産業ハ企業トシテ利得
ヲ得クルコトヲ本旨トスルノ狀態ニ存ストモ農業ニ於テハ自家消費
ノ爲メノミノ經營モ存立シ得ルナリ、斯クノ如ク經營ハ容易ニ企業
化シ難シ、然ルニ農業以外ノ産業部類皆ニ商業工業ニアリテハ食料ノ
供給ハ是非農業ニ仰カサルヲ得ス、ソレカ爲メ自己ノ生産物ヲ他人
ニ賣却スルノ必要アリ、從ツテ自ラ貨幣經濟交易經濟ノ組織ノ下ニ
入り込ミ來リ、從テソノ經營ハ剩價値ヲ多ク得ンコトヲ努ムルニ
至リ企業化スルニ至レルモノナルカ農業ニアツテハ企業化スルニ至
ル如ク誘因ナシ、而シテ農業ニ從事スル者ハ自然ヲ相手トシ比較的
人等社會トハ孤立セル生活ヲ営ムルモノナルカ故ニ周囲ノ經濟事情
ニ適應スル處小ナリ、依然旧態ヲ墨守スルノ風アリ、從テ貨幣經濟
交易經濟ノ時代ニ至リテモ依然トシテ自家消費的ノ家族經濟ノ旧態
ニ甘ニスルモノナリ、此等ノ事情ハコレ即農業ニ於テ企業化ノ緩慢

ナリシ所以ナリ、右末ヨリ農業ハ安全ナル職業ナリトハ人ノヨク云
フ所ナレバ是即農業ニ於ケル非企業性表明カニ表示シタルモノナ
リ、農業ニ於テ土地ハ不動産ニテ減失セス、而カモ周囲ノ社会事情
ノ變動ニ關係ナク食物ハ獲得シ得ラル、モノナルカ故ニ餓死スルノ
心配ナシ、従ツテ自己ノ欲望ヤハ抑制スルコトヲ得ハ農業ニアツテ
ハ生活ノ最小限度ハ保障セラルヘシ、サレハ茲ニ安全ナリト云フニ
至リタルモノナルヘシ、

二四

以上述フル如ク農業カ企業トシテ率達スルニ至リタルハ極メテ最
近ノ事ニシテ而カモノノ情勢ハ各国ニ於テ一ナラス、経済ノ率達速
カニシテ商工業隆盛ニ従ツテ都市人口ハ増加シ農産物ヲ生産セスシ
テソノ消費ニノニ導ヲナル階級ノ増大ヲ致セル國例ハハ英國ノ如ク
又工業原料トシテノ農産物ノ生産ニ專ラナル國例ハハ北米合衆國ノ
如クニアツテハ市場生産ノニマ目的トセル企業の農業ノ出現ヲ明カ
ニ見ル事ヲ得レト尔余ノ諸國ニアツテハ未タ農業ハ完全ニ企業化セ
ルモノト云フコト能ハス、農業ニ從事スル者ハ先ツ第一ニ自己消費

ノ為メニスル生産ヲ目的トシ、ソレ以外ニ余剩アリテ始メテソノ産
物ヲ賣ルカ如ク状態ヲ普通トス、吾國ノ農業ノ中ニ於テモ如斯程度
ノモノ少カラサルナリ、將來農業ヲ如何ニ企業トシテ率達セシムヘ
クマコレ農業政策ニ於テ攻究スヘキ重要ナル問題ナリ、

第二款 農企業ノ特質

農業政策ノ攻究ニハ農業カ企業トシテ營マル、場合、他ノ商工業
等ト比較シテ如何ナル特質ヲ有スルカ、コレヲ予メ明ニ示シオカサ
ルヘカラス、元來企業トシテ農業カ營マル、場合生産物ノ積貯ヲナ
ルヘク高カラシメ且レカ生産ニ要スル損失ヲナルヘク小ナラシメ
以テ総収入ト生産費トノ差ヲナルヘク多カラシメントスルノ疾ニ於
テ何等商工業ニ於ケル企業ト異ナル処トシ、然レトモ前節ニ於テ述
ヘタルカ如ク農業ト商工業トハソノ生産過程ヲ全ク異ニスルモノナ
ルカ故ニ此点ヨリシテ企業トシテ營マル、場合ソノ収方ニ於テ自

二五

相異ヲ生シ来ラサルヲ得ス。而シテ特ニ企業トシテ成果ヲ挙クルニ
一付々甚シク相異アリ、然ラハ數企業ノ特異ト類々ハモノハ何ソ
ク。

第一、農業ノ産業ハ天然ノ法則ニ依リテモナリ、即生物ノ自然的
育成ヲソノ本旨トス、從テソノ等自然的經過ノ時期ヲ無視シテ任意
ニ期間ニ生産ヲ実行セシムルコト誤ハス、例ハハ時種シテ收穫スル
迄、又球カ仔卵ヲ孕ミテソノ産ムニ至ル迄必ス一定ノ期間ヲ要ス
而シテソノ生産期ハ自然ノ變遷タル季節ニヨリテ定マル或ハ植物ノ
温室栽培ノ如ク幾分ノ期間ヲ短縮シ得ルコトアリト云フソノ短縮ノ程
度タルモ甚ク有限ニシテ畢竟ソノ生産期ハ天然ノ命スル所ニ依リテ
ルコト誤ハス、ソコニ何等任意的ノ突ナシ、此突ハ工業ト甚ク異ナ
ル処ナリ、勿論工業ニイッテモ生産期間ハ存スレトモ、ソノ生産過
程ハ機械的ノモノナレハソノ短縮延長ハ頗ル自由ナルト云フニ至
節ニヨリテ定マルカ如クコトナシ、サレハ工業ニイッテハ市場需要
ノ變動ニ應ジ敏速ニソノ生産ヲ左右スルコトヲ得レトモ數企業ニイ

ニ六

ッテハコノ便宜トシ、加之農業ニ於ケル生産量即收穫ハ主トシテ自
然條件ノ如何ニヨリ定マルモノニシテコレ亦人カヲ以テ左右シ難ク
コトタルヘク、從ツテ工業ニ於ケル如クソノ生産量ヲ確定ニ予定シ
難シ、此實企業者カ經營上困難スル所ニシテ企業トシテ成業ヲ挙ク
ル莫ヨリ見レハ工業ニ劣ルモノト云ハサルハカラス。

第二、農業ノ生産ハ天然ノ法則ニ依リテモナレハ、生産ニ必要ト
スル労働ヲ任意ノ時期ニ、任意ノ場所ニ配置セシムルコトヲ得ヌ、
耕種、蒔種、除草、追肥、收穫、等ノ労働ハ順序ヲ逆フテコレヲ爲
サハルハカラス、コレカ幾ク異種ノ労働ヲ分業ニヨリテ同時ニコレ
ヲ行ヒ、ソノ能率ヲ發揮セシムルコト命ハス、時種ト收穫ハコレヲ
同時ニ行フコトヲ得ヌ、必スソノ時期ヲ待ツテ一定ノ場所ニ於テ行
ハサルハカラス、反之工業ニイッテハ企業ヲ程度ニ利用シ以テ労働
ノ效果ヲ倍如セシムルコトヲ得ルモノナリ、現代企業發展ノ一因器
タル分業ニヨリ便宜ヲ受ケサレコトコレ亦農業ニ固有スルモノト云
フヘク、ソノ生産カ工業ニ於ケル如ク發展セサル所以又コノニ存ス

ニ七

ハシ。

第三、農業ニ於テ介業ニヨル便益ヲ享受シ難キカ故ソノ生産過程
 中ニ必要トスル労働ノ分量ヲ平均ニ配布セシムルコトヲ得ス、例ハ
 ハ一般ニ海産期ト収穫期ニハ一時ニ多数ノ労力ヲ必要トスレトモ其
 他ノ時期ニハ殆ントソノ半量ノ労力ヲモ必要トセサル等極端ニ所云
 農業期ト農閑期ヲ生セサルヲ得ス、而モ亦労働ヲ必要トスル時期ニ
 アツテモ天候其他ノ自然的事情ニヨリ労働ハ頗ル不規則ナラサル得
 ス、而シテコノ不規則ヲ他ニ於テ補足スヘキ方法ナシ、従ツテソノ
 労働ノ配布、安排ハ計画ナシコトヲ得ス、又予定的ナルコト能ハ
 ス、コレカ為メ労働ノ無駄ト労働力ノ減殺トヲ生セリルヲ得ス、工
 業ニ於テ介業的ニ労働ヲ排接シ得ルトソノ趣ヲ頗ル異ニス。

第四、農業ノ労働ハ土地ノ全地域ニ分散シテ行ハル、事ヲ必要ト
 ス。仕事ヲ一ヶ所ニ集中シテ多数ノ労働者ヲ集合セシメ以テ統一
 的作業ヲ行フコト能ハス、従ツテ一人ノ有能者ノ監督者ヲ以テ多数
 ノ労働者ヲ指揮シ業務ヲ執行スルコト困難ナリ、サレハソノ規模ヲ

大ニスルニ依リ労働ノ指図監督ノ益メ多数ノ主腦的指導者ヲ必要ト
 スルニ至ルハシ、又農業労働ハ分散的孤立的ニ行ハル、モノナルカ
 故ニ各個ノ労働者ハソノ作業ノ瑣細ノ実ニ付テハ指導者ノ指図ヲ抑
 クコトヲ得サルハシ、従ツテ農業技術ニ熟練セルモノタル事ヲ必要
 トス。

コノコトハ農法ヲ集約ナル場合持ニ明ナリ、集約農ニ必要トスル精
 巧ナル農業労働ノ如キニ至リテハ到底ヨク監督者ノ指揮ヲ待ツテ行
 ハルハ、ハキモノニ非ス、各個労働者ノ高度ノ熟練ヲ必要トスルナリ
 斯クノ如ク農業ニアリテハソノ生産場トシテ幾メ面積ヲ要シ且ソノ
 全地域ニ分散シテ労働行ハル、モノナルカ故ニ狭小面積ニ於テ且集
 合的ニ労働ノ行ハル、ノ工業ト異リソノ作業ノ指揮統一甚ク困難ナ
 リ、コノコトハソノ規模ノ大ニスルニ従ヒ益々甚シカクヘク、従ツ
 テ農業ノ大経営ハコノ実ニ付テハ成績ヲ擧ケ難シ、而モ亦ソノ労働
 ニハ各個ノ熟練ヲ必要トスルモノナレハ、カノ工業経営ニ於ケル如
 ク指導者ハ作業ノ指揮監督ノニニ從事メ多数ノ労働者ハ作業ノ実行

ニノニ從事シハ以テ業務ノ進行ヲ計ルカ如キ組織ニヨルコトヲ得ス
從テ農經營ニアリテハ主腦者ハ入全時ニソノ勞働ヲモ併セ行フカ如
キ組織ヲ以テスルニ非レハ完全ナル效果ヲ得ルコト固難ナルヘシ
此等ノ事情ハ即農業ニ於テ大經營ヲ發達セシメス。而カモソノ大部
分ハ家族本位ノ經營タルノ實狀ヨシタル所以ノ一ツニシテ、他ノ
生産業ト比較シテ著シキ相異ヲ認ムルコトヲ得ヘシ。

第五、農業ノ生産過程ハ生物力天然ニ固有スル生育力ニ基クモノナリ
ニシテ機械力ニ存セサルモノナルコトハ業ニ述ベリ、從ツテ工業
ニ於ケル如ク機械ノ使用ニヨリテ生産ノ速度ヲ企圖スヘキ範圍極メ
テ小ナリ、サレバ機械ノ發明、改良等最近ニ於ケル科學進步ノ恩沢
ハ未ダ農業ニ及ハサルモノト云ハサルヘカラス、然レバ農業ニ於テ
機械ハ全然無用ナルモノニハ非ス、生産過程以外ニ付ソノ勞働
ニ於ルヘキモノトシテ、ソノ勞働ノ能率ヲ發達セシムルモノトシテ
ソノ使用ノ余地ハ充分存スヘシ、例ハ、耕耘機械、播種機械、刈取
機械乃至打禾機ノ如キ蒸気、電氣、等ノ原動力ヲ用ヒテコレヲ發達

三〇

セシムルトキハソノ勞働ヲ節約シ、ソノ效果ヲ倍クルニ便ナルヲ必
セリ、然レトモ元素農業ノ作業ノ廣ク面積ノ全地域ニ行ハレ且又移
動的ノモノニシテ、工業ニ於ケル如ク作業力小面積ノ外ニ固執シテ
定着的ニ行ハルハト腹心極メ異ニス、從ツテソノ用フヘキ機械モ個
々ノ移動、運搬セシメ得ルノ程度ノモノヲ用フルニ止マリ工業ニ於
ケル如ク巨大ナル機械ヲ掘付ケテソノ偉力ヲ充分ニ發揮セシムル
コト能ハス、加之農業ノ作業ハ季節的ニソノ勞働ノ種類ヲ異ニスル
モノナレハ、機械ノ種類モ種々多ナルヲ要スルト共ニソノ利用
スヘキ期間モ極メテ短ク、他ノ季節ニ於テハ全然ソノラ放置スルノ
他ナシ、全一ノ機械ヲ固執ナク柔軟ニ運搬セシムル工業機械ト比
較シテソノ便益ノ程度遠クニ小ナリ、サレバ農業ニ於ケル機
械ノ利用ハ工業ニ比較シ遠ク低キモノニシテ、コレ亦農生産ノ發
展ノ遲マタル所以ナルト共ニ大經營ノ困難ナル所以ノ一ト見ルコトヲ
得ヘシ

第六、農業ノ生産期ハ季節ニヨリテ定マルモノニシテ人カヲ以

三一

下左右ヲ難キカ故ニソノ生産ニ要スル資本モ一定ノ期間ヲ経過セザレハ回收スルコト難ハズ、商工業ニアツテ八年ニ四度モ五度モ資本ヲ還轉シ得ルニ及シ、農業ニアツテ一年ニ多クモ二度以上ノ還轉ヲ為スコトハ困難ナルヘシ、從テ全一ノ利判、全一ノ生計ヲ営ムカタメニハ農業ニアツテハ商工業ヨリ多額ノ資本ヲ準備スルコトヲ必要トス、コレ農業ノ資本ニ於ケル難矣ニシテ農業力金融上ニ於テ困難アル所以ナリ

第七、最後ニ述フヘキハ農業カ土地ヲ重要ナル生産ノ要素トセル矣ナリ、元来土地ニ関シテハ土地收穫減減ノ法則行ハル、土地ハソノ存在量ニ制限アリ、而シテソノ生産モ亦一定ノ時必ニ於テハ有限ナルヲ以テ一定ノ時ニ於テ土地ニ投下スル努力及資本ノ分量ノ増加ハソノ結果收穫ハアレ矣迄ハ邊増ヲ来スト虽或矣ヲ起スルトモハ之ニ對スル收穫増加ノ割合ヲ減小スルニ至ルヘシ、コレ即土地收穫減減ノ法則ニシテ、今若シ依リニ土地ニ関シテ斯ル法則行ハレサランカ吾人ハ必スシテ廣瀬^{ナリ}土地ヲ耕スヲ要セズ、只狭小ナル良田ヲ耕スノ

ミナルモ、ソレニ無限ノ資本、努力ヲ加フルコトニヨリ無限ノ收穫ヲ得ハキコト、ナリ種メテ好都合ナレトモ實際上一ノ法則ハ土地ニ對シテ行ナル、カ故ニ土地ヲ主要ナル生産要素トスル農業ニ對シテハ特ニ顯著ニ作用スルナリ

從ツテ農生産ニアリテハ或レ程度以上ニ生産ヲ増加セントスルト生産額ノ増加ニ比シテ收穫増加ノ比例ハ益々減少スルコト、ナルカ故ニ小生産ノ増加發展ニハ頗ル困難ナリ尚ホソレカタモ一定ノ土地ヲ有シ充分ノ資本ト能カヲ有スル者カ農業ヲ營マント欲スルモ收穫低減ノ事實ヲ生スル矣以テ其生産規模ヲ限定セサルヲ得サルヘクコノ表ヨリ見テ其經營規模ノ大ナルハ一定ノ制限生シ來ルヲトナルヘシ

斯ク農業ニ於テハ其生産ノ發展困難ニ且ス其ノ經營規模ニ制限スルモノナレトモ商工業ニアツテハ且ニ及シ生産ノ規模ヲ拡大スルニ從ヒソノ生産費ノ減少ヲ來スヲ常トスルカ故ニコレニアツテハ寧ロ收穫増加ノ法則行ナルヘク從ツテ其ノ生産ノ發展益々旺盛ナルニ至ルト共ニ其經營規模ハ大ナルヲ以テ益々有利ナルヘシ

論ニ農業ト他種生産業トノ間ニ於ケル重大ナル相違ヲ察見スルモノ
 ナリ
 以上七項目ヨリ農業ノ特質ヲ述ヘタルカエラ要スルニ農生産ノ
 發展ハ商工ニ於ケル場合ノ如ク顯著ナルヲ得ズ 而シテ農企業ハ
 現代ノ資本主義的營利主義ノ所代ニアツテ商工業ニ比較シ利潤獲得
 上劣位ニアルモノニシテ企業トシテ必ズスシモ好マシキコトニテラ
 サレナリ從ツテ企業トシテ大ナル發展望ミガタシ サレハ至極發展
 シ企業心堅盛トナリ營利油勢盛ニニ生スルニ至レハ薄利ナル農業者
 埒テ資本ヲ迅速機敏ニ運用シ以テ巨利ヲ得スヘキ商工業ニヨリテ
 ノ企業心ヲ満足セシムルニ至ルハ自然ノ勢ニシテ一國ノ生産力ハソ
 レカダメ農業ヨリモ專口商工業ニ向フニ至ルヘシ
 尙テ農業國タリシモノモ至極發展スルニ至ルハ漸次商工國ニ進ムノ順
 向ニアルコトヲ看守シ解ヘク又ソノ農業ノ不振ハ商工業ノ衰盛ヲ致
 シツクアル由因ニ於テ辨ニ甚ダシク商工業ノ未ダ發達ナラザレバ新
 國及旧國ノ或レモノニ於テハソノ特ニ甚ダシカラザレラ見ル

第三款 農企業ノ形態

農業ハ企業化ノ勢緩慢ナルノミナラスソノ企業トシテ營十マレル
 場合ニ於テモ商工業ニ比較シテ劣位ニアルコトハ既に述べタルトコ
 ロナリ

從ツテ農業ニアツテハソノ組織ニ高度ノ發展ヲ來セルモノ少ク率
 口其ノ中ニ非企業的分子ノ存在セルモノ甚々多シ
 元來企業ニアツテハ企業ニ用ヒラル、凡テノ資産ヲ企鵠ニテ評價シ
 以テ收支ノ計算ヲ立ツルコトヲ本旨トス 然レニ現在ノ農業至營ニ
 於テ加ハル形式ヲモツテセラル、モノ甚々夥ナク企業カ一節ノ至
 單位ヲナスニ非ラスニテソノ大部分ハ半ハ家庭至營タル性質ヲ有シ
 收支計算ノ如キモ一般家計ト混同セラレテ労働ノ如キモ確實ニ貨幣
 額ヲ以テ評價セラレズ半ハ貨幣至營ニシテ半ハ賣物至營タルノ観ア

リ コレ等ノ状態ハ現在産業力一般ニ企業化セラルヘキ趨勢ノ下ニ
アリテ農業カ企業トシテ極メテ幼稚ナルヲ示スニ外ナラサレハ之ヲ
導ヒイテ完全ナル企業トシムルコトハ必要ナリ 故ソテ吾人ハ農業
政策上コレカ解決ヲ計ラサルヲ得ナレトモコレニ先ガチ失ツ農業ニ
アリテハ如何ナル企業形態ヲ限モ適當トスヘキカ 之レヲ究メオカサ
ルヘカラス

元來限企業ハソノ業務ノ性質ヨリシテ生産上ノ智識ト技術上ノ熟練
ヲ要スルコト多ク然カモ亦之カ指導ノ在ニ當ル者ハ自ラ親シクソノ
實際ニツイテ指導監督ヲナスコトヲ要スルモノナレハ從業ノ各員ハ
充分ナル興味ト利害ノ打算トヲ以テコレニ當ルニアテサレハ企業ト
シテ成績ヲ奏スレコト難カルヘシ 故ソテ其ノ生産ノ技術トソノ業務
至營トハ密接ナレキ保ヲ有シ別人ヲ以テコレニ當ラシムルヲ得ナレ
カ如キ事情ニアリ之等ノ事情ハ一般ニ限企業ヲシテ何人企業ヲ以テ
適當ナラシム 株式會社ノ如キ共企業ニテハソノ成績ヲ奏スルコト固
難ナリ 現在限企業ノ大部分ハ何人企業ニシテ會社組織ヲ以テセル

共同企業種々ヲ稱ナレハ之カ爲ニ他ナラス 而シテ又何人企業ニ適ス
ルカ爲メ共同團體ノ企業トシテモ適當セス 從ソテ現在鉤山ノ製塩
鉄道等ハ公營ヲ以テ成功シタルモノ少ナカラサレトモ國家又ハ公共
團體カ自ラソノ土地ヲ耕作シタル实例ハ絶無ナリ 斯クノ如ク限企
業ハ何人企業ヲ限モ適當トスト至モ一般ニ限企業ノ發達ニ伴ヒ何人企業
ヲ以テ不利トスル莫クナカラス 然レモ限企業ハ元來ソノ業務ノ性
質上何人企業ヲ適當トスルモノナレハ他ノ企業ニ於ケル如ク共同企
業ニ進出セシムルコトニヨツテ固^{ヨリ}固^{ヨリ}至極發達ニ適應セシムルコト
能ハス 茲ニ於テ限企業ニアツテ至極組合ハ一般ニ發達スルナリ
斯ク至極組合ハ一般ニ企業ノ補助トシテ發達スルモノニシテ何人企
業ニ於テ共同事業トシテ發達セシメ得ヘキ即分ハコレヲ組合ニヨリ
テ至營シ以テソノ不便不利ヲ免ルコトヲ得ルモノナリ 組合カ商
工業ニ於ケルヨリハ専ラ農業ニ於テ發達シ其ノ成績ノ佳良ナル獨然
ニアラサレト共ニ限企業ニ於テハ組合カ重要ナル地位ヲ占ムルモノ
ナルコトヲ知ラサルヘカラス

農業企業カ個人企業ニ適當トスル事情ハ又反面ニ小至營ヲ適當トスル
テ示スモノナリ

大抵ニ於テ個人企業ト小至營、共同企業ト大至營トハ相互干渉ヲ有
スルモノニシテ農業企業カ共同企業ニ進化シ難キノ事情ハ又ソノ反面
ニソレカ大至營ヲ困難トスル事情ヲ示スニ外ナラス 従ツテ農業ニ
於テハ大至營ヲ達セズ小至營タルヲ以テ常態トス 商工業ニ於ケル
如ク大至營タルヲ以テ益々有利トシコレカタメ企業集中ヲ來スカ如
キ現象ハ農業ニアツテハ生セサルヘシ 現ニ農業上ニ於ケル如何ナ
ル大至營ニアツテモ工業上ノ中至營又ハ小至營ニ比較スルニ過キナ
ルノ事實並ニ米國ノ如ク曾テ大規模農業ヲ行ナレタ目ニアツテ其
至營規模ハ寧ろ縮小セラレツトアルノ事實ニ徴シコノ事情ナリ
以上述アル如ク農業企業ハ個人企業ヲ適當トシ且ツ小至營ヲ以テ有利
トスルモノナレハ今日ニ於テモ尙不妻子僕隷ヲ有スル個人企業者ニ
ヨツテ營ナマルモノ多ク家族的性質ヲ失ナフニ至ラサルモノナリ
従ツテ其ノ労働ノ如キモ主トシテ企業者自身並ニソノ家族ノ労働ニ

ヨルモノ多ク生産労働者ニアツテモ臨時ニ産入ルモノヲ除キ他
ハ都市工場ノ労働者ノ如ク單ナル産人ニハ非ラサルナリ
之等ノ事情ハ又即チ農業ノ企業化ヲ困難トセシメタル所以ノ一ナレ
ハ農業企業上問題ノ解決ニハコレ等^其着眼シテ慎重ニ考慮スル所ナリ
ナリトス

農業カ土地ヲ生産手段トナスモノナルヲハ商工業ト異ナル所ナリ
然ルニ土地ハ歴史上社會上ノ關係ヨリ其所有ト實際ノ使用トカ別何
ノ權利トシテ相別レソノ占有使用者ハ所有者ナラサルコト殊ニシカ
ラス 従ツテ農業企業ハソノ企業者カ至營ノタメ使用スル土地ニ對シソ
レヲ所有セルヤ否ヤニヨリ二種ニ區別スルニトテ得ヘシ コノ區別
ハ企業ニ營ムニ付テ生スル法律干渉ヨリ見タルモノナルカ公認ニ又
至殊上ニ重大ナル干渉ヲ有ス即チ自作農ト小作農トナリ
自作農トハ企業者カ自己ノ所有地ニ農業ヲ經營スルヲ去ヒ小作農ト
ハ他人ノ所有セル土地ヲ借入レテソコニ農業ヲ營ムヲ去フ
農業ハ上述セル如ク個人企業的小至營ヲ適當トシ家族的ニ營ナマル

ルモノ多ケレハ大地積ノ所有地ハ多数ノ小作農ニ分割セラレ、コトヲ普通トス。然レ大地主カ自己ノ所有地ニ農業ヲ營ムコトアリトナスモ其ノ場合所有地ノ一部分自營セラレ、ニ止マリ他ハ全部小作ニ付セラレ全面積ニ置ルコト極メテ稀ナリ

一般ニ農業ノ現状ニ於テ自作農モ小作農モ其ノ主人ハ企業者ニシテ且ツ労働者ヲ兼スルコト一般ナレモモシソレ土地ノ所有者カ自ラ労働ニ限スルコトナラズ他人ヲ使役シテ農耕ヲ行ハシメ又ハ管理人ヲ置イテ農業經營ヲ一任セラレカ如キ場合アラハソハ自作農ニハ相違ナケレド管理農ト稱スルコト一般ナリ

自作農ト小作農ト區別ハ土地ニ對スル法律干預ヨリ生シタル區別ニシテソレカ攻究ハ土地制度ト相干聯スルモノ多ク又小作農ノ場合ニハ土地ヲ借入ル、ソノ法律上ノ干預トモ干預スル處大ナリ然ツテ後ニ更ニ述フル所アルヘシ

第三章 農民ノ性情

農民ナル語ハ一般ニ慣用セラレトモ其ノ意義頗ル茫漠ニシテ明確ナル概念ヲ得難シ。普通ハ農業ニ干與スルモノヲ廣ク指シテ稱フモノ、如シ然レモ吾人ハコレカ意義ヲ明カナラシメニカタメ直ニ農業ニヨツテ生活ヲ立テル者ニコレヲ限ラントス

從ツテ間接農業ニヨリテ生活ヲ立ツル者例ハハ農業ニ資本ヲ供給スルモノ又ハ都會ニ常在セル不在地主ノ如キハコレヨリ除外スヘク又地主ニアツテモ全然農業ノ經營ニ參加スルコトナク又單ニ小作料ノ收得ニ專ラナルハ農民トハ稱シ難カルヘシ

ナレバ茲ニ農民トハ農業ノ主体即チ農家ノ主人ト其家族並ニ農業労働者ノミヲ指スモノト知ルヘシ

此等農民ニ関シテハ予メ其ノ性質感情等其ノ一般ノ心理状態ヲ知ルニト必要ナリ

農民ハ地方ニ分散シテ在間ト接觸セズ而カモ其ノ作業ハ天然ニ服從シ人爲ヲ以テ左右スルコト難キト共ニ又其ノ作業ニ干渉

後述ナル人事相互關係ノ干渉ヲ生スルコトナシ

從ツテ其ノ性質從價運轉ニシテ其ノ限中ノ力ニ當ルモノトス
都會ニ於ケル商工民カ生存競争ノ激烈ナル壓迫ノ下ニ生活スルカ故
ニ被欺ニシテ且ツ進取のナルト全然趣ヲ異ニスサレバ農民ハ一般ニ
智識進歩緩徐ニシテ自ら進ニテ程の方面ノ向上發展ヲ圖ル氣概ニ
乏シク又一般ニ智識ノ程度幼稚ナル結果道義觀念モ幼稚ニシテ固陋
ナル迷信的思想ニ執着シ易ク万事愚陋ニ善從シ改良進歩ノ意圖ヲ欠
クモノナリ

而シテ其ノ保守的態度ハ商工民カ自由ヲ愛シ固固ノ社會事情ノ變遷
ニ應ジテ端種ノ改善ヲ企テツ、アルニ及シ農民ニハ回來ノ地位ヲ據
護尊重スル旧守的思想ヲ持スルモノ、多ク社會思潮ノ^{變遷}急ナレ今日ニア
ツテソノ進退ヲ共ニシ難シ
至裕上ニアリテモ農業ハソノ性質上資本ヲ所々ニ通用シテ高機ヲ利
用スルコト難キノミナラス其ノ生産物ノ大部分ハ直々ニコレヲ自家
ノ消費ニ供スルモノナルカ故ニ營業ト家事至密ガ判然セラレサルニ

ト既ニ述ヘタル如クナレハ農民ハ至極的觀念薄ク損益ノ計算ヲ高レ
テ土地ヲ特ニ愛重シ其ノ行動ハ至極主義ニ及スルコト多シ 商工民
カ其ノ業ヲ以テ全然救済ノ手段ト見做シ損益ノ打算ニ極メテ機敏ニ
シテ企タク至極主義ニ合致セル行動ヲ執ルト全然異ナルナリ
農業ハ一般ニ小規模組織ヲ有利ト大ルト既ニ説明シタル如ク
ノ事ハマダ農民ノ性情ニ影響ヲ及ホスコト大ナリ即チ他ノ大規模組
織ヲ有利トスル産業ニアリテハ其ノ自然ノ結果トシテ之ニ從事セル
者ノ能力ニ一小部分ノミ自ら企業者の又獨立セル一事業ノ長タリ得
ヘキモ彼等以外ノ多数ノ從業者ハ單純ナル労働者タル地位ヲ有スル
ニ過キサルニ農業ニアリテハ及互共ノ從業者ノ大部分ハ單純ナル勞
働者ニアラスシテ小規模作ヲモ自ら直接ソノ事業ノ經營ニ任シ企業
者トシテ獨立シタル一事業ノ長タル資格ヲ有スルヲ得ルヲコレナリ
然レテ一般ニ自主的且獨立のナリ
サレハ商工從業者ノ大部分カ労働者ナルカ故ニ茲ニ重大ナル社會問
題ヲ發生シ來レルカ如キコト農業ニハナシ農業ニ於ケル社會問題ハ

他ノ方面ニ於テモ
 而シテ農民ノ自主的傾向ハ農企業カ一般ニ蒙事至存ト混合セ
 ンレ居ルカ爲メ家長若シクハ直接共ノ事業ニ干與セル者以外ニ家庭
 ノ各員ノ其ノ職業ニ共ニテ深ク注意セサルカ如キ了アルコトナク一
 般ニ家族ノ各員ハ互ニ農事ノ一部ニ力シ共働的ニ其ノ事業ヲ成就
 セシメントスルノ傾向アルヲ以テソノ家族間ニ於ケル共働的精神ノ
 發現顯著ナリ從ツテ個人ノ自主的ノ自主心孤立心ノ發達ヲ來サスシ
 テ家族的團體的ノ自主孤立心ノ發達ヲ來スト共ニ廣ク世間ト接觸セ
 スシテ郷土ニ定着シ隣人ト相交ルノ深キコトハ一般ニ愛郷心公民心
 ヲ強カラシムルモノナリ
 コノ農商工民カ四常ニ接觸シ自由ナル活動ヲ爲セルカダメ
 其ノ自利の意識強ク個人主義的思想發達スルト共ニ所謂極端主義的
 傾向ヲ有スルニ至ルト異ナル處ナリ
 又農業ニハ各地方又ハ各国内ノ競争殆ド存在セズ其ノ利害モ亦共
 通スルカ故ニ商工業ニ於テ競争激シク同業者相互目スルト異ナリ農

民ハ其ノ共同ノ利益發達ノためニ團結スレテ容易ナリ
 サレバ政治界ニ於テモ農民党ノ勢力ハ商工業ニ比シ勢力強大ナルヲ
 嚮トス精神上ニ於テモ農民カ有スル人生觀ハ商工民ノソレト甚タ趣
 ヲ異ニシ農業ニ特有ナル別個ノ天地存スルモノナリトス
 農民ノ性情以上ノ如シト雖モ今觀ツテ一般に農上ノ趨勢ヲ察スルニ
 平和ナル自然的生活ノ下ニ終々タル人生ヲ遂クルハ今日ノ時代精神
 ニアラス
 從ツテ上述農民ノ性情ハ現代の傾向ニ合致シテ至極上ノ優者タルノ
 素質ニ頗ル乏シキモノト云ハサルヲ得ヌサレバ現時ノ至極狀態ノ
 下ニ於テ商工民ニ比較シテ農民ノ進歩漸次不安トナルヘキハ止ムヲ
 得サレトナルト共ニ又農民カ一朝現代の精神ノ下ニ至極上ノ活動
 ヲ爲サント欲スルニ至ラハソハ遂ニ農業ヲ捨テ、商工業ニ趨カサル
 ラ得サルヘシ
 從來農村問題トシテ此種ノ事實ニ關シ論議セラレタリサレドソノ見
 解ハ主トシテ農民ノ立場ヨリセラレタルモノ、如シ吾人ハ主ク農業

政策上ノ根本問題トシテ研究セント欲ス

四六

第四章 農民ノ社會的意義

一國ノ文化上ヨリ見ルニ農工商ノ三者^五獨立スルコトハ極メテ望マシキコトナリソノ三者ノ孰レカニ偏スルハ^{一國}社會承達上ニ健全ナルモノナリトス

コノニトハ揆言スレハ都會ト田舎トカ孰レモ相当ノ程度ニ承達シヌ商工民ト農民トカ相当ノ比例ヲ保ツテ存在スルコトヲ必要トスルモノナリナレハ農業政策ヲ論ヨルニ當リテモコレ華農業ノ社會的意義ヲ顧慮シ適當ノ方策ヲ樹ツルコト所要ナリトス

元來國家ノ政策ハソノ何レノ種類ニ屬スレテ悶ハス孰レモ國民ノ健全ナル永遠ノ繁達ヲ最高目的トスヘキモノナリ而シテコノコトハ國民ノ welfare 確保ヲ目的トスルコトニヨリテ達セラレモノナルコト兼ニ達ヘタル如クナレハ至極政策ヲ定ムルニ當リテモ猶^至濟

上ノ利害ヲ見ルノミナラス其ノ國民生活ノ各方面ニ及ハス影響ヲ明ラカニスルコトヲ必要トス

只現代文明ノ下ニアツテハ國民生活ノ各方面ニ至極ノ繁達ト重大ナル干渉ヲ有スルカ故ニ一國ノ至極上ノ利害カ政策決定上甚々重要ノ地位ヲ占ムルハ疑ヲ容レズトモ至極以外ノ社會的利害ニ干スル事^{振テ}振テコレヲ無視スルコトヲ得ズ從ツテ以下農業ノ社會的意義ニ付テ述フルル所アレハシ

一農業ハ一國ノ健全ナル社會承達上如何ナル意義ヲ有スルモノナリヤ 元來農業ハ至極上國民ニ直接ノ生活資料タル食糧品ヲ供給シ又工業ニ原料及補助原料ヲ供給スルモノナレハ一國ノ至極上甚々必要ナルハ勿論ナリトモ事タルヤ交通機關開ケ國際的交通ノ自由ヲ確保セラレバ今日ニアリテハ農産物ハ自國ニ生産セラレズトモ夫々世界各地方ニ生産セラレ農産物ヲ輸入スルコトニヨリテ其ノ需要ヲ満足シ得レモノナレハ必ラスシモ之ノ理由ノミニヨリテ一國ノ農業ノ意味大ナルコトヲ至極ナル^一能ハス而シテコノコトタル各國

四七

ソノ事情ヲ異ニセルカ故ニ一概ニハ七七難キコトナレトモ至齊上農
 業ハ商工業ニ比較シテ其ノ利益少ナク且又收獲益減ノ法則ノ支配ヲ
 受クルコト顯著ナルモノナレハ一國ノ至齊發達スルニ從ヒ一國ノ勞
 働資本ハ農業ヨリハ寧ろ商工業ニ向ツテ投セラレ、ニ至リ至齊ノ進
 歩セル國ハト至齊上農業ハ從ニシテ商工業カ主ナルノ状態ナレハ只
 單ニ一國ノ至齊ノ發達上ノ見地ノミヨリスレハ農業ノ重要度ハアマ
 リ六ナルモノトナレコトヲ解ス然ルニカ、ル至齊上ノ見地ヨリセ
 ス一度社會上ノ見地ヨリコレヲ見ルニ農業ノ意義頗ル大ナルヲ費ユ
 ルモノナリ

先ツ第一ニ思想上精神上ノ見地ヨリスルニ一國ノ業務カ商工業ニ編
 シ、國民ノ大部分ハ都會ニ住居シテ主トシテ商工業的活動ニ從事ス
 ル場合ヲ想像スルニ此ノ場合國民ノ保甲力衰ヘテ急遽過激トナリ貧
 乏且無レテ奢僥柔弱ニ流レ地方的並ニ家族的思想ハ薄クキテ個人
 的私利的思想漸ク興リ進フシ衰敗心ハ衰ヘテ唯物的トナリ自動心ハ
 衰ヘテ不健全ナル危險思想隱匿スルニ至ルコトナキヲ保セサルナリ

而シテ曩ニ農民ノ性情トシテ獨ケタルモノハ幾多ノ缺欠ヲ有スルモ
 ノナリト虽モ小保甲的ニシテ重厚苟モセヌ又營利的唯物的ナラスシ
 テ質朴ニシテ且ツ公共心ニ富ミ家族的團體的ノ自主獨立心強クシテ
 愛郷心存シ、ノ精神、人生觀ヲ保持セルカ如キハ國民ノ大部分カ農
 業ニ從事シテコレ等ノ傾向ニ偏スルモノニ非サレバ限リ一國ノ國民思
 想上ノ存在ヲ希望スヘキモノナリ社會思想ノ變遷急ニ而カモ亦至
 齊ノ發達ハ商工業ニ向ツテ進ミツ、アルノ今日ニ於テカ、ル保甲的
 傾向ヲ有、ル農民ノ存在ハ國民思想ノ健全ナル發達ヲ見ル上ニ於テ
 極メテ必要ナルモノナリトス

農業ハ此矣ヨリ見テ社會上頗ル重要ナル意義ヲ有ハルモノナリ
 第二ニ國民衛生上ノ見地ヨリコレヲ見ルニ內都會生活及工場労働ハ
 如何ニ衛生ノ途進歩スルモ尚ホ開墾ナル農場ニ出テ新鮮ナル空氣ヲ
 呼吸シ懇々タル日光ニ浴ビツ、働ク農業生活ニ比較シテ不健康ナルヲ
 免レス、身心共ニ健全ナル田舎ノ人口大ニシテ也メテヨク絶ヘス都
 會ニ新鮮ノ分子ヲ移入シ其ノ商工業ノ發達ヲ繼續セシマルコトヲ解

ヘク又之ニ由ツテ初メテ海外殖民地ニ健全ナル開拓者ヲ送ルコトヲ
導ヘキナリ

ソノ實際ニ付イテ見ルニ田舎ハ都會ニ比較スルニ出生ノ割合多ク又
死亡ノ割合モ小ナリ人口ノ自然的増加盛ナルト同時ニソノ体格ニア
リテモ毎羊ノ徵兵検査ノ成績ニヨルトキハソノ良好ナルモノ田舎ニ
多キモノナリ

英國ノ如キソノ國人ハ元來非常ノ保衛的人民ニシテ又世界最良ノ体
質ヲ有ス且ソノ体育ニ付テ最大ノ努力ヲ為シ獨立自助ノ念ハ上下ニ普
クシテ不健全ナル社會主義ノ如キ政體ニハ危殆甚ク少ナキニ不恰、
其ノ商工立國主義ノ結果トシテ人口ノ漸ハ割合都會生活ヲ為スニ至
リテニ國民ノ身心ノ發達上屢フヘキ災ヲ生シタルハ多ク、人口ノ
認めル起ナリ從ツテ國民衛生上ヨリ見て農業ハ重要ノ意義ヲ有ス
ルモノト云ハサルヘカラス

第三ニ以上述フル如ク農業存立ノ意義ハ現代ニアツテハ至極上ニ於
ケルヨリ寧ロ社會上ニ於テ甚ク大ナルモノ存スルナリコレヲ歐洲

先進國ノ實際ニ付テ見ルニソレ等各國ノ輓近ニ於ケル大ナル進歩ハ
主トシテ農工業ノ發達ニヨルモノニシテモ三各國自ラ農業上ノ需要
ヲ充メス方針ヲ採リタラシニハ到底今日ノ如キ大ナル進歩ヲ為スヲ
得サリシコトハ疑ナキコトナリト對モ一面ソレカ爲メ商工業ヲ主ト
シテ農業ノ衰退ヲ來セルタメ上述キ如ク社會上ノ種々ノ欠點ヲ生シ
タルノ事實ハ之ヲ否定スルコトヲ得サルモノナリ 國土狹小ナルヨ
リ到底自國ノ農業ヲ以テ國民ノ食物需要ノ主ナル部分ヲ充スノ望ニ
ナキ英國々商工立國主義ヲ採ルニ又シ歐洲大陸諸國ノ農業ニ多小ノ
解差ヲ加ヘテ農工商併立主義ヲ採ルニ至リシハ以上述ヘタルカ如キ
主トシテ社會上ノ見地ヨリセルモノナルコトニテ親過スヘカラス
ナリ

農業政策上ノ問題ヲ講究スルニ當リ常ニ農業カ社會上ニ於ケル意義
ヲ顧ミルコト甚ク必要ノコトナリトス

第二編 農業政策ノ根本問題

農業政策トシテ論スル所ノモノ只單ニ農業上ノ問題ノミニ止マラ
 ス又只單ニ農業ヲ發展ナラシムルコトノミニ政策ニ止マラス廣シ一
 國ノ至極ヲ發展セシメ吾人ノ生活ヲ改善ナラシムル爲メニハ一國ノ
 農業ヲ如何ニ指導スヘキカヲ研究スルモノナレハ茲ニソノ根本問題
 トシテ國家全般ノ目的ヨリ見テ農業ソノモノヲ如何ニ取扱カウヘキ
 カト云フ疑問ヲ生セサルヲ解サルナリ
 元來農業ハコレヲ發展欲達セシムルヲ可トスルカ或ハ農業ヲ救済セ
 シムルモ差支ナク只今現在農業ニ從事スルモノヲ救済スルノ程度ニ
 コレヲ保護セリ可ナリトスルカ或ハソノ政策ヲ寧ろ農業西進ノ
 方向ニ違ハルヲ可トスルカコレ等ノ問題ハ一國ノ至極上ノ最高政
 策ニシテコノ方針定マリテ始メテ其他諸命ノ諸政策定マリ來ルモノ
 ナレハ農業政策制定ノ歩ヲ違ハレニ由リソノ果ヲ如何ナク方針ヲ

以テスルカ一國ノ至極ノ發展ヲ期待シ得ヘキカコレヲ先ツ最初ニ明ラ
 カニナシ置カサルヘカラス
 コノ問題ハ農業ニ對シ國家ノ執レヘキ根本方針如何ナルナリ
 農業モ極クタル如ク農業ハ商工業ニ比較シテ企業トシテハ高度ノ
 發展望ミ難ク從ツテ營利活動トシテ商工業ニ劣ルコト甚クシク一國
 ノ至極相當ノ程度ニ發展シ至極的活動心旺盛ナルニ至レハ商工業
 リヨリ樂エテ農業ハ漸次衰微スヘキ運命ヲ存スルナリ即チ換言セ
 ハ至極ノ發展ト一國農業ノ隆盛トハヨグ兩立スルモノニアラス
 單純ニ一國ノ至極上ノ發展ノミヲ期待セニハ農業リ寧ろ衰微スト
 異ニコレヲ放置シ商工業ノ發展ヲ創スルコト寧ろ有利ナリ
 コレ資本主義的至極組織ヲ概ル現在ノ至極ノ大勢ヨリ見タル歸趨ニ
 他ナラス例ハ英國ノ如キ現在世界至極上ノ霸權ヲ握リカノ倫敦
 ノ如キ世界金融ノ中心地トシテ世界手形交換所タルノ實アリ而シ
 テ世界貿易上ノ代金ノ決済リスヘテ此地ニ行ナルハカ如キ又英國
 ノ工業カ世界ニ冠タルニ云フ迄モナク英國ハ世界ノ工場ナリト云フ

五通言ニアラサレカ如キ又英國ノ貿易ハ出ク吾界ヲ相手ニシテ行ナ
 レ英他諸國モ取引ヲ行ナントスルニハ寧ロ英國ヲ小シタル方
 便利ニシテ思フ容易ナレ状態ニアルカ如キ又英國海運業カ吾界第一
 ノ地位ヲ占ムルカ如キ孰レモコレ英國カ吾界至脊上ニ於テソノ優越
 ナル地位ヲ占ムルモノナルヲ表ハスモノニ外ナラズト吾モコレ蓋
 シ英國ノ現在國民ノ約八割ハ商工業ニ從事シソノ精力ノ全カヲ尽シ
 テ商工業ニ注キ純然タル商工業國主義ヲ採リタルカタメニ得タル賜
 ニ依ナラズ

而シテ英國ハ十八世紀マテハ純然タル農業國ナリシカソノ農業國タ
 リシ時代ニアリテハ未ダ吾界至脊上ニ踞ラ格タルヲ得ス十九世紀
 ノ中葉ヨリソノ商工業益々盛ナルニ至リテ始メテ至脊上ソノ優越ノ
 地位ヲ占ムソノ國ノ富強ヲ致シタルモノナルカ故ニコレヲ以テ見テ
 吾農業ノ盛衰ハ一國ノ至脊ノ發達上干係スル處ニアラス 商工業ノ
 發達如何カ甚ダ重大ナル干係ヲ有スルモノナルコトヲ知リ得ヘシ
 英國ノ農業人口ハ一八五一年ニ全人口ノ四九、八%ナリシモノ一九一

一年ニハ僅カ全人口ノ二一、九%ヲ占ムルニスキス 又廿世紀ニ入
 リテヨリ至脊上急激ノ發展ヲナシ歐洲戰前ノ時期ニアツテ正ニ英國
 ト吾界至脊上ノ霸權ヲ爭フハントセル物乙ノ状態ヲ見ルニコレマダ
 同様ノ秋勢ニアリ、物乙ニ於テハ至脊一般政策上ノ國家主義ニ伴フ
 國民食料ノ自足主義並ニ其他ノ理由ヨリ農業ヲ保護シ來リタルカ故
 ニソノ農業ノ衰微英國ノ如キ甚ダシカラスト吾モソノ國ノ至脊上
 ノ發展ヲ來セル所似ハ農業ニ存セス商工業ノ隆盛ニヨルモノニシテ
 商工業ノ旺ナルニ依ヒ至脊ノ發展ハ大ニ而シテ農業ハ比較的ニ劣ヘ
 來リツ、アルハ吾界ハカラサル大勢ナリ コノ了ハ物乙ノ農業人口
 カ一八八二年ニ於テ全人口ノ四二%ヲ占メタリシモノ一九一七年ニ
 於テハソノ二八、五%ヲ占ムルニスキサルニ至リタルコトヲ以テモ
 推察スルコトヲ得ヘシ

蘇ノ如ク至脊ノ發展著シキ英國 物乙ノ例ニツイテ見ルニソノ至脊
 上ノ隆昌ハ孰レモ商工業ノ發展ニヨル所ノモノニシテ農業ハ毫モ興
 隆知ラサル處ノモノナリ 故レハ一國ノ至脊ノ富強ヲ圖リソノ榮榮

ヲ必圖セント欲セハソノ國ノ至路上ノ最高政策ヲ商工業ニオキ商工業五國ヲ國是トシテ進コンテ希望スヘキモタルニ似タリ然ラハ農業ノ如キハコレヲ放置シテ觀ミルノ必要ナカレハキカ然リ吾人ノ信スル處ニヨレハ一國ニ於テ其ノ國ノ農業ヲ教ヘテ國民ニ食糧品並ニ工業上ノ原料及ヒ補助原料ヲ供給スルヲナクシテ他ヨリソレヲ補給スルノ道サヘ備ハルモノナラハ特ニ農業ノ保護維持ニ苦心スルノ必要ナカレハソノ國ハ寧ろ主カテ商工業ニ注キテ至路上ノ發展ヲ計ルテ寧ろ國民ノ安寧幸福ヲ爲セシムル所以ニ他ナラサルヘシコレ英國ノ採リタル方針ナリ然レハ然然タル至路上ノ見地ヨリセス本國社會の見地ヨリセハ如斯方針ハ國民ヲ幸福ニ導ク所以ニテラズ一國ニ於テ都會ト田舎トカ相當ノ程度ニ發展シ商工民ト農民トカ適當ノ比例ヲ以テ存在スルコトハ既ニ農業ノ社會的意義ノ條下ニ於テ述ヘタル處ニシテ英國ノ如キハコレカ爲メ正ニ社會的弊害ノ顯著ナラントスル狀態ニアルコトコレ又既ニ述ヘタル處ナリ至路上必ラスシモ農業ヲ必要トセスト

モ社會上農業ノ必要ハ緊切ナリ從ツテ如何ナル國ニアツテモ農業ノ維持ハ相當ニ必要ナリ一國ノ最高政策ハコノ矣ヲ顧慮シテ定メラレハク再命ノ農業政策ハコノ矣ヲ由來矣トシテコレヨリ生シ來ルモノト云ハサルヘカラス歐洲大陸ノ諸國ニ於テハ英國カ然タル商工立國主義ヲ採ルニ及シ農商ニ併立主義ヲ採リツ、アリコノテハ既ニ述ヘタルカ如ク上述ノ農業ノ社會上ノ意義ヲ顧慮シテ定メラレタル國家最高ノ政策ニ相違ナカレヘシト吾モ又其他ニ大ナル理由ノ存スルアリ國家主義ニ基ク國民食糧ノ自給自足主義コレナリコハ一國カ他國ト斷端ヲ交ヘタル場合食糧ヲ他國ヨリ仰キ居タリトセニカソノ補給ノ道ヲ絶タレバ、恐レアリ從ツテソレ等ノ場合ヲ考慮シ平常ニリ農業ヲ保護シ食糧ノ自給自足ヲ謀スルヲ必要ナリトナスモノナリ荷乙ノ如キハ、ハ、シ、理由ヲ以テ自國ノ農業ヲ保護シ來リタルモノニシテ然レハ、Piddinick 以來ノ政策タリシナリ然レハ斯ル軍事上ノ目的ヲ主タル理由トシテ時ニ一國ノ最高政策ヲ定ムルハ果シテソノ國ノ國民

幸福ニ導ヒク所以ナルカ
 一般至終政策上ノ最高目的カ国民ノ *Welfare* ヲ企圖スルモノナル限
 リ吾人ハ如斯軍事上ノ見地ヲ捨テ農業維持ノ理由ヲ社會上ノ見地ニ
 求メ其ノ見地ノ許ス範圍内ニ於テ農業ニ對スル政策ヲ定ムヘキコト
 ヲ主張セサルヲ解サルナリ
 扱テ然ラバ吾國ニ於テハコノ至善最高政策ヲ如何ニ定ムヘキカ
 上述スル如ク吾國ニ於テモ至善上ノ發展ヲ圖ルカタメニハ商工業ノ
 隆盛ヲ企圖スヘキハ極メテ望マシキナラト同時ニ社會上ノ見地ヨ
 リミテ農業ヲ維持セシムヘキ必要アリ 從ツテ健全ナル社會ノ發達
 ヲ圖ル限度ニ於テ農業ノ存立ヲ計ルヘキカ如シト吾人モソノ特ニ吾國
 ニ於テ顧リ見サルヘカラサル特殊ノ事情アリ ヲハ吾國民ノ米食主
 義ナルコトエナリ 而カモ其食糧ノ米タル吾國內地ニ生産スル内地
 米タルヲ必要トシ外國米ヲ以テスルヲ能ハサルナリ 從ツテ吾國
 民ノ食糧タル必ラス吾國內地ニ生産セラレザルモノナラサルヘカラ
 ス コノ與歐洲人カ小麦ヲ主要食糧トシ而モソノ小麦カ世界到ル也

ニ生産セシムモノタルト明ク越テ異ニスルモノナリ サレハ歐洲諸
 國ニ於テハ自國ノ農業衰微スルト虽モソノ食糧ヲ供給スヘキ國ハ亦
 果到レズニ存スルヲ以テソノ與等顧慮スルトコトナカルヘキト
 モ吾國ニ於テハ然ラス 吾國ノ内地米ハ他國ニ於テ生産セラレ外
 國米ト其ノ品質 風味ヲ異ニシ而シテ吾國民ハ食料トシテソノ特別
 ノ品質 風味ヲ有スル内地米ニ執着スルカ故ニ或カ國民ノ食料ヲ供
 給スヘキ農業者ヲ他國ニ求ムルヲ得ズ在リ故ニ我國農業衰微ニシカ
 故ニ食糧供給スヘキ 時人事情ニシテ吾國ハ國民ノ食糧ノ與コリシテソレヲ自給セサルヲ
 得サルノ境遇ニ存スルナリ
 即チ吾國ニ於テハ食糧問題上是非トモ農業ヲ保護發達セシメサルハ
 カラス 次測諸國ニ於ケル如ク一國ノ至善ノ隆昌ヲ計ルタメニハ商
 工業ニ主カヲ注キ農業ハ只社會ノ健全ナル發達ヲ計ル限度ニ於テニ
 レヲ保護スルノ必要アルニ止マルト甚ク事情ヲ異ニスルナリ
 吾國ニ於テハ此點タル至善上ノ見地ヨリ立カ發達ヲ計ラサルヘカラ
 ス 從ツテ吾國ニアツテハ政米諸國ニ於テ農業ニ對スル國家最高政

榮ニ関シ論議セラレツ、アトモ、ハソノ低コレヲ採リ用イ來ルコト
 ヲ得ス。コノ英ハヨク注意シテ誤ヲサルコト所要ナリ
 以上述フルカ如ク吾國ハソノ食糧ノ事情上農業ハ是非トモ發達セシ
 ムル必要アルモノニシテ固ヨリ商工業ノ發達ハコレ又甚ク必要ナリ
 ト言モソレニモ少ラス重要ノモノナルコトヲ知ラサルヘカラス
 然ルニコレマテ繰返シ述ヘ來リタルカ如ク農業ハ元來一國ノ至濟ノ
 發展トハ兩立スヘカラサル勢ニアルモノニシテ吾國商工業力隆昌ヲ
 求ダセハソレダケ農業ハ衰微セサルヲ得サルヘク以テ又強テ吾國農
 業ヲ發達セシメントセハソハ吾國ノ農業國ノ程度ニ止メ商工國ハノ
 發展ヲ阻止スルモノニ他ナラスシテ現代至濟ノ趨勢ニ反シ吾國至濟
 ノ發達上甚ク面白カラサルモノナリ、茲ニ吾國至濟政策上ノ難關ハ
 存スルナリ而シテコノ一々元來至濟上吾國カ他國ニ比較シテ一種ノ
 弱兵ヲ藏スルモノト觀察スルヲ得ヘク而シテ其ノ基ク他國民ノ食
 料問題ニ在スルカ故ニ吾國民ノ食料ヲ他種ノ穀物ヲ以テスヘシト主
 張スル者アリ例ヘハ内地米ニ比較シテソノ栽培地域ノ大ナル外國米

常用食物トナシテ可ナリトナシ或ハ又改米人ノ如ク小麦ヲ以テス
 ヘシトナスカ如キコレナリ
 斯ク國民ノ食料変更セラルヘキニ至ラハ上述ノ至濟政策上ノ難關ハ
 取リ除カルニ至ルヘク甚ク希望スヘキナリト言モ元來吾國民ノ
 食料タル數千年來ノ慣習ニシテ吾人ノ遺傳的ニコレニ執着スルカ故
 ニ一朝一夕ニシテコレヲ改ムルコト不能ナルヘシ
 獨乙ニ於テ西歐諸國カ始メテ移入セラレ一般ニ日常ノ食用ニ供セヨル
 一ニ至ルマテ的一世紀ノ年月ヲ要シタルコトナレハ吾國民ノ食料ノ
 変更ニハコレニ劣ラサル日時ヲ要スルヲハ推察スルニ難カラス
 然リテ吾人斯種ノ問題ノ解決ニ努カスル必要アルハ勿論ナリト言モ
 ソハソノ効果ヲ永遠ニ期待スヘク現時ノ農業問題ノ解決ニハ吾國農
 業ノ至濟上ニ於ケル地位ヲ知悉シ又之カ吾國至濟ノ發達上如何ナル
 關係ニアルカラ研究シ然ル後適當ノ諸種ノ政策ヲ決定セサルヘカラ
 スソノ至濟上ノ干係ノ單純ナラサルハ此ニ肝記スルコト必要ナリ
 以上農業政策上ノ根本問題ヲ大畧述ヘタレバ以下農業上各相ノ問題

ニ移ラサルヘカラス
 然ラハ如何ナル順序ヲ以テ研究スルヲ便宜トスヘキカ
 先ツ農業ハ
 生産的業務ニシテソノ生産ヲ如何ニ指導スヘキカハソノ第一ノ問題
 トナラサルヲ得ス
 ソハ次ヲ農業上ノ生産物ハ消費者ノ消費セラルモ、モナルカ
 元來農産物ノ消費ハ農生産者對農産物消費者ノ對立ヲ生シ其間商業機關ノ介入ヲ必
 要トス
 而シテコレヲ社會至齊上ノ見地ヨリ見ルニ有ク国民間ニ於ケル農業
 上ノ利益分配ニ關スル事情ニシテ農生産ノ効果ヲ最モ良好ナラシム
 ル所ノモノニ他ナラス
 従ツテ吾人ハ一國ニ於ケル国民ノ幸福ヲ希望スルカ
 タメニ農業ヲ如何ニ指導スヘキカノ見地ヨリシテ農業上ノ生産ヲ論シコレヲ農業生
 産政策トナシ又一國ニ於ケル農業生産ノ結果得タルモノヲ如何
 ニ分配セハ国民ノ幸福ヲ企圖スルコトヲ得ヘキカノ見地ヨリシテ農
 産物ノ処分方法ヲ論シコレヲ農業分配政策トナサントス而シテマタ

別ニ農業ハ土地ト干係スル處甚タ多クコトハ土地制度ノ問題ト
 干渉スル処アルカ故ニコレヲ農業土地制度トシテ研究セシトス
 以下其ノ順序ヲ以テ謹究セン

第三編 農業生産政策

第一章 総説

農業ヲ如何ニ指導シテ、ソノ生産ノ効果ヲ増シムヘカニ付テハ、固ニヨリ、ソノ事情等ヲカラサルヘシ。従ツテ吾國ニ於ケル状態ヲ中心トシテ、諸外國ニ於ケル諸般施設、制度、方法等ハコレヲ参考トシテ付説スルニ止マルヘシ。吾國ニ於テ農業ノ保護育成ヲ計ルヘキ必要アル所以ハ既ニ述ヘタル如ク也。従ツテ農業生産上ノ政策モソレヲ基本トシテ設テサレハカラス、而シテソノ第一ニ論セザルヘキハ農業生産上ノ重大ナル要素ヲナセル土地ニ関スル問題ナリ。コハ生産上ヨリ見タル土地問題ニシテ農用地論コレナリ、而シテ農用地ハ一國ノ国民経済上ヨリ見レハ耕地政策ノ程度如何ノ問題ナルカコレヲ生産者ノ私経済上ヨリ見レハ経営耕地大小ノ問題ニシテ農

本ノ精度ト相関係スル也アリ。又農用地ハソノ面積ノ向題ノニナラ
 スソノ肥沃ノ度合セ甚ク重要ナルコトニシテ即チ土地改良ノ向題ヲ
 茲ニ必要トスル也。コノ向題ハ肥料向題ト相関係スル也アリ。第一
 一畝セラルヘハハ農生産ノ本體ヲ為スヘキ農業ノ種類如何ノ向題也
 農業ノ種類トシテ農耕ニハ作物トシテ水田作物アリ、畑作物アリ、
 又畑作物ニ存テモ蔬菜、果樹、特用作物等種々アリ。又農耕ノ他牧
 畜アリ、養蚕アリ。国民經濟上並ニ私經濟上ヨリコレヲ見テ或レヲ
 最も有利トスルハ向題ヲ生ス。第三ニ農業資本ノ向題アリ。農業全
 融論コレナリ。第四ニ農業上ノ教育向題アリ。農業ノ進歩ヲ期待ス
 ルニハ農事教育ノ關係スル也。第五ニ産業組合ノ向題アリ
 コハ農業生産者相互結合ヲ以テ生産ノ効率ヲ増進セシムル組織ニ
 関スル向題コレナリ。最後ニ農業生産上ヨリ見タル自作農業ト小作
 農業トノ向題アリ。孰レカ一国ノ農業ノ繁盛ニ利益ナルカ、コレヲ
 究メサルヘカラス。以上ヲ以テ農業生産上ノ向題ハ悉ク。以下ソレ
 ヲ述ヘン。

大々

第二章 農用地論

一國ノ農業ニ利用セラル、土地力農用地ナリ。農用地ヲ論セント
 欲セハ、一國ニ於ケル土地利用ノ状態ヲ見サレハカラス。而シテ土
 地利用ノ向題ヲ研究スルコソ、ノ見界ヲ農業ノミニ限ル能ハス、或
 土地ノ現在ノ利用カ完全ナリマ否マヲ明ニ、ル為メニハ一切ノ生産
 部面ニ亘リ比較ヲ為サ、ルヘカラス。例ハハ繁華ナル市街地ヲ畑
 トスルハ利用ノ進歩ニ非ルヘク、又改良上利益アル池沼ヲ埋立テ、
 田トナスハ必ス多モ感心スヘキコトニ非ルヘン。尚又ニ進ンテハ石油
 一採掘精製ノ為メニ大面積ノ美田ヲ荒ス得夫如何、又三間中ノ道路
 ハ必要ナレトシテ五間中トシテ田畑ヲ潰スハ土地利用上ノ損失ナリ
 又如何ノ如キ、コレハ時ニ度ニ度ク判断ノ材料ヲ水メテ考察セサル
 へカラス。而シテ吾國ニ於テハ土地利用ニ関スル正確ナル統計存セ
 サルカ故ニ之レヲ詳細ニ論シ進ク以下吾人ノ述ヘント欲スルハ直接

大七

田畑ニ利用セラレツ、アル耕地ニ限ラサルヲ得サル也。今此等耕地ヲ論スルニ当リ述フヘキハ土地ヲ農用ニ利用シソノ目的ヲ充テシムルカ爲メニ採ルヘキ方法ナルカ、ソレニニツノ方面アリ。一ハ一國ニ於ケル耕地面積ノ問題ニシテ、コレヲ國民經濟上ノ見地ヨリ見レハ耕地拡張、開墾等ノ問題ヲ生ラズルヘク、又コレヲ私經濟ヨリ見レハ農家ノ耕作スル經濟耕地幾何ナリク、同題トナレ。一ハ耕地全一面積ノ地積ヲ如何ニ有效ニ利用スヘキカ、同題ニシテ、コレヲ國民經濟上ノ見地ヨリ見レハ土地徵率亦即ニ關係スルモノトナレハク、又コレヲ私經濟上ヨリ見レハ肥料問題ト直接相通スルモノトナレハシ。

六八

第一節 耕地ノ面積

吾國ノ耕地總面積ハ大正九年末ニ於テ八、〇八五、二七六町歩ニシテソノ中田畝別ハ三、〇二三、九七四町歩、畑畝別ハ五、〇五二、三〇一町歩

也。今コレヲ國土ノ總面積ニ比較スルニホギンノ一五、八〇%ニ相當ス。今コレヲ改米重要諸國ト比較スルニ、ソノ耕地カ國土總面積ニ對スル割合ハ

| | | |
|----|-------|--------|
| 英 | 66.3% | (1912) |
| 独 | 47.2% | (1913) |
| 伊 | 45.7% | (1916) |
| 日 | 45.9% | (1910) |
| 露 | 40.3% | (1916) |
| 和 | 27.4% | (1917) |
| 瑞 | 26.0% | (1917) |
| 米 | 24.2% | (1917) |
| 露 | 19.2% | (1911) |
| 北米 | 18.4% | (1910) |

ニシテ吾國ノ國土總面積ニ對スル耕地面積ノ割合甚ク小ナルヲ知ルコトヲ得ヘシ。元來吾國ハ山岳國ニシテ平地極クテ狭小ナレハ耕地

六九

トテ利用シ得ヘキ面積ノ狭小ナルハ、寒如スルニ準カテサレバ
今ソノ全面積ニ対スル割合ヲ歐羅巴ノ山岳國タル瑞西ト比較スルニ
ソレニ及ハサルコト甚ダ遠ク。從ツテ吾國ニテハ農用地トシテ
ソノ土地利用ノ程度甚ダ低ク見サルハカラス。吾國農業ハ吾國民
ノ衣食主義ナル關係上、食料ヲ自給スルニ便ナク有スルモノナルハ、
斯ク耕地利用程度低位アリテハ將來ソノ收率ヲ果スコトヲ得サルハ
明カナレハ耕地面積ヲ拡張セシムルコトハ甚ダ必要ノ事ナリト云ハ
サルハカラス。而シテ耕地利用程度斯ク低位ナルハ、コレト同時ハ
將來耕地拡張ノ余地尠存スルモノナルコトヲ暗示スルモノナリト云
ハ。今此等ノ關係ヲ明ニスル為メ耕地ノ經濟上ノ性質ニ付テ述ブレ
ルベシ。

農業ノ生産要素ノ一タル土地ニ付テハ、ソレカ元來自給的存在物
ナル事ニ注意セサルハカラス。從ツテ土地ハ性質ニコレヲ増減セシ
ムルコトヲ得ス。換言スレハ土地ハ有限ナリ。又土地ノ面積ノ諸部
分ノ生産力ニハ優劣ノ差アリ。全一地球ヲ觀スルモノハ非ハテテ
處下ルベシ。

肥沃ノ程度ニ差異アリ。サレハ生産上ハ重要度ニ相違存スル也。
斯クノ如ク有限ニシテ、又ソノ部分ニ優劣ノ差アルト共ニ、土地ハ
又收穫遙減ノ法則ニ支配セラルハ、故ニ、今農業上土地利用ノ狀態
ヲ考フレハ水ノ如ク順序ヲ以テセラル、コト、ナルハ、先テ第一
ニソノ生産ニ費用ヲ要スルコト。最も小々最優等地ハ耕作セラルハ
シ。而ツテ更ニソノ生産ヲ増加セシメントセハ、土地ハ收穫遙減ノ
法則ニ支配セラル、結果全一面積ニテ使用シテ、全率ノ生産費ヲ以
テ無限ニソノ生産ヲ増加セシムルコトヲ得サルカ故ニ、次に優等地
ニ向ツテ、ソノ利用ヲ開始スルニ至ルハ、更ニ進ンテ又ソノ生産
物ヲ増加セシメントセハ、マカテ生産費ヲ要スルコト少ク、優等地
ノミヲ使用シテハ不足ヲ生スルニ至ルハ、故ニ生産費ヲ要スル事
大ナル劣等地ノ面積ヲモ使用スルノ止ムヲ得サルニ至ル也。サレハ
一國ニ於テ現在幾何ノ面積ノ耕作セラレ、又如何ナル程度ノ生産力
ヲ有スル土地迄耕作セサルアルカハ大体ソノ生産物ノ價格並ニ生産
費ノ關係ニヨリテ決定セラル、コト、ナルハ、ソノ換言スレハ一國ニ

七二
於テ一定ノ時期ニ迄ケル耕地面積ハソノ際ニ於テソレヲ耕作シテ收
支償フハモ生産力ヲ有スル範圍内ノ土地ニ限ラル、コトハナルハソ
從ツテ人口稠密ナル國ニ於テ土地ノ面積並ニ生産力カ農業上尙不依
用セラレヌシテ残存スルモノアレハソノ耕地ハ *marginal of*
cultivation)ニアル土地カ又ハソレ以下ノ土地ナラサルハカラ
ス。故ニ他ノ事情ニシテ変化スルコトナケレハ、ソノ國ノ耕地面積
ハコレヲ拡張セザムルコト不可取ナリト云フヘク、從ツテ耕地拡張
ヲ實現セシメントセハ、更ニ耕地以下ノ土地ヲ耕作セシムルニ及レ
タケノ何等カノ事情ノ変化ヲ求サシムル事ヲ必要トス。吾國ノ如ク
人口稠密ニシテ、耕地一定面積ニ對スル人口數ノ割合世界第一(註)
ニシテ、而モ主要食料ハ全部國內ノ供給ニマツカ如ク國ニアツテハ
開拓シテ收支償フヘク土地ハ既ニ開拓シ盡サレタリト云フベク、木
開墾地トシテ残存セル土地ハ耕地以下ノ土地ナリト云ハサレハカラ
ス。故ニ於テ吾國ニ於テ、ソノ現状ノ低ク以テハ耕地拡張實現セシム
ルコトヲ得ヌ。而モ吾國ニ於テ耕地拡張ノ必要アルコトハ云フ返モ

十ヶレハ、ソノ拡張ヲ實現セシム得ル丈ケノ事情ヲ作成セシムル事
必要也。吾國ニ於テ從來耕地拡張政策トシテ、開墾ノ場合一定ノ年
期ヲ限リテ当該地ノ地租ヲ減免シ(地租条例、耕地整理法)、又大
正八年ニハ開墾助成法ヲ制定シ、開墾事業ヲ開始シタル者ニハ相當
期間ソノ投下資本ニ對シ利息ヲ補助スル意味ヲ以テ一定ノ保率ニ基
キ助成金ヲ事業者ニ交付シツヘアリ。然レ此等ノ政策ハ耕地拡張
政策トシテ不可也。何トナレハ前述セル如ク吾國ノ未開墾地ハ耕地
以下ノ土地ニシテコレカ開墾ニ對シテ助成金ヲ交付スルカ如クハ依
ラニ收支償ヒ難ク劣悪ナル土地ヲ補助ニヨリ人為的ニ耕地以下ノ
ノトナヌニ他ナラス。從ツテコレ等ノ劣悪地ハソノ補助金ノ得ラル
、同ハ開拓シテ收支償フコトナルヘシト雖、ソノ補助ノ終了ト同時
ニソレ等新開地ハ農民ハ非薄ナル困難ニ陥ルモ、ソノ補助金ハ農民
得ヘシ。コレヲ因民經濟上ヨリ見ルハ、經濟上不合理ナル劣悪地
ヲ開墾シタル爲メ、開墾者ノ受クヘカリシ損失ヲ、補助金交付者カ
代リテ負担ラタルモノト見ルコトヲ得ヘク、之等ノ補助金ハ又軍十
七二

今後大トナリ、而シテソノ結果得ル処ノモノハ、収支償フコトヲ得ル
 ル土地ヲ離セル農家ヲ討テニ生セシムルニス。又サレハシ、定メテ
 松資、不可能ナルノミナラス、ソレカ爲メ却ツテ悪影響ヲ生スル事
 十レ也。従ツテ耕地拡張ニハ是非トモ、此等耕地以下ノ分等ニテ
 開拓シテ優ニ償フ丈、新シキ事情ヲ生セシムルコトニヨリテ、ソノ
 目的ヲ達スルコトノ爲サ、ルヘカラス

（註）耕地百町歩当リ人口比較表

| | | |
|---|---|------|
| 日 | 大 | 914人 |
| 和 | 大 | 751人 |
| 英 | 和 | 614人 |
| 日 | 英 | 565人 |
| 瑞 | 日 | 367人 |
| 伊 | 瑞 | 275人 |
| 独 | 伊 | 266人 |
| 歐 | 独 | 151人 |

丁 米 116人
 北米 87人

然ラハ耕地以下ノ土地ヲ開拓セシムルニハ如何ナル事情ヲ生セシ
 ムルコトヲ必要トスルカ。ソノ主タルハ農産物ノ價格ヲ騰貴セシム
 ルカ、或ハ又農業技術ヲ進歩セシメ生産費ヲ低下セシムルカ、或レ
 カナラサルヘカラス、而シテ農産物ノ價格ハ漸次將來騰貴スルニ至
 ルヘシ、殊ニ吾國主要食料品タル米ノ價格ハ特ニソノ感心傾向ニテ
 リ。従ツテ米ノ期間ニ亘リテ見ルニハ耕地ハ漸次低下セラレ、土地
 ハ漸次開索セラレ、至ルモノナルヘシト云、一面此等主要食料品
 ノ價格ヲ過度ニ騰貴セシムル事ハ好マシカラサル事ナレハ、コレニ
 ヲリ耕地ノ低下ヲ期待スヘカラス、従ツテ生産費ヲ低下セシムル事
 ニヨリ耕地ヲ低下セシト、耕地拡張ヲ期スルコト、セサルヘカラス
 即チ耕地拡張ヲ計ル爲メニハ農業技術ノ進歩、農家経営法ノ改善ヲ
 劃シ、コレヲ適當ニ指導シ以テソノ生産費ヲ低下セシメ、現在ノ劣
 等地タル未開墾地ノ開拓ヲ可能ナラシムルコト、爲スコト所要也。

農業技術並ニ経営ノ改善ハ吾國耕地面積拡張ノ爲メ甚ク重要ノ事ナリト云ハサルヘカラス

吾國農業ハソノ種類多ク、甚ク多岐ナリト云フモノ中心ハ米ノ栽培ニアルコト云フ迄モナシ。米ハ吾國ニ於テ最モ重要ナル作物也。農民土着ノ要件ハ古來ヨリソノ土地カ米作ニ適スルカ爲メヨリテ求セラレタルモノニシテ、田ハ吾國ニ於テ最大ナル農用地ナリ。然レテ田ヲ作ラサルハ費ニ非レカ如ク觀念ハ廢テ一般ノ農家ノ頃ヲ支配セル處ノモノニシテ、コレカ爲メ水利ノ便ヲ得ルハ事ツテ開拓セラレタレバ、水田トナシ難ク土地ハ凡ク利用ノ途ヲ講セフベカラズモノナリ。吾國ノ耕地面積カ他ノ文明國ニ比較シテ、ソノ同上全面積ニ對シテ割合ノ頗ル低位ニアル。ソノ原因ノ一半ハコレカ爲メナレバシ。然レレバ今メ灌漑ノ便アル水田好適地ハ既ニ開拓シテハ、其ノ増産ヲ爲サント欲セハ、水田ヲ以テシテハソノ生産費ノ增加ヲ免レサルヘク、ソレカ故ハ容易ナラサルヘシ。従ツテ吾國將未ノ食料生産ハ水田本位ヲ改メテ畑本位ヲ以テ進マサルヘカラス。

吾國ノ耕地ハ水田ヲ以テシテハ既ニ耕境ニ到達セリト云、畑ニ於テハ然ラサルヘシ。コレ蓋農業ノ中心カ水田ナリシカ故ニ他ナラサル也。而シテ現在食料生産ノ爲メニハ水田ヲ以テスルヲ有利トシ、畑ヲ以テスルハ不利ナリト云、稲ノ如ク環境ニ適應性ニ富メル作物ニ付テハ畑ヲ以テシテヨク水田ニ劣ラサル成績ヲ挙げタルコト、必スモ不可能ナラサルカ故ニ、此方面ニ於ケル農業技術ノ改善望マシメモノナレト全時ニ、畑ニヨル食料生産可能ナルニ至ラハ、機械其他ノ應用ハ水田ヨリモ容易ナルヘク、故ニ更ニ生産費ノ節減ヲ見ルコトヲ得ヘシ。水田ハ現在ソノ自營集約ノ程度ニ達シ、コレ以上技術ノ改良ヲ見ルコト甚ク困難ナリ。吾國ノ農業カ水田ヲ固守スレ限リ耕地擴張ハ至進ナリト云フヘシ。

最後ニ注意スヘク事ハ現在ノ未耕地中耕境以上ノ優良地ノ存在スル事アルヘシ。然レレバ同上廣大ニシテ人口稠密ナラサル地ニ非レバ、之レ等ノ土地カ開拓セレヌヲ成存スルコトハ想像スル事得ヤレバ何等カ特別ノ事情ニヨリテ斯ル事實ヲ見ル事ナクニ非ス。例

ハ官有林野タリシカ為メニ開拓スルヲ許シレリシカ如ク或ハ交通又ハ水利ノ關係上ソノ土地自身ハ優良ナルニ開拓スルコト不可取ナリシカ如クコレ也。斯ル場合コレ等開拓ヲ妨ケタル事情ノ除去ニ努ムルコト所要ナリ。

尙耕地擴張ニ付テハ間接的政策トモ稱スヘキモノ必要ナリ。現在ソノ土地ハ木毛ナリト云、將來開墾適地タラシムヘキカ爲メテハ此ノ目的ニソレヲ利用スルコトナリ、即直接出畑ニナスニハ非レバ一層畑畑ニ始シ島々状態ニ變入ルコトヲ云フ。白耳蕨等ニ於テ行ハレタル砂礫ヲ草原トナス改良或ハ丸山ニ墾カスル事業、或ハ又大原野ニ水路ヲ通スガ如クコレニシテ發ク行ハルヘキ事ナリ。

第二節 經營耕地

前節ニ於テ述ハタル耕地面積ニ関スル事柄ハ主トシテ國家經濟上ノ耕地如何ニ関シタルモノナルカ以下述ヘント欲スルハ、私經濟上ニ

於ケル經營耕地ノ大小如何ニシテ、ソノ幾千ノ大サヲ以テスルカ邊當ナルカニ関スル事柄也。元來私經濟上ニ於ケル耕地ニ関シテハソノ方面ヨリコレヲ研究スルコト必要ナリ。即土地經營ノ關係ヨリ見タルモノト、土地所有ノ關係ヨリ見タルモノトスル也。土地所有ノ關係ヨリ見タルモノハ土地分配ノ問題ニシテ農業土地制度論並ニ農業分配政策ニ於テ論スヘキモノ也。即大中小ノ地主ニ関スルコト並ニ地主・小作ニ関スル事、コレ也。土地經營ノ關係ヨリ見タルモノハ以下述ヘント欲スル事柄ニシテ即農場ノ大サノ問題ニシテ、如何ナル大サノ土地ヲ以テ農場ヲ經營スルコトカ一回ノ生産上ヨリ見テ希望スヘキコトナルカコレ也。即土地所有關係ヲ無視シテ又單ニ農場ノ大サノミヲ見ルモノ也。コノ問題ハ必然農業ノ粗放・集約ニ関係シ来ルモノナルカ故ニ、農業ノ精度ニ付テモコレヲ研究セサルヘカラス。

以上述フル如ク耕地ヲ經營上ヨリ見タル場合ト所有關係ヨリ見タル場合トハ全然別個ノ問題ヲ形成スルモノナリト云、實際コノ二ツ

ノ関係ハ相互密接ノ関係ニアルモ、也。従ツテ一畝ニゴノ阿原ハ混
 全セラレツ、アリ殊ニ他乙ノ如ク耕地所有者ハ白ラソノ土地ヲ經營
 スルヲ例トシ、小作農甚ク少クソノ耕不面積ハ全耕地ノ僅キトニシ
 ヲ白ムルニスス大休ハ耕地ノ所有トソノ經營トハ畧ク一致セルヲ
 以テ特ニゴノ契ニ関ラ嚴重ニ區別セラレサルヲ常トス、然レ尺吾國
 ニアリテハソレト事情ヲ全ク異ニシ、大正九年末ニ於テ田ノ五一％
 並ニ畑ノ四八％ハ小作ニ付セラレツ、アルモノニシテ、ソノ耕地ノ
 過半ハ所有者ヲ經營スル契ニ非ル也。即耕地ノ所有ト耕地ノ經營ハ
 別個ノ事ニ存スルナリ。従ツテ土地所有ノ大小ノ分布ト經營耕地ノ
 大小ノ分布狀態トハ全然一致セス。サレハ他乙ニテアリテハ耕地所有
 集中ハコレニ伴ツテ大農ノ發生ヲ見ルニ至レ尺吾國ニ於テハ土地
 所有集中ノ傾向アリト云、ソレハ爲メ竟ニ大農ノ出現ヲ見サル也。
 (註)故ニ土地ノ所有ト土地ノ經營トハコレヲ區別シテ論スヘシ
 (註)吾國ニ於テ五反以上五六町程度迄ノ地主ノ數ハ大体ニ於テ
 年々減少セルニ及シ、五反未満及十町以上ノ地主ハ著シク

増加セリ、コレ即五反以上一三町ノ耕地ヲ所有スル農家及
 十町未満ノ小地主ハ漸次其所有地ヲ人手ニ渡シ、五反未満
 ノ零碎ナル地主ニ墮ツテ行クト云、他面コレ等ノ人々ノ手
 當セル土地カ漸次大地主ノ手ニ兼併セラレツ、アル事ナ
 スモノ也。即土地所有集中ノ傾向、大地主ノ増加ノ勢ニ
 ル事ヲ契メ得ル也。及之農家ノ經營スル耕地ノ大小ノ規模
 ヲ見ルニハコレノ狀態ハ及テ五反未満ノ耕地ヲ耕作スル
 農家並ニ三町以上ヲ耕作スル農家ノ數ハ年々漸減ノ傾向ヲ
 示スト契ニ、五反以上三町未満ノ耕地ヲ耕作スル農家ハ漸
 増ノ趨勢ニアリ、五町以上ノ比較的大ナルモノ増加シツ、
 アリト云ハ主トシテ北海道ニ於ケル農家ノ數ノ増加ニ感
 シモノニシテ、所有狀態ト經營規定ノ狀態トハソノ傾向ヲ
 一ニセス。耕地ノ所有ト經營トヲ別ニ論スヘキモノナリコ
 トコレヲ以テ是レモ明ナルヘシ

第一款 經營ノ規模

農經營ノ規模トハ農場ノ大小ヲ云フモノニシテ、概言セハ大農、中農、小農ト區別也。大農、小農ノ範圍ヲ定ムル事ハ甚ク困難也。ソノ如何ナル標準ヲ以テコレヲ區別スハハ區々トシテ一致セサル也。今ソノ區別ノ標準ト爲スニ足ルト思考セテ、モノヲ考テ、レハ如キ如キ數種ヲ考テコレヲ得。

- (一) 農家ノ耕作區別、 (二) 農家ノ耕作區別、 (三) 農家ノ所有耕地及別荘ニアルカ、 (四) 農家ノ耕作區別、 (五) 農家ノ所有耕地及別荘ニアルカノ標準ヲ以テ經營規模ノ大小ヲ分ツ標準トスルコト大々相當ノ理由存入ヘシト云、ソノ何レモ農業經營ノ規模ヲ完全ニ認ムルモノト云ヒ難シ。第一ノ耕作區別ニヨルテハ、放テハ土地ノ生産力ニ蓋アルコトヲ見スシテ全一面積ノ農場ナリハ、農業經營力粗放ニテモ

集積ニテモ亦自作ニテモ小作ニテモ適々ニシテ今規模ノ經營ト見做スノ欠矣アリ。第二ノ耕作區別ニヨレハ多小之ヨリ精強ナルヲ得ハ、モ作物及別カ年々變化シ得ル性質ノモノタルノヨリ又、高作物ノ種類其他ニヨリ經營ノ規模ニ差ヲ生ヘルコトヲ察メテ、欠矣アルヲ免レヌ。第三ノ所有耕地及別荘ニヨルハ第一ノ場合ニ述ヘタル大矣ヲ有スル他更ニ所有耕地ト經營耕地ト一致セサルコト既ニ述ヘタル如クナレハ之ヲ採ルコトヲ得ヌ。第四ノ自作、小作ニヨルモノハ吾國ニ於ケル實狀、自作農ヲ以テ中以上トシ、自作兼小作及小作ヲ以テ小農ナリトスル狀況ニアルヲ觀ニレバ畧ホ正確ヲ得タリト爲ヌカ如キモ元來自作必スシモ小作ヨリ大經營ナリトハ言ヒ難シ。第五ハ *Ranches* ヲ始メトシ、吾國ニ於ケル多クノ學者ノ採用スルモノニシテ、ソノ *Ranches* ノ又テ處ニヨレハ、農場ノ主人カソノ家族ト共ニ農場内ニ於ケル労働ヲナシ、他ヨリ労働者ヲ雇入レヌ而モソノ勞力ニ余命ノナキヲ小農ト云ヒ、農場ノ主人カ農場ノ管理ヲナスト全時ニ農場内ニ於テ労働ノ補助ヲナシ前カモソレニヨツテソ

八四
地位品格ヲ授セサルノ状態ニテ中農ト云ヒ、大ニ教育アリ社
会ノ上段ニ立ツテ農場ノ管理ノニニ全カヲ注ケルハ大農ト云フ。而
シテソノ大農ノ経営更ニ大トナリ管理上該多ノ補助ヲ要スルハコレ
ヲ大農ノ大トナスヘシトス。コノ區別ハ比較的世帯ナリト云ハレ
コレ亦家族ノ大小、役畜ノ有無、農具ノ精粗、年内労働力ノ分配
等ヲ觀ミハル又イリ。例ヘバ東渡農小敷ニシテ年内労働力ノ分配宜
シカラズ仕事ノ一時的ニ幅狭スルカ如ク場合ニハ小經營ニテモ備勞
力若ク必要トスヘシ。第六ハ農業ヨリノ所得ニヨリ他ノ生業ニ依
コトナクシテ生計ヲ營ミ得ルモノヲ小農トシ、其所得中等生業ノ所
得ニ等シクモノヲ中農トシ、ソノ所行上等社会ノ所得ニ匹敵スルヲ
大農トスルモノナリ。コレ亦頗ル曖昧ナリト云ハサルハカラス。之
ヲ要スルニ農業經營ノ規模ノ大小ヲ定ムルハ頗ル困難ニシテ完全ト目
スヘキ標準一モ存セス。從ツテコレ等幾多ノ標準ヲ併用シテコレヲ
定ムルコト必要ナリ。吾人ハ今吾國ノ現狀ニ觀ミ、大中小農ヲ次ノ
如ク定義セント欲ス。耕作ニ使用スル土地ノ面積小ニシテ其土地ヨ

八五
リ生スル收益モハク從ツテ單ニ其收益ノニニヨリテハ之カ經營者ハ
自己一家ノ生計ヲ支フルニ足ラス。從ツテ此ノ農業雇人トナルカ一
又ハ農業以外ノ所得ニ從事シテ收入ヲ得之レニヨリ其生計ノ補助ヲ
與サレル程度ノ小規模農業ハヨク農業ノニニヨリテ自立スル農業
ニ非ス。從ツテコレヲ小農ト稱シ難ク斯クノ如クハコレヲ小農以下
ノ過小農ト稱サレ得ス。而シテ其耕作ニ使用スル面積ハ過小農
ヨリハ稍大ニ、ソノ土地ヨリ生スル收益モ從ツテ多ク、コレハコレ
カ經營者ハ敢テ他ノ所得ニ從事シテソノ收入ニヨリ生計ノ補助ヲ爲
ス必要ナク程度ノ農業ニヨリテコレヲ小農ト稱スルコトヲ得ハ
シ、然レモコレ等小農ハ其經營規模ハ未ダ大ナラズ、ソノ收益モ充
分ナルモノニ非レハ、ソノ經營ニ他人ヲ雇ヒ入ル、必要ナクモ在レ
タル、余裕モ存セス、從ツテ多クノ場合經營者ハ其家族ト共ニ農業
上ノ労働ニ服スル也。更ニ中農ハ小農ニ比シ其經營ノ規模稍々大ニ
之ニ使用スル耕作面積並ニソノ土地ヨリ生スル收益、亦其ニ大
ナルモノ也。從ツテソノ農業ノ經營ノ為メニハ必ク他ニヨリ労働者ヲ

雇入レテ之レカ補助ヲ為サシムル必要アリ、然レ共其労働者ニ雇
 ヒ入ル、目的ハ肉体的労働ノ補助ニ在ルモノニテ指揮監督ヲ為
 ス事ハ経営者自ラ之ヲ更担ヌ、又雇ニ指揮監督ノニトラス雇ネテ肉
 本的労働ニモ従事ス、而テソノ経営者ノ所得ハ本々中等社会ノ所
 得ニ等シクモノナリトス、大農ハ中農ニ比シ其規模更ニ大ニ之ニ依
 用スル耕作面積並ニソノ土地ヨリ生スル收益ノ額モ共ニ最モ大ニシ
 テ、経営者ハ指揮監督ノ為メニ自己ノ全カヲ尽シ肉体的労働ニ従事
 スルノ余裕ナク、故ツテ肉体的労働ハ又テ之ヲ雇傭労働者ニ任ス
 ルモノ也、又大農中農ニ大ナルモノニ至リテハ指揮監督ノ端々ニ他
 人ヲ雇ヒ入ル、コトアリ、而シテ之ヨリ生スル所得ハ上等社会ノ所
 得ニ該当シ、之ヲ経営者ハ其使役セル肉体的労働者トハ社会ノ階級
 ヲ異ニスルカ如ク思考セラレハラ常トス、

扱大中小農ヲ以テ以上ノ如クシトセハ農業ノ生産上、大農ヲ可トス
 ルカ、小農ヲ可トナルカハ茲ニ先ツ論ヒラレサレハカラス、然ルニ
 此等ノ議論ニ對シテハ本者尙未ダ一定セル論アルヲ聞カス、蓋此ノ

尙懸ハ土地ノ自然の狀態土地所有及ニ經營組織上ノ沿革人口ノ狀態
 農民ノ精神、技術、資本金、農作物ノ種類等ニヨツテ決定セラル、
 モノニヨツテ、一國ノ自然上、社会上、經濟上ノ諸狀態ノ異ナルニ依
 ヒ、ソノ結論ハ各々異ナリ来ラサレ得サレカ故也、又一國ニ於ケ
 ルノミナラス一国内各地方ニ於テモ亦大々異ナラザルヲ得サレハ
 從ツテ之ヲ一概ニ論結スルコトヲ許サス、爾又ノ具體的事柄ヲ觀察
 シテ復始メテ決定セラルヘクモノ也、大体ニ於テ土地広クソノ
 割合ニ人口小ナク、又農耕ニ要スル労働力常ニ供給不足ナル狀態ノ
 國並ニ地方ニ於テハ大農經營一般ニ行ハルヘク、又人口稠密ニシ
 テ労働者多クテ潤沢ニ又ソノ國ノ經濟狀態進步セル場合ニハ農業經營
 ハ兼納トナリ、概シテ大農經營ヲ不利トシ小經營ヲ以テ利益トスル場
 合多クモノ也、例ハ北米合衆國ニ於テ大農盛ナルカ自耳、下林
 等ニ於テハ小農カヨク行ハレカ知コレ也、然レ比一國ノ人口稠
 密ナリト雖ソレ等ハ主トシテ商工業方面ニ向ヒ農業ニ従事スル者少
 ナリ、且又經濟上アツル莫ニ於テ農業ヲ重要視ヒサレコト、カノ

ハハ
英國ノ如ク國ニアリテハ小農ヨリハ寧ロ大農主トシテ行ハル。斯ク
如ク國々ノ事情ニヨリテソノ状態ヲ異ニシソノ大小就レテ可トス
ルカハ國ニヨリ結論ヲ異ニセサルヲ得サルヘシ。欲テ吾人ハ茲ニ農
業ノ生産上ノ特質ニ顧ミテ先ツ抽象的ニソノ大小就レテ可トスルカ
ヲ比較研究シ、次テコレヲ吾國ノ米農ニ鑑ミテ結論ヲ下サントス。
農業ハ元來企業トシテ個人企業ニ道ヲ、且又小経営タルヲ有利ト
スルモノナルヲ既ニ結論ニ於テ述ヘタル也。而シテ大小ノ経営
規模ノ程度ハ各國ソノ範圍ヨリ全ク異トス。例ハ大農ヨリ
小農ニ移リツ、アレノ状態ニ存シ、商工業カ大経営ニ集中セラレツ
ツアレト雖ルモ農ヲ異ニスルモノナルコトヲ述ヘタリ。例ハハカノ大
農國タル北米合衆國ニ於テモ大農ヨリ漸次小農ニ遷移セテトスルノ
状態ニアリ。然レトモコハ農業カ一個ノ企業トシテソノ於クハ
傾向ヲ示シタルモノニシテ、私經濟ノ見地ヨリ見テ小農カ有利トシ
小農カ繁栄ストスフニ止マル。コレ等ノ傾向ハ國民經濟上ヨリ見
テ果シテ希望スルハ傾向ナルメ否メ、或ハ農業政策上ヨリ傾向ヲ阻

止スルハ何等ノ方策ヲ必要トセサル。コレ以下吾人ノ論セント欲
スル処ニシテ、ソノ私經濟上ノ見地ノヨリセズ、コハ國民經濟
上ノ見地ヨリコレヲ見ント欲スル也。國民經濟上ノ見地ヨリ人ル一
國ノ經濟政策上、私經濟上ノ如上ノ傾向ハ歓迎スルコトヲ得ハズ
現代ノ私利私權ノ組織ノ下ニアツテ、ヨクソノ大経営ヲ以テスル
ト能ハズ、小経営ノ状態ノニテ有利トスル農企業ノ現状ハ、コレ即
現代經濟ノ本流ニ背馳スルモノニシテ、資本的企業ノ活躍ヲ中心ト
スル現代ノ經濟ノ傾向ニ合致スルモノニ非ス。彼ツテ農業ニアリテ
モ現代ノ資本主義的經濟制度ノ下ニ於テ、ヨクソノ繁榮ヲ持續セシ
メントセハ、大経営ヲ以テ有利トスルノ状態ヲ欲シテ起シシムルコ
ト、尙サミレハカラス。然ラザル限リ農業ハ商工業ニ比較シテ甚低
セサルヲ得サルヘシ。彼ツテ農業モ近代の産業タルカ論メニハ大運
營ヲ以テセサルヘカラス、且一國ノ農業政策モ農業カヨク大經營ヲ
以テ、現代企業心旺盛ナル經濟ノ促進ニ合致セシムル様ニ改造スル
ノ方策ヲ講スル事ヲ第一ノ急務トスルヘシ。コレノ十リ、模範スルハ企業

トシテノ農業カ、商工業カ大規模等ヲ以テ益々発達シツ、アルトシテ
シフソノ大経営ニヨリ利権ヲ享受セシムル様ニナシ、以テソノ進歩
取速ヲ勤セサルハカラス、コノ事ハ吾人ノ研究ヲ要スル主要ノ問題
タリ、然ルニ業ニモ極ケタル如ク、農業ハ元來ソノ生産ノ本質上商
工業トソノ性質ヲ異ニスルモノ也、而シテ農業カ大規模業ヲ以テヨ
ク発達シ難キ事情アルコト、既ニ結論ニ於テ述ヘタル如ク、コ
レカ即農業ノ特性ヲナスヘキ事モ亦既ニ述ヘタル如ク、從テ農業
カ大規模業タルヲ効クル各側ノ事情ニ付テハコレヲヨク研究シ、如
何ニセハソノ除ク事ヲ得ヘキカヲ究ムルコトハ甚ク必要ニシテ、
コレ吾人ニ甚ク大ナル研究問題ヲ提供スルモノナリト云、ソノ現在
ノ状態ニアリテハ農業ハ小規模業トシテ始メテ存立スルモノナレハ
コノ傾向ヲ無視スル事能ハス、換言スレバ現在ノ組織不遂ノ程度ノ
下ニアリテハ農業カ小規模業ニ適スルト云フ状態ヲ、人為的ニ改造
スルコト不可能ナレモノ也、故ニ農業政策上ソノ経営規模ニ関スル
議論ハ農業カ小規模業トシテ始メテヨリ存在スルコト云フ私經濟上ノ事

情ヲ考慮シ、ソノ範圍内ニ於テ適當ノ方策ヲ樹立スヘキモノニシテ
農業ヲ大規模業タテシムヘシト爲スカ如ク、ハ將本ノ理想ノ向應ニ
シテ現定ノ向應ニ非ズ、從ツテ現在結構ノ理由上大農園タル状態ニ
アル園ハソノ小農園タル園ニ比較シテソノ土地利用ノ現状ハ種々ノ
異ヨリ見テ甚ク不經濟ノ状態ニ存スルモノナルコトヲ知ルニ足ルハ
ク、一國ノ健全ナル農業ノ発達ヲ促サント欲セハ小規模經營ヲ標準
トシテ、ソノ生産上ノ政策ヲ計レヘキモノナリトス、現在私經濟上
存立シ難キ大規模業ヲ存立セシメント欲スルカ如クハ彼ラニ國民經
済上ノ損失ヲ招クニスルヤサルハシ、吾人ハ農業政策カヨク吾人ノ業
ニ定義セル中小農ノ存立ヲ計ルコトヲ主眼トシ、且農業上ノ諸般ノ
施設ハソノ等中小農カ行フニ適當ナル様コレヲ定ムヘキモノナリト
信ス、從ツテ農業上ニ於テ共同企業例ハハ公社組織ヲ以テスル企業
ハ發生シ難ク又コレヲ奨励スル必要モナシ、斯クハ如ク農業ハ中小
農ヲ以テ発達ノ可能ナリ、且又中小農タルヲ希望スヘキモノナリト
ス、コレニ関シテハ徒ラニ中小農ノミカ現在理想の經營規模ナリト

ハ云フヘカラス。又経済ノ大勢力大體ニ於テ中小農ヲ有利トスルモ
ノナレハ中小農ニテ始メテヨク榮フヘシトナスモノニシテ、小農
ニハ不利ナル事情存スルコトモ忘ルヘカラス。例ハハ小農ニテ
テハ信用ニヨリテ巨大ノ資本ヲ得ル事難ク、又之ヲ利用スルノ便益
ナク、尚又之カ借受、使用モ大農ニ比シ甚タ困難ナリ。即金融上多
大ノ不便アリ。加之大農ハ其規模大ナルカ爲メ農産物ヲ運搬シ、之
ヲ貯藏シ其他農業ニ伴フ商務事務ヲ有利ニ爲スヲ得ル利益アリト、
小農ニハコノ利益ナシ。即運賃及販賣上ノ経費ヲ省ク莫ク於テ、並
ニ農産物ヲ高價ニ販賣ヲ得ヘキ利益モ小農ニ於テハ大農ニ於ケルホ
ト大ナラス。換言スレハ農産物市場ニ對シ小農ハ勢力ヲ占メ難シ、
常ニ販賣上ノ弱者タラサレヘカラス。コノ事ハ農業ニ必要トスル肥
料、器具機械等ノ買入レニ際シテモ亦全様也。又ソノ特ニ述フヘキ
ハ大農ノ経営者カ高等ナル農事ヲ吸收ヲ得ル莫ク於テ遂カニ大農ハ
小農ニ優レリ。又小農ニハ元來保守的ノ氣風大農ヨリモ一層強ク存
在シ、之ヲ誘掖シテ各時代ノ経済状況ニ適應セシムル事ハ大農ヨリ

ハ可成困難ナルハシ。サレハコノ事ハ個人企業ノ小農カ特殊ナル症
癥力ヲ有スルト、自家経営ニ基ク趣味ト熱心トハ共生産ノ放棄ヲ奉
クルニ於テ大農ヨリ優トリトナス。ソノ利益ヲ國民經濟上相殺シ去
ルモノト云ハサルヘカラス。換言セハ農業教育ノ尙殘カ小農ノ下ニ
アリテハ大農ノ下ニ於ケルヨリ至極重要ナル地位ヲ占ムルコトハナ
ル也。斯クノ如ク純然タル中小農ニテハ農業信用上、農産物販
賣上、原料買入上、農業ノ新知識ノ吸收上、大農ニ比較シテ甚タ不
利益ナル事情アリ。從ツテ經濟ノ大勢力大農ヲ不利トスレ現在ノ状
況ノ下ニテアツテ生産政策上採ラレヘキ方策ハ中小農ヲテヨク此等
ノ不利益ヲ除去セシムル事ヲ第一ナルヘカラス。換言セハ中小農ヲ
存続セシメ、之ニ大農ト企シ利益ヲ得セシムル方法ヲ必要トスル也
茲ニ於テ農業上經濟組合ノ必要ヲ生セサルヲ得ヌ。農業上ノ産業組
合ハヨク中小農ヲ中小農トシテ保持存続セシメ、而モ小農ノ欠點ト
シ大農ニヨリテノニ收メ得ヘキ利益ヲ小農ニ確保セシムル也。蓋シ
總論ニ於テ組合カ農業上重要ノ地位ニアルコトヲ述ヘタルガコノ

見地ヨリシテ産業組合ハ甚タ必要ナリ、コレヲ誘掖平達セシムルコトハ生産政策上甚タ所要也。産業組合ニ関シテハ後ニ述ブハメカ故ニ茲ニハ述ハス。

吾國ニ於テ農經營規模ノ現状如何。大正九年度ノ農事統計ニヨリ農家ノ數五百四十八万四千五百六十三戸ニシテ、ソノ耕地面積六百餘萬町歩ナルカ故ニ、農家一戸當耕地面積ハ約一町一畝一畝ニ當ル。而シテ今コレヲ耕作スル耕地ノ廣狹ニヨリテ全農家ノ數ヲ一〇トシテ各々カ耕作スル面積ノ農家ノ五ノ別列合ヲ見ルニ次ノ如ク状態ニアリ

| 年次 | 五畝未満 | 五畝以上 | 一町以上 | 二町以上 | 三町以上 | 五町以上 |
|-------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 明治43年 | 37.0%51 | 33.0%22 | 19.0%34 | 5.0%95 | 2.0%87 | 1.0%31 |
| 大正7 | 37.14 | 33.25 | 19.61 | 5.96 | 2.83 | 1.21 |
| 3 | 36.64 | 33.35 | 19.95 | 6.10 | 2.74 | 1.22 |
| 5 | 36.40 | 33.30 | 20.22 | 6.11 | 2.72 | 1.25 |
| 7 | 35.54 | 33.30 | 20.70 | 6.33 | 2.82 | 1.31 |

| 9 | 新 | 減 | 新 | 増 | 新 | 増 | 新 | 減 | 新 | 増 |
|-------|-------|-------|------|------|------|---|---|---|---|---|
| 36.28 | 33.36 | 20.66 | 6.22 | 1.81 | 1.67 | | | | | |

即コレニヨツテ見ルコト五畝未満並ニ三町以上ノ趨勢ヲ示シ其他ハ漸増ノ傾向ニアリ。而シテソノ大正九年末ニ於テル状態ニ全農家總數ノ三分一以上ハ五畝未満ノ土地ヲ耕作シ、又五畝以上一町未満ヲ耕作スル農家ノ戸數モ亦總體ノ約三分一ニ當ルカ故ニ耕地一町未満ノ小面積ヲ耕セル農家ハ實ニ總數ノ三分二以上ヲ占ム。而シテ二町以上ヲ耕作セル農家ハ僅ニ全體ノ一割以内ニ過ラサル也。コレ吾國農家經營規模ノ現状也。同論農業ノ經營規模ハ此等耕地面積ノ廣狹ノミヨリ見ルハカラサルモノナルコト前ニ述ヘタル如ク、コレニヨリ一概ニ大中小農ノ分布如何ヲ断シ難シト雖、當回農事統計ニハ農業ノ經營規模ヲ採ルニソノ經營耕地ノ大小ニヨリノ外、他種ノ統計ヲ存セス。從ツテコレノ状態ニヨリ農業ノ經營規模ヲ推察セサレハカラス、コレ蓋吾人カ農用地論トシテ農業ノ經營規模ヲ論スル所以也。而シテ一般ノ見ル所ニヨレハ吾國ノ農業ニ於テハ

果樹ノ栽培、或ハ蔬菜ノ栽培、若クハ工業作物ノ栽培ヲ主トセル処
 ヲ除キ、普通作物ヲ栽培セル地方ニ於テハ通常農民一人ノ耕作シ得
 ハク反列ハ一町ニシテ、又一町以下ノ土地ヲ耕作スルニ當ツテハソ
 ノ労力ニ余剰ヲ生スヘシトナス。而シテ高岡博士ノ研究ニヨリハ吾
 國農業家ノ労働力ハ平均ニ人半若クハ二人六歩ニ相当スト云ノ事
 ナレハ、吾國農業ハソノ労働ノ最低限度トシテ、少ナクモ二町五六
 反ヲ必要トス。而シテ農業一家ノ労働力ヲ一年中ノ労働シ得ハク日
 數ノ全部カ恩々十分ニ利用セラレ得ハク之ノ地積ヲ一戸ニ付與スル
 ニ非サレハ農業ノミニテ生活ヲ維持セシムルコト難ハス、ソノ労働
 ノ最低限度タル土地ヲ農業ニ付與スルニ非レハヨクソノ農業ノ收入
 ノ三ヨリ生計ヲ営ム事能ハス、他ノ職業ヲ兼テ收入ノ補充ヲ計ラ
 ヤルヲ得ス、從ツテ吾國ニ於テ小農トハ少ナリモ二町五反以上ノ土
 地ヲ耕作スル者ナラサルヘカラス。ソレ以下ノ土地ヲ耕作スルハ過
 小農也、從ツテ中農トハ五町前後ノ土地ヲ經營スル者ヲ指スコトハ
 ナル也、果シテ然ラハ吾國ニ於テハ大部分ハ過小農ニシテ中農ト目

スヘキモノモ甚タ少ナク其ノ經營ノ極メテ小ナルコト推知スルニ足
 ルハク大農ノ如キハ殆ト存在セスト云フモ不可ナキナリ、
 元來如斯我國ノ現状ハ彼令農業力中小農ヲ以テ希望スヘキモノナリ
 トナスト云モ其地極余リニ過小ナリ、元來農業ハ中小農ヲ以テ理想
 トスト云モ過小農ヲ以テスヘシト云フニハ非ス、過小農トハ既ニ前
 ニ述ヘタル如ク農業上ノ收入ノミヲ以テヨク自活スルコトヲ得ス止
 ムヲ得ス他ノ業ヲ三ハスル收入ヲ以テ辛ウシテ生活シ行ク状態ニ在
 ル農業ヲ稱スルモノナレハ、コノコトハ農業ノ進歩發達上ヨリ現テ
 決シテ希望スヘキコトニ非ルナリ、農業ノ發達ヲ圖ルタメニハ純粹
 ニ農業ニノミ没頭シ得サルカノ中小農ヲ以テスルコトニセサルヘカ
 ラス、從ツテ我國ニ於テ大部分ノ農業力斯ル過小至管ノ状態ニ在ル
 事ハ甚ダ憂フヘキ事ナリ、之等至管ノ過小ヨリ脱却セシムルコト、其
 ノ固有ノ意義ニ於ケル中小農ニ進マシムルコト我國農業政策上至要
 ノ問題ナリ、

サテ然ラハ我國ニ於テ此等過小至管脱却ノ方策如何、元來農業一

戸ノ各營ニ必要トスル面積ハ現在ノ農法ニ於テハ計算上一定ノ最低限度存セリト云モ、コノ限度ハ農法カ集約トナルニ從ヒ次第ニ小クナルヘシ、例ハ二十年二年ノ勿替畑農法ナレハ一家ノ生計ニハ二十町歩ノ土地ヲ要セシモ、易田法ナラハ四町歩ニテ尺ルヘク又三圃農法ナラハ三町、我國普通ノ一毛作ナラハ一町、ニ毛作ナラハ一町ノ耕作法ニテム一ノ收益ヲ得ラム一程度ノ生計ヲ營ミ得ヘキモノナリ、又團營農ナラハ五又歩ニテモ或ハ十分ナリ、

斯クノ如ク小農カ小農クルニ必要トスル耕作ノ最低限度ハ劃一セシムルニ非サルカ故ニ我國ノ農法ヲ更ニ集約ニセシムレハ或ハ現在ノ至當耕地ヲ以テシテモ充分ナルヤ又知レズ、從ツテ吾國至當耕地ノ脱却ノ第一策トシテ集約度ノ増進ヲ考フルコトヲ必要トス、然ルニ我國普通作物ノ栽培ニ在リテハ維新以來集約度ノ増進極メテ著シク集約ソノ程度ニ達セリ、サレハ現在ヨリ以上集約度ヲ増進セシムルコトヲ得サルヘシ、從ツテ現在ノ農法ノ下ニ在リテ至當ノ過小ノ現状ヲ脱却スルニハ是非トモ其ノ至當耕地ノ拡張ニ依ラザルヘカラズ、

又、

抑々我國現在ノ農家ノ如キ耕地面積ノ過小ノ状態ニ在ルハ、農家戸數カ耕地面積ニ比較シテ多數ナルヲ意味スルモノニテ此ノ下、我國農家ノ平均耕作及別カ一町一又余ニシテ小農ノ最低限度ヲモ保障スルニ足ラサルノ状態ニ在ルコトヲ以テモ察知シ得ル事柄ナリ從ツテ至當耕地ノ擴張ヲ圖ラント欲セハ之等我國農家戸數ヲ減少セシムルカ、或ハ又我國ノ耕地面積ヲ拡大セシムルカ數レカノ方法ニ依ラザル可ラス、

我國農家総戸數八年々五千五百一十萬戸宛増加シツ、アルモノニシテ此レヨ年々ノ耕地面積ノ增加状態ト比較セハ次ノ如キモノ也

| 年次 | 農家戸數 | 耕地面積 | 農家一戸当平均面積 |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 明治33年 | 5,416,937 | 5,652,818 | 1.044 |
| 大正1年 | 5,438,051 | 5,759,000 | 1.059 |
| 2年 | 5,454,231 | 5,815,695 | 1.066 |

| | | | | |
|---|-----|-----------|-----------|-------|
| 〃 | 5 # | 5,457,295 | 5,896,476 | 1,080 |
| 〃 | 〃 # | 5,477,984 | 6,022,092 | 1,100 |
| 〃 | 〃 # | 5,488,863 | 6,085,262 | 1,110 |

100

即ち耕地面積、年々四五万町歩増加シツ、アリ、サレハ農家戸數ニ比較シテ耕地面積ノ増加割合僅カラ大ナリ、サレト耕地面積ノ増加カ斯ノ如キ状態ヲ以テセル有様ニテハ之カ爲メニ農家ノ至営耕地ヲ擴張セシムルニ足ルモノニ非ス、而モ本農家モ年々増加シツ、アリ、從ツテ吾人ハ一方ニ年農家ノ増加セズ弊口減少セシムルカ如キ方法ヲ講スルト共ニ地方耕地面積ノ擴張即ち新開墾地ヲ増加セシメサルハカラス、耕地面積ノ増加策ハ首節耕地面積ノ條下ニ於テ述ヘタルトコロナレハ此地ニ之ヲ擴張ス、從ツテ此地ニハ農家戸數減少策ヲ述フヘシ、農家ヲ減少セシムル方法トシテハ一、海外移民ニヨル農家減少策ニシテ、他、我國ノ商工業ヲ隆盛ニシテ農民ノ一部ヲ商工業ニ吸収シ終ルコトナリ、

海外移民ニヨル農民ノ減少策ハ曾テ英國政府カ愛爾ニ行ヒタルトコロノモノニシテ、ソノ農民過多ナル地方ニ付テ國家カ補助ヲ與ヘ歐洲又ハ北米合衆國、加拿大等ニ移住セシメタリ、然レトモ我國ノ現在海外ニ移住スヘキ好近地ナシ、我國人ハ到ル所ノ植民地ニテ排斥セラレシ方解決ニハ外交上ノ努力ヲ必要トスルモノナリ、從ツテ滿蒙方面ニ移住セシムルコトニ付テ全カヲ擧ケテ研究スルニ必要アリ、

商工業隆盛ニヨル農民吸収策ハ一國ノ商工業隆盛セサレハ其現スルコトヲ得ス、而シテ商工業ノ隆盛ナル英國、独逸ニ於テハ農民ハ大部分商工業ニ吸収セラレソノタメ農民過度ニ減少シテ又却ツテ農業上ノ問題ヲ生シツ、アル位ナレハ商工業盛ニテハ農民ハ漸次ソノ方面ニ吸収セラレ、ニ相遠ナシ、我國ニ於テモ然ルヘシ、故ニ農民減少策ハコノ方面ニ於テ有望ナリ、然レトモ我國ノ商工業ノ現状ハ現在農民ヲ多數吸収スルタケノ能力ナシ、而シテ現在多少農民ハ商工業ニ吸収サレツ、アリトハ云ヘ、之ヲ我國ノ人口増加ノ状況ニ

100

ニ比較セハ末々甚々微弱ナルモノナリ、伏ツテ極力商工業ヲ隆盛ニシ農民ヲ救済シ益スト爲サ、ルハカラス、而シテ我國ニ於テハカノ弊、故ニ於ケル如ク、其ノ爲メ農民カ減少シ過キテ、ソレニ苦ムカ如キ状態ヲ遂起スル虞レナシ、而モ一方我國ハ至極上ノ飛躍ヲ図ルタメ商工業ノ飛躍ヲ図ルコトハ甚タ必要ニシテ此ノ見地ノミヨリ見テモ商工業ノ隆昌策ヲ劃セサルヘカラス、況ンヤ之等商工業隆昌策カ△時ニ農民減少ヲ見ルコト、ナリ、ソノタメ我國至極上ノ飛躍ヲ脱却スルニ至ラントハ、

〔世〕人農業ト商工業トノ利害相及スルカ如ク考フルモ、我國ニ於テハソノ利益上ノ問題ヨリ見テ決シテ相背馳セズ、商工業ヲ飛躍セシムルコトカ即チ農業ヲ飛躍セシムル所以也、我國農業至極上ノ飛躍ヲ健全ナラシメントセハ先ツ我國過剩ノ農民ヲ減少セシムルタメ商工業ノ飛躍ニ全カヲ注クヲ必要トス、但シ此処ニ注意スハキコトハ、農民カ商工業ニ吸収セラル、ニ至ラハ結局人口ノ都市集中トナリテ現ハル、ハシ、人口ノ都市ニ集中スルニ至ラハ、現在ニ於テモ都市

ノ生活ニ種々ノ障害ヲ生シツ、アル、状態ナレハ都市社会政策ノ施設完全ナルヲ要スル頗ル重要ノ問題ナルハシ、伏ツテコノ商工業隆昌策ハ之ト△時ニ都市社会政策ノ遺漏ナキ圖策ヲ必要トスルモノ也
 ×ニ我國ノ至極上ノ飛躍ヲ脱却セシムルコトナルカニ等ノ政策ニ切ムルト△時ニ過小ノ状態ヲ脱却シタル際ニ於ケル農業至極上ノ改正ニ付テモ注意スル所ナルヘカラス、從來過小至極上ノ状態ニ於テ我國農業ハコノ過小ノ状態ヲ以テ農業至極上ノ本質ナリト見做シ、尠モ之カ脱却ニ倚ルベシトシテ、却ツテ至極上ノ極大ヲ以テ不利トスルカ如キモノナキヲ察セサルナリ、
 而シテ從來我國農業ノ弊ノ如キ過小至極上ノ状態ハ必然副業ノ必要ヲ生シ來リタルモノニテ副業ナクシテハ生活ヲ維持シ得ナリシ状態ニアリ、伏ツテ從來副業ヲ奨励シ來リシコトナキニアラス、然レトモ農業ノ技術タル頗ル熟練ヲ必要トスルモノニシテ工業ニ於ケル生産力機械ノ作業ニヨリテ行ナハレ機械ノ運轉ニ故障ナハナクハ具レニヨリ自然生産ノ進行セラル、ト異リ極メテ細バノ注意ヲ要スルト△

時ニ天候具ノ他ノ突然的ノ事情ニ従ヘス留意セサル可ラス、然ツテ
 農業生産ノ効果ヲ擧ケント欲セハ専心農事ニ従事スルモノナラサル
 ハカラス、然ラズシテ副業ニ其ノ力ヲ割クカ如キハ農業生産ノ進歩
 亦運上候ル有害ナリ、故ニ農業ニ於ケル副業ハナルヘクコレヲ廢除
 スルコトニ努メサルヘカラス、從來過小至営ナル方故副業ニヨリテ
 生計ヲ補助セサルヲ得ガリシモノナルカ農業生産上一方ニ過小至営
 ノ脱却ヲ計ルト共ニ他方副業ヲ廢止セシメ専心農業ニ従フコトヲ指
 導セサルヘカラス、而モ從來我國農家ノ副業ハ工業ノ發達ヲ阻害ス
 ルコト夥カラズ、我國古來ヨリノ固有産業力近代の組織並ニ規模ヲ
 以テスル機械生産ニ進歩ヲ得ガリシモノ一因此故ニ存セシモノナル
 事ニ觀ミルトキハ副業ノ奨励ノ如キ益々ソノ不可ナルヲ知ルニ足ル
 ヘシ。

之ヲ要スルニ農業ハ中小農ヲ以テ適當トスト云ハ我國ノ現状ハ余
 リニ過小ナリ、伏ツテ小ナリトモ其ノ過小ノ状態ヲ小農ノ程度迄ニ
 引キ上クルコト、尙ナ、ル可ラス、我國ニ於テ農村疲弊セリト云ハ
 ルハ至營過小ニシテ農業ノミヲ以テハ生活ノ資料タモ充分得ラレ
 ガリシタメニ他ナラサルモノナレハ此ノ過小脱却ニ努力スルコト必
 要ナリ、又ソレト同時ニ我農民ハ從來過小至営ニ墮レ入り慣性
 過小至営ヲ継続シ来リツ、アルカ如キ状態ナレハ三リ適度ノ中小農
 トシテノ農場經營ノ方法ニ付テゴトヲ指導スルコト必要ナリ、然ラ
 ハ農民ノ側ニアリテ過小經營脱却ノ機會アリト云モ如何ニ過小
 ヲ脱却シラコレヲ經營スヘキカノ方法ヲ知ラス、為メニ其ノ適應ス
 ル所ヲ知ラサルカ如キ事實存スルカ故ニ此ノ事ニ注意スルニ小所要
 ナリ、此等ノ方法ニ付テハ更ニ後ニ述フルトコロアルヘシ。

第二款 經營ノ精粗

經營ノ精粗トハ後言スレハ集約力在放力ノ問題ナリ、而シテ農業
 ハ至營ノ精粗ニ從ヒ農法ヲ異ニスルモノナレハ此ノコトヲ *Scale of*
Intensity of cultivation (農法ノ精粗トモ云フ、ゴノ向懸ハ農
 業至營ノ規模即チ農場ノ大小ト同聯スル所アルモノナレハ茲ニ附説

セト欲ス。

農業ヲ經營スルニ當リ自然ニ放任スルコト多ク、労働及資本ヲ用
フ丁少キヲ粗放的 (extensive) ト欲シ、之ニ次シテ一面積ヨリ
多量ノ收穫ヲ得ルタメ資本及労働ヲ加フ多キ管至ヲ集約的 (intensive)
ト欲ス、然ツテ、集約ナリ粗放ナリト欲スル此ノ言
葉ハ比較的ノモノニシテ、生産上ハ一面積ニ投セラル、労働及資本
ノ多寡ニヨリテ定メラル、モノナリ、而シテ此等粗放經營ト集約至
管トノ區別ヲ他ノ方面ヨリ觀察スルニ、集約經營トハ其ノ地積ヲ制
限シテ他ノ生産手段カ増加セラレタルモノヲ云ヒ、粗放經營トハ其
未得ル限リ資本及労働ヲ制限シ地積ノ擴張カ行ハル、ヲ云フ、一般
ニ農業ハ其ノ始メニアリテハ粗放經營ヲ以テセラル、ナリ、即チ人
口稀薄ニシテ労働不足シ又ソノ生産物ニ對スル必要甚々強カラス、
從ツテ其ノ價格低廉ニシテ、又耕作スヘキ土地過剩ニ存スルカ如キ
場合ニハ先ツ粗放經營ニ依ル農業行ハル、ヘシ、然レトモ人口稠密
ニシテ農産物ニ對スル要求盛ク、從ツテ其ノ價格又高ク、而モ耕地

ノ大部分カ開拓セラレ其ノ擴張ノ余地ナキカ如キ場合ニハ其ノ生産
ヲ多クナラシムルカ為メハ一面積ニ資本ト労働トヲ加重スル他ナケ
レハ自然集約經營行ハル、ニ至ルヘシ。サレハ一般ニ新開地ノ農業
經營ハ粗放ナルヘク古クヨリ工業著セラレタル旧國ニ於ケル農業ハ集
約ナルヘシ。

一般ニ人口増加スルニ從ヒ經營ノ集約度ハ促進セラル、カ如シト魚
毛、コハ元來收穫ヲ得ル為メ一定地積ニ對シ幾何ノ労働資本ヲ投ス
ルカノ問題ナレハ經營ノ精粗ハ農産物ノ價格次第ニ關係シテ先ツ決
定セラル、モノナリ、即チ農産物ノ價格低廉ナルニ於テハ其ノ生産
ノタメ多大ノ資本労働ヲ費ストモ、終ニヨク之ヲ回收シ得テ純益ヲ
上クルヲ期シ難ク、經營ハ之ヲ粗放ニシテ成ル可ク其ノ生産費ヲ節
約セサルヘカラス。之又農産物ノ價格高貴ナレハ多量ノ資本労働ヲ
投スト至モ收穫ノ多額ナル方利益ナレハ生産費ヲ多ク費スヲ得ヘ
ク、即チ經營ハ集約ナルヲ以テ有利トスヘシ。一般ニ人口ノ増加ニ
伴ヒ農産物ノ高騰ヲ求スヲ常トスルカ故ニ大体集約ノ精粗ハ人口ノ

増加ニ伴フテ増進セラル、カ如シト雖モ現在ノ如ク國際間ニ於ケル
 交通ノ便順ル用ケ世界ヲ以テ一市場ト爲スカ如キ場合ニ於テハ之ヲ
 一國ニ就テ見ルトキハ必スシモ然ラス。例ヘハ、一國ノ人口增加セズ
 ト莫モ農産物國外輸送ノ増加アルトキハソノ便益ハ顯著スヘク、然
 ヲテ農法ハ集約ナルニ至ルハク、又之ト反対ニ人口ハ增加スト雖モ
 低廉ナル輸入品アル所ハ、農法ハ却ツテ退歩シ粗放ナルニ至ルヘシ
 新開地ニ於ケル農法カ漸次集約タルニ至ルハ農産物ヲ此國ニ輸出ス
 ルカタメ具ノ價格カ漸次高騰スルカ爲メナルヘフ、又例ヘハ英國ノ
 如キ人口稠密ナル國ニ於テハソノ農經營ノ極メテ粗放ナルハ海外ヨ
 リ低廉ナル食料品ヲ輸入スルカ爲メナルヘシ。吾國ノ如キ食料台給
 國ニマリテハ、米穀ノ大勢ハ騰貴ノ傾向ヲ辿ルモノニシテ、即チ農
 經營ヲ集約ニスルヲ有利トスル事情存スル也。

農産物ノ價格ニ於テ農法ノ精進ニ關係アルハ資本ノ利率及労働ノ
 高低也。一國ノ資本豊富ニシテ利子一般ニ低廉ナル場合ニハ農經營
 ニ多額ノ資本ヲ投スルヲ得ヘク、又一國ノ労働力過剩ニ存シ、ソ

ノ労働低安ナルニ於テハ之ヲ農經營ニ多大ノ労働ヲ使用シ得ヘク、
 ソノ故レノ場合ニ於テモ農經營ハ集約ナルニ至ルヘシ。即チ前者ノ
 場合ノ經營ハ資本ニ集約ニシテ、後者ノ場合ハ労働ニ集約ナルナリ
 農經營ノ粗放ハ特定ノ土地ニ付スル使用資本並ニ使用労働ノ量ニヨ
 リ定マレモノ上レハ以上ノ如ク資本労働ノ數レカニ付テ集約ナル場
 合ヲ生スヘシ。一般ニ急進ノ急進セル國ニ在リテハ資本ハ順ル順
 次ニシテ供給ニ余リアルカ故ニ利子ハ一般ニ低安ナリト雖モ労働ノ
 報酬ハ之ニ反シ一般ニ高貴ナルヲ常トスルカ故ニ農經營ハコレヲ集
 約ナラシムルカ爲メニハ労働ニ集約ナラスシテ、資本ニ集約ナルヲ
 常トス。一般ニ欧米ノ事情ハ此ノ实例ヲナスモノナルカ、ソノ著シ
 キハ北米合衆國ノ農業ニ付テコレヲ見ルヲ得ヘシ。

合衆國ニ於ケル農場ノアルモノニ付テ集約的經營行ハル、ト云ハハ
 ソハ主トシテ資本ニ付テ云ハル、モノニシテ、一定ノ地積ニ投スル
 労働ノ量ニ付テハ數レノ國ヨリモ少シ、即チ資本ニ集約ニシテ力
 ニ粗放ナリ。之ニ反シ吾國ニ在リテハ事情順ルニト異リ労働ハ概シ

テ低安ナルニ不拘資本ハ、頗ル高値ナルカ故ニ農經營ニ於テ資本ハ
未タ十分集約的ニ使用スルヲ得サルモ、労働力ハ不必要ナル程度
ニ迄集約ニ使用セラレツ、アリ。即吾国ノ農業經營ハ資本ニ粗放ニ
シテ労働力ニ集約ナリ、吾国ニ於テハ農民血制ニ存シ使ツラソノ經營
ハ農産物需要ノ増加ニ伴ヒ増々労働力ニ集約ナルヲ求メタルモノニシ
テ一家五口ノ農民ノ労働力カ一町未滿ノ土地ニ投セラレツ、アルカ
如キ状態ナリ、不必要ナル程度ノ労働力ハ農業ニ付テ浪費セラレツ、
アリ。従ツテカノ日露戰役中十万人ノ壯丁カ鐵犁ヲ捨テ、戰場ニ赴キ
タル為メ田舎ニ於ケル労働力、減少セシコト勢カラナリシト云モソ
レカ為メ農經營上別ニ大ナル不便ヲ生シタリシヲ痛カガリシナリ、
以テ労働力上過度ニ集約ナルヲ想見スルニ足ル。之ニ又シテ資本ニ付テ
ハ、頗ル粗放ナリ、農商務省ノ調査ニヨルニ吾カ農家ノ農具資本ハ一
町歩ニ於テ僅ニ十六円五十錢也、然ルニ他乙ニ於テ普通ニ十五円乃
至四十円ヲ以テ普通トスルソノ状態ニ比較スルモ以テ如何ニソノ粗
放ナルマ察スルニ推カラサルハシ、使ツテ之等労働ノミニ付テ集約

ナル吾カ農經營ヲ資本ニ付テモ集約ナラシムルコト、セサル可ラス。
而シテ將來吾国ニ於テ商工業ヲ發達ナラシムルコトノ必要ナル既ニ
説明シタル處ナルト云ニ、コレカ為メ又労働ノ高値ヲ求スニ至ルハ
ク、而モ或一國ノ人口ノ精カヲ農業ニノミ傾セシムルハ国民經濟
上極メテ不利益ナリ、依テ過度ニ労働力ニ集約ナルコト状態ハ、コレ
ニ代フルニ資本ニ集約ナラシムルト高價ノ可ラス。而シテ農業至
管カ労働ニ集約ナルト資本ニ集約ナルトハ、之ヲ他ノ方面ヨリ見ル
トモハ農業ノ作業カ主トシテ肉體労働ニ依リ行ハル、マ、機械労働
ニヨリテ行ハル、マ、ソノ状態ニ表ハレ来ルモノニシテ機械主トシ
テ使用セラレ、ノ代ハ肉體労働ハ漸クセラル、ニ至ルハク、茲ニ勞
働ニ集約ナラス、資本ニ集約ナルニ至ルハシ、使ツテ吾国ニ於テ農
經營カ資本ニ集約ナラシムヘシトナスハ、即機械ノ使用ヲ盛ナラシ
ムヘシト云フニ歸着スヘシ、然ルニ農業ニ於ケル機械使用ノ範圍
ハソノ土地ノ自然條件並ニ農作物ノ種類時ニ經營規模ノ大小ニヨリ
テ決定セラル、モノニシテ例ハハカノ穀物刈取機ハ七十町歩以上、

一馬力半ノ打穀機ハ百五十町歩以上ノ面積ノ土地ニ付テ効果ヨリト
セラル、モ、ト祿セラル。而シテ又農業上ニ於ケル機械ノ使用ハ工
業ノ如クナルヲ得サル所又既ニ説明シタル所ナリ。吾國ニ於テニ地
ノ形状、水田耕作ノ状態、並ニ至當ノ過水ノ現狀ノ下ニ於テハ機械
ノ使用不可能ニシテ之カタメ農業カ資本ニ集約ナルコトヲ得ナリ
洵ニ故アルヲナリト爲サレテ得ス。サレハ吾國ニ於テ機械ノ使用
ヲ盛ニシ資本ニ集約ナラシムハシト爲スト云、此米倉衆國ニ於ケル
農業ノ如ク亦ク機械ヲ使用シラ且ツ有效ナルヲ得サルコト明ナルヲ
ニシテ此矣ニ付テハ極端ニ之ヲ考フルコトヲ得ス。吾國農業ハ元來
勞力ニ集約ナルニ過ス、ギ事情存スルモノナリ、然レトモ之カ旧状ヲ
改善セサルニ於テハ、將來勞賃ノ騰起ハ農生産費ヲ増大ナラシムル
虞多大ニシテ然ツラ農家ノ窮狀ヲ生スヘキハ明ナレハ免テ尙機械ヲ
如何ニシテ使用スヘキカヲ研究スルヲ必要ナリ。既ニ農業勞賃ノ騰
起ハ農經營ヲ困難ナラシムタリト云フ了ハ吾人ノ敢ニ聞ク所ナリ。
然レニ一國ノ農業經營ノ状態ハ旧來ノ習慣ニ依リテ得テセラル、了

ナラサル所ニシテ、事實上具ノ或更ヲ必要トスルノ事情明ニ存スル
ニ拘ラス依然旧來ノ經營法ノ基守セラル、了アルヲ常トスレモ、也
吾國ノ農經營ノ労働ニシテ集約ナルハ、既ニ建築物及什器ヲ初メ一
切ノ設備及組織ニ付キソレニ適合セサルカ如ク設備セラレ又農家各
自ノ智識天能力モノノ得來ノ經營法ニ適合セルカ如ク養成セラレ
アル也、從テ先ツ此矣ニ付キ資本ニ集約ナラシムルコトヲ得ヘキ
限ニテ適當ニ指導セサルヘカラス、ソノ土トスル所ニ於テ農業教育
ノ改良ニ存スヘシ、又資本ニ集約ナラシムルカ爲メニハ資本ノ供給
ヲ容易ニセサルヘカラス、資本額ル高標ナルニ於テハ遂ニソノカ自
的ヲ達スルヲ得サルヘシ、コノ矣ニ付テハ農業金融ノ状態ヲ改善セ
サルヘカラス。

斯クテ吾國ニ於テ勞力ノミニ集約ナリシ農業經營法ヲ改メ勞力ニ
集約ナルト共ニ資本ニモ集約ナラシムルヲト爲サレ可ラス。按言
スレハ勞力的農業ヲ受シテ資本的農業ト爲スニアリ。之レ吾國ノ農
生産力ヲ増加セシムル所以ナルト共ニ農家ノ私經濟ヲ確立セシムル

所以也。

尚更ニ進ンテ至當ノ精粗ニ付テ研究スルニ、土地ニ於ケル生産ニ
ハカノ收穫増減ノ規則顯著ニ行ハル、モノナレハ資本労働ヲ加重シ
生産費ヲ増スルノ度大ナルニ依リソノ投下ニ対スル收益ハ漸次増加
スヘシト云モ一先ノ限度ヲ超エルトキハソノ收益ノ割合ハ漸次減少
スルニ至ルヘシ、従ツテ若クソノ收益ハ増加スヘシト云モ此收益
ハ却ツテ減少ヲ見ルニ至ルヘシ、故ニ集約度ノ増進ハ生産全体トシ
テ收益額ヲ最大トシムル程度ニ之ヲ限定スルコトヲ必要トスヘシ
然レトモコハ生産技術進歩スルニ至レハ自然ソノ生産費ノ一般約減
少ヲ見ルコトヲ得ルモノニシテ純収益ハ更ニ大ナルヲ得、従ツテ
又更ニ集約度ヲ増進セシムルコトヲ得ルナリ、經營ノ精粗ハ生産技術
上ノ問題ニ關聯スルトコロアルヲ知ラサルヘカラス。

之ヲ要スルニ農業集約度ノ増進ハ一定ノ面積ニ関スルソノ利用程
度ノ増進ニ他ナラサレハソノ結果ハ開墾ノ増加ト同一ノ結果ヲ生ス
ヘシ、故ニ農産物ノ増收ヲ得ントスル場合、集約度ノ増進ハ極メテ

望マシキナリ、従ツテ食糧供給ノ必要アル国ニ於テハ一國ノ国民
經濟上集約度ノ増進ハ極メテ必要ナリ、然ルニ私經濟上集約度ハ一
先ノ程度ニ局限セラレサルヲ得サルカ故ニ、茲ニ又農業技術上ノ改
良ヲ必要トス。コノ見地ヨリ見テ吾國ノ農業ハ既ニ勞力ニ集約ナレ
トモ資本ニ集約ナラサルカ故ニ此ノ莫ニ蓄積スルコト必要ナルト共
ニ農業技術ノ改良ヲ必要トスルモノナリ、但シ茲ニ此費スヘキコト
ハ英國ノ如キ國ニ付ラハ此ノ負擔ル程ヲ異ニスルコトコレ也、英國
ノ如キハ商工立國ヲ國是トスルカ故ニ一般ニ農業ヲ顧ミズ、従ツテ
一國ノ労働資本ヲ、利潤少キ農業ニ投下シ、ソノ經營ヲ集約セシ
ムンヨリハ寧ロコレヲ商工業ニ投下スルノ有利ナルニ如カサレハソ
ノ農業ハ漸次粗放化セラレ食料トシテハ低廉ナル農産物ヲ輸入シツ
、アルナリ、然レトコハ農業ヲ重要視セサル國ナルコトニ注意セザ
ルヘカラス。

第三節 土地改良論

農用地ノ問題ニ関シテハ耕地ノ面積ニ関シ研究スルノミナラスソ
ノ土地ノ生産力ニ関シ研究セサルヘカラス。即一定地積ニ於ケル生
産力増減ノ問題コレ也。然ツテコハ土地ノ力維持ニ関スルモノナレ
ハ、コレヲ土地改良論トナス。コハ一國ノ国民経済上ヨリコレヲ見
ルベシ土地ノ能率發揮ノ問題ナルヘク、又コレヲ私経済上ヨリ見レ
ハ肥料問題トシテ見ルコトヲ得、先ツ土地ノ能率發揮ノ問題ヲ
リコレヲ論スベシ。

元來一國ニ於ケル農業ノ生産ヲ論スルニ当リテ、一國ノ耕地面積
ノ大小ノミヲ以テコレヲ論スヘカラス、同一地積ヨリスル生産力ノ
増進ニ付テモ考ヘサルヘカラス、土地ノ地力増進スルニ至ラハ然令
耕地面積ノ耕積ヲ求サストモ、生産ノ増進ヲ見ルヘキヲ明ナレハ也。
即換言セハ從來ノ田畠ヲヨリヨキ田畠ヲラシムルヲニシテ、土地改

良ノ事業コレ也。土地改良ノ事業ハ法義ノ兩面ノ一ニ属セシムルヲ
ヲ得ヘシ、何トナレハ同一ノ地積ヨリ從來得ラレサリシ余分ノ改良
ヲ得セシムルモノニ他ナラサレバ也。先ツ土地改良事業トシテ挙クヘ
キハ治水事業ト水利事業トコレ也。

治水事業ハ年々洪水ニヨル地積カ土地ヲ荒廢ニ歸セシメソノ被害
甚シキ故ニ行ハル、モノニシテ水害ニ對シ土地ヲ防禦スル為メニ
行ハル、也。サレハ洪水ノ氾濫、砂礫ノ流入又ハ泥砂ノ堆積ヲ禦キ
テ農作物ノ全滅又ハ耕地ノ荒廢ニ歸スルヲ予防スルノ仕事ニスキヤ
ルモノナレハソノ効果タルマ消極的ノモノニ他ナラサル也。積極的
方策ニ非ス。然ツラ治水事業ヲ行フニ當リテハ之ニ要スル經費ハ果
シテ之ニヨリテ生スル利益ト比較シテ相償フモノナルヤ否ヤヲ見テ
行ハサルヘカラス。而シテ此ノ種ノ事業ハ廣大ノ地域ニ亘リ施行セ
ラル、モノナルカ故ニ、技術上敷設上ソノ実行ハ国家力之ニ當ルヲ
必要トスルモノニシテ、然ツラ又此ノ種ノ事業ハ只單ニ土地改良
ノ目的ノミヲ以テ行ハル、モノニ非ス、或ハ河川ノ浚深、舟路ノ開

一八
鑿井ノ如キ運輸交通促進ノ事業トモ連帯シテ行ハルベシ也。然リテ治
水事業ヲ呼フニ国家的土地改良ナリ也。然リテ水ヲ引スルアリ。

次ニ水利事業ハコレヲ二種ニ分リテ得。灌漑ト排水トコレ也。
灌漑ノ目的トスル處、水ノ時々欠乏ニ備ヘテ旱魃ノ害ヲ防クニア
リ。排水ノ主タル目的ハ所謂水漬場ノ生産力ヲ増加スルニアリ。此
等一般水利ハ一人又ハ數人ノ所有地若クハ一字乃至一村トイフカ如
キ小地畝ノ上ニ實施サレ、モノナルカ數ニ具ノ關係ハ治水事業ノ如
ク大ナラス。而モ個人ノヨク勤又度ニ非サレハ一般ニ此等關係地
域ヲ以テ組合ヲ組織セシメコレニヨリテソノ事業ヲ行ハシメツ、ア
リ。普通水利組合ト称スルハコレニシテ、其設置ニ付テハ強制加入
ノ制度ヲ適用シ、又費用徵收ノ下トトハ大體後ニ述フヘキ新地整理組合ト
同一ノ方法ヲ以テスル下ヲ定メタリ。而シテ此等農業上ノ水利ニ付
テハソノ根本ヲナスヘキ水利法ヲ定ムヘキハ必要ノ下ナルカ吾國ニ
ハ未ダソノ制定ナシ。然リテ多ク水利ニ關スル車輛ハ慣行ニ依レル
モノ也。此等慣行ノ中ニハ經濟上ノ見地ヨリ見テ土地改良ノ目的ヲ

達スルニ障害ヲナスモノナカラス。例ハハ或ル土地ヲ灌漑シテ
水一ル場合コレヲ全然見土地ノ既得權トシテ他ノ土地ニ分配スル下
ヲ認メサル慣行ノ如キ又排水ニ關スル慣行ハ用水ノ場合ヨリ更ニ機
械ニシテコレカ為メ排水不良ヲ生シ非常ナル影響ヲ及ボスカ如キ
事實ヲ諸地方ニ見ルカ如キコレ也。是種ノ水利上ノ慣行ハ根本的ニ
地利用促進方法ヲ講セんと欲スルモ往々ニシテ水利上ノ既得權者ノ
及村ヲ生スル下トナリ、而モ之レカ為メ彼等ニ満足ナル補償ヲ与フ
下トセハ收支相償ハサルカ如キ場合ヲ生スル下ト見シトセス。然リテ
茲ニ農業水利ニ關スル最近的法律ノ制定ハ甚々必要ナルヘシ。而シ
テ農業上ノ水利ハ家畜用水、工業用水等トノ間ニ複雑ナル關係ヲ生
スルモノナレハ此等水利ニ關スル法律ニ明瞭ニテソノ紛議ヲ排スル
下トナス下ト甚々必要也。吾國ニ於ケル農業ハ水田ヲソノ主位ニテク
カ故ニ此等水利上ノ問題ハ極メテ重大ニシテ而モコレカ一切慣行エ
ヨルモノナルカ故ニ夏季旱魃時ニ於テ騒動一揆ヲ生スルニ至ル下ト
ナラス。而シテ又コレ等水田用水ノ引用ハ現ニ交通ニ利用シツ、了

ルカ如キ河川ノ水量ヲ夏期ニ減セシメ、此等ノ河川ノ航行ヲ不能ナ
ラシムルカ如キ場合稀ナラサルナリ。コレハ吾國カ將ニ水ヲ必要ト
スル水田ヲ農ノ本位トセル爲メ生スルモノニシテ水利法ノ制定セラ
ル、¹ニヨリ幾分此ノ状態ハ改良セラルヘシトモ、水田ヲ本位ト
スルモノナル限リ此ノ種ノ紛議ハ絶ヘサルモノナルヘシ。而モ現在
田舎ニ於テ之等水利ヲ維持スルカ爲メ非情ナル負担ヲ爲ソツ、アル
ノ状態ニ擬シ吾人ハ吾國農業カ水田本位ニリ畑本位ニ進マン¹其
希望スヘキ¹ナルヲ憶ハス¹ハアラス。現在吾國ニ於テ島地ヲ田地
ニ變スルハ現在ノ農業經濟ノ下ニアリテハ尚之レヲ土地利用ノ増進
アリト云フ¹ヲ得ヘシ。何トナレハ現在ニ於テ田地ノ方土地能率ヲ
發揮シ得ヘケレハナリ、然レトモ吾人ハコレヲ特ニ現在ノ農業經濟
ノ下ニ於テトイフ但書ヲ附シテカク云フモノ也。如何ナル場合ニ於
テモ常ニカクノ如クナルヘシト云フ¹誠ハス。一般ニ島地ハ田地ニ
比シテ用途ノ變化多ク、然ツテソノ利用方法ノ如何ニ依リテハ田地
ヨリモ大ナル價值ヲ産出シ得ヘキ際決シラカカラサル也。吾人ハ

田ノ排水事業ヲ極メテ重要視セシム¹欲ス。水田ノ排水ハ田ヲ隘狭ス
ルモノニシテ現在ニ至テ作¹行¹地方ニ於テハ行ハレツ、アリ。水田
ノ農作ハ必スシモ穀物ヲ仕付クルノミナラス肥料トシテ豆麥、紫雲
英ノ中キヲ栽培シテ外部ノ供給ニ仰クヘキ肥料ヲ節約スル¹モ行ハ
ル。コレ土地利用ノ進歩ニ非スシテ何ソヤ。土地改良事業トシテハ
治水、水利ノ他ニ土地ノ整理事業存ス。耕地整理ト称スルモノ也。
農業經營上ヨリ見レハ今一般經營者ニ屬スル農地ハ可¹天¹的¹ニ墾
マリ、耕耘ノ作業ニ便利ナル形状例ヘハ正方形又ハ長方形ノ如キ取
状ヲナシ、農家ヲ去ル¹遠カラス、且ツ道路ニ接直シテ出入ニ便ナ
ルヲ利益トス。然ルニ在¹天¹的¹變遷ノ結果ニ出ラタル農地ノ現在ノ分
布状態ハ事實コノ理想ノ状態ト相交スルモノ也。耕地ニ於テ各ハノ
所有地一般ニ此處彼處ニ點在シ、農場ハ概木小分セラレ耕地ノ取
並ニ位置甚々区々ニシテ耕耘反ヒ出入ニ便ナラサルノ状態ヲ *Streu-*
ungelage der Grundstücke (農場交錯)ト称ス。此ノ
状態ハ將ニ吾國ノ如キ水田國ニ於テ著シク見ル¹ヲ得。又水田地ハ

ハ必スシテ明確ナル区劃ヲ要セサレトモ水田ニアリラハ水ヲ堰フル
爲メ初メヨリ一定ノ畦畔ヲ具ハサルハカラス、後ツテモ乱雑ナル
状態ハ極メラヨク見ルヲ得ル也。吾国ニ於テ斯ノ如キ田畠ノ形状
ノ乱雑ナルハ從來相傳其ノ他ノ稼穡ノ際ニ法則上耕地ノ分割ニ何等
ノ制限ナカリシニ由來スルモノニシテ、コノノハ新開ノ村ニ於テ耕
地ノ区劃比較的整齊ナルニヨリラモ知ルヲ得ヘシトモ天味水田
ハ傾斜地ニ依ルハ自然田區ノ乱雑ナルハ地取上止ムヲ得サルヲ十
ルハシ、斯ノ如キ状態ハ土地ノ能率ヲ低下セシムルヲ甚クスニシテ
具ノ作業上ノ不利不便ハ種々存スヘシ。第一ニ牛馬ヲ使役シ糞陳ヲ
應用スル農法ヲ行ヒ得ス、第二ニ耕地ノ細分ハ所在ノ隔離ヲ免ル、
能ハス雑穀ノ爲メ被覆スル勞力甚ク大也。第三ニ畦畔ノ爲メニ被覆
セラル、地積木大ナルハシ、吾国ニ於テ明治末年頃ノ調査ニヨレハ
沔陽口平均シテ耕地一筆ノ平均面積ハ五畝五歩余、一人ノ所有スル
耕地平均十四筆余ニ五分セラル、長江沿ハ平均一筆八畝内外ナルモ
田ハ一筆平均四畝ニ足ラス、官地畠ノ如キハ極端ニシテ一人平均五

十一筆余ノ耕地ヲ有シ一筆平均一畝歩余ナリ。此ノ状態ヲ改良シ、
土地ノ交換分合ヲナシ道路ノ変更廢止ヲ企テ最モ理想的ノ耕地分布
ヲ爲サントスルモノ、コレ耕地整理也。コレヲ行フニハ或ハ土地所有
者ノ任意的交換ニヨルコトヲ得ヘシトモ、一地方、一區域ノ土地
所有者力悉ク一致協力スルヲ困難ナル事情存シ、容易ニ行ハレサ
ルヲ常トスルカ故ニ耕地整理ノ実行ニハ法律ヲ制定シ、一地方ニ於
ケル土地所有者中一定ノ多数者力合意スレハ該地方内ニ於ケル不
意者ヲ毛鷲イテ耕地整理ノ事業ニ加入セシムルノ方法、諸国ニ於テ
行ハレツ、アリ。此等ノ法律ハ下林、瑞典、独逸、澳太利等ニ存セ
リ。吾国ニハ明治三十二年ニ耕地整理法制定サレソノ後数次ノ改正
アリ。コノ法律ノ規定スル地本々農地開墾ノタメニスル事業ヲ規定
シタルモノニシテ前述ノ地形ノ整理ニノミ限スルモノニ非サレトモ
長等ノ場合モ規定ヲ含ミ規定セラレタリ。強制加入ノ組合ヲ組織セシ
メ、コレニ國庫ノ補助ヲ與ヘ具ノ他勸業銀行、農工銀行ヨリ金融ノ
便宜ヲ與ヘシメツ、アリ。耕地整理事業ニ関シ注意スヘキトハ此種

ノ事業成シ遂ケタル後ハ、此ノ如クニシテ取得シタル新地状況ノ維持ヲ計ルト、更ニ又其ノ根本ニ遊リテ再ヒ耕地整理ヲナシムル必キ生シムルカ如キ原因ヲ除却スルニキテコレ也。後言セハ不脱別ノ散漫ナル分割ヲ制限スルノ法制ヲ必要トスルモノナルハシ、若シ依然トシラコレヨ各人ノ自由ニ放任セシムルナラハ加入ヲ強制シ其地命令ヲ以テ加入ノ行為ニ迄干渉シ保護ヲ与ヘタル政策ハ何等效果ナキモノトナラサルヲ得サルハシ。尙ホ耕地整理ノ施行ハ之ト同時ニ農民ヲシテ新時代ニ適應スル農法ヲ採用セシムルニキ機念ヲ与フル豫指導スルノ所要ナルハシ。

以上述ヘタル土地改良事業即チ、治水、水利、土地整形ノ仕事ハ本ク一般ニ国家至堂上ヨリ見テ土地改革ノ發揮ニ成スル事柄ナルト今時ニ土地ノ物理的性質ノ改良ニ関スルモノ也。然ルニ土地改良ノ下ハ農家ノ私經濟上ヨリ見テソノ化學的性質ノ増進及維持ハ其ノ物理的性質ノ増進及維持ヨリ一層重要也。何トナレハ物理的性質ノ改良ハ一度コレヲ行ハハ大抵永続スルモノ也。然ルニ農業ハ土地ノ肥

力ヲ消耗スルヲ本質トスルモノニシテ、後言セハ地力ノ増進ハ農業ニ必要ト伴フヘキ事實ト見サル可ラス。然レテ少シノ此意ニ付テは意ヲ爲レハ忽チソノ良性質ヲ失フハ当然ノ結果ナリ。而シテ土地ノ肥培ハ其年々ノ滋養ヲ以テスレハソノ補充極メテ容易ナリト云テ、然ラスシラ或ル程度以上ノ補充ヲ要スルカ如キ状態ニ出テ是ルトキハ地力ノ回復ハ頗ル困難也。二年以上ノ地力ヲ一時ニ補充スル下ハ普通ノ農法ノ許サ、ル処ナレハ也。故ニ土地ノ化學的性質ノ改良ハ年々繰返シテ生スル問題ニシテ思タ重要ナルモノ也。高岡博士ノ調査スル處ニ依レハ現在吾國ノ土壤ハ歐洲諸國ノソレニ比較スレハ其成分劣レルモノ、如シ。重要農産物ノ一英町歩ニ対スル生産量ニヨリ諸國ト比較スルニ吾國ノ土地生産力ハ、白耳、和蘭、獨逸、下秩新西蘭ニ劣リ、澳太利、匈牙利、佛蘭西、伊太利、露西亞、北米合衆國次第ニ流ノ諸外國並ニ新開地ニ優リ英吉利ト高麗英似セルモノナリトイフ。

吾國ハ古來稀薄ノ國ノ祿アリテ地味ノ膏腴ヲ以テ聞エタルモノ之

ニヨリテ見ルニ現在特ニ他国ニ如シタル所アルヲ見入。ソノカク
 ナルハ吾國ハ山岳地ニ富ミ且ツ降雨多キ力故ニ其ノ肥力ヲ海ニ放
 スルカ如キヲアルモノ一因タルヘシト云、古來ヨリ禾キ固無肥料
 耕作ヲ行ヘリタルヲ為メナルヘシ。地力維持ノ問題ハ甚メ重要也
 土地ノ肥瘠ニ関シテハ昔ハ全ク之ヲ天然ノ事實ト見タリ、然レトモ
 然レニ於テハ *Shilling* (1803-1804) ハ肥料ニ関スル研究
 ヲ大成シテ自己ノ農場ニテ生産セサル肥料ノ必要ヲ力説シテ土地肥
 カ補充ノ必要ヲ論シタルカ如キ一級肥料ニ成スル觀念ヲ承連セシム
 レニ其ツラカアリシモノニシテ故乙ノ農業上ノ生産力ハコレヨリ發
 達セリ、即チ土地ノ肥瘠ハ天然ノ事實ニミ上ルモノニ非スシテ
 入力ニラ左右セシムルコト得ルモノ也。而シテ農家力如何ナル程度
 ニ土地ヲ愛護シ土地荒廢ヲ防クヘキカハコレ各如私經濟上ノ事情ニ
 シテ、各個人ノ計策ヨリセハ或ハ肥料ヲ使用セ又寧ろ掠夺農法ヲ行
 フ方又ツテ利益ナル場合ニ存スヘク、又肥料力極メテ高價ナルトキ
 ハ寧ろ口土ヲ施サシムルコトスヘク、又ハ土地ヲ耕ラントスル場

合、又ハ借地セルニ地ヲ貸ヘサントスル場合ノ如キ或ラ放散スルモ
 ノナカルヘシ。然ツラ土地力維持ノ問題ハ結局各農家ノ相々ノ問題
 トナラサルヲ得ス。然レトモ一國ニトリテハ如何ナル場合ニテリテ
 モ地力ノ永久ノ減退ハ決シテ思フコト能ハス。
 然ツラ茲ニ如何ニセハ各農家ヲシテ地方ノ維持ニ努力セシムルコトヲ
 得ルカ、後言セハ各農家ヲシテ地方ノ愛護セシムヘキ力如キ方法ヲ
 施スコト必要ナリ。地方ノ減退ヲ起起セシメナルカ如キ農業經營ヲ本
 ク行ヘシムルコト爲サシムルヘカラス。

先ツ第一ニ考フヘキハ自作農ト小作農ニ関ス、英吉利ノ *Quakers*
Quakers カノ土地所有ハ土地ヲ黄金ニ化スレト云ヒタルカ如ク土地
 ノ改良ハ土地ノ所有者ニシテ起メテ行ハル、借地農ニ在リテハ土地
 ノ改良ニ熱心ナラシムヘキ動機少ナカルヘシ。此ノ理ニ付テハ小作
 ニ如何ナル條件ヲ附スルモ自作農ニ反ハス。地力ノ維持ハ自作農タ
 ルニ於テ始メテ安全ナルヲ得ヘシ、然ツラ土地ヲ自ら經營セ又或ハ
 又少クモ土地ヲ自ら經營スルコトヲ不利トスル地主ノ増加並ニコレニ

件ハ作農ノ増加ハ一國ノ土地生産力維持上ヨリ見テ不利益也。コ
 等ノ莫ニ付テハ吾國ノ農業上考慮スヘキ向題多々存スヘシ、第一
 ニ考フヘキハ農業耕種ノ種類ノ向題ナリ。歐羅巴ニ於テ合理的農業
 至管ヲ行フニ飼畜ト耕種トハ離ルヘカヲサレモ、ト考ヘル。然レニ
 於テ三圃農業時代ニアリテハ主トシテ穀物ノ栽培ニ專ラニシテ主穀
 農ナリシカ故ニ土地ノ生産力衰ヘタリシモ、十八世紀下半期ヨリ首
 及蕪菁ヲ次ク我若シ穀類ノ栽培ト相俟ツテ家畜ノ飼養行ハルハニ
 至リ土地ノ生産力ヲ増スニ至リタリト、又白耳義ノ説ニ「家畜ナケ
 レハ肥料ナク、肥料ナケレハ收穫トナシトアリ。飼畜力地力ノ維
 持ト関係アル」トコレニヨリテモ知ルコトヲ得ヘシ。然ルニ吾國ノ農
 業ハ主穀農ニシテ農耕地ノ七割ニ分ハ穀類ノ栽培也。而シテ飼畜殆
 ト行ハレズ、ソノ結果穀類ノ連作行ハレ厩肥ヲ得テ土地ノ養分ヲ復
 還スルコト少ナク又飼料作物ヲ栽培スルノ必要ヲキタメ經營上穀類
 ノ連作行ハレ適當ナル輪作法ヲ行フ能ハサル也。地方ノ漸次衰ヘ行
 クハ勢ノ免レサル處ナルヘシ、吾國ニ於テハ此莫ニ慮シ改良スル」

必要也。吾國ニハ古來ヨリ人糞尿廣ク用ヒラレツ、アリ。而シテ此
 ノ「*Kiichig*」カ地目スル處トナリ極メテ推賞セラルルモノ
 ノナレバ今ヤコレハ自給肥料トシテハ養分ヲ失ヒツ、アルニ似タリ
 柯トナレハ近年大都會ノ發生スルニ至リタル「*ニシテ*」農場ヨリ搬出
 セラレタル農産物ノ一半ハ此等都會ニ於テ消費セラレ、而テコレ等
 ノ排泄セラレタル人糞尿ハ多ク衛生上、裝飾上其他ノ理由ヨリ下水
 溝ニ放流セラル、ト一般ニシテ再ヒコレヲ肥料トスル「*ト*」ヲ辭サス、
 即作物ト肥料トノ間ノ部分タケ行フ「*ト*」ヲ得ズ、ソレニ代カ「*ト*」回收ヲ
 困難ナラシムルヘシ、而モ木入糞尿ノ取扱ハ衛生上ノ見地ヨリ見テ
 歡迎スヘキモノニ非ス。將來ノ吾國ノ自給肥料ハ是非トモ家畜ノ飼
 養ニヨリテ得ル「*ト*」トナスヲ良好ノ策ナリト信ス。第三ニ現在ノ農業
 ハ自給肥料ノミニ倚ツ「*ト*」能ハス、外部ヨリ肥料ヲ補助スル「*ト*」必要也
 然ツテ購入肥料即金肥必要也、自給肥料ノミヲ以テシテハ土地ノ沃
 度ヲ一段ト増進セシムル「*ト*」ハ甚タ困難也、金肥ヲ一段ニ用ヒシムル
 「*ト*」ト為スカ為メニハ一畝ニ農家力此等肥料ニ対スル化学上ノ新智識

ヲ必要トスルモノニシテ、コレハ農業教育上ノ問題ニ関連スルニ至ル可ク、又金融ノ使用ハ農業金融上ノ問題トモ相関聯スヘシ。現在農氏ノ無智ナルニ由リ肥料会社カ無用ノ肥料ノ購入ヲ廣告スルカ如キ下アリ、又此等販売肥料ノ代金ニ関シテハソノ回收ヲ收獲後二期ンソノ回収ト高利ニ為スル利率ヲムサハルモノアリ、コレ等ノ諸般ハ又考フヘキ事柄也。

一三〇

第三章 農種選擇論

農業ハソノ生産過程ニソノ特色ヲ認ムヘキモノトナシ、吾人定義シテ人カ動物及植物ヲ飼育栽培シテソノ産物ヲ收取スル行為ヲ云フトナセリ。従ツテ動物植物ノ育成行為ハスヘテ農業ト看做スルヲ得ルモノナルカ、ソノ主トシテ實際ニ重要ナルハ新種業ト飼畜業ト也而シテ此等耕種ハ食用作物類ノ栽培ト特用作物類ノ栽培トニ別タルヘク又牧畜ニアリテハ牛馬等獸類ノ飼育ヨリ家畜乃至良吏樹ハハ蜂

蚕ノ飼育並ニ養魚ヲ含ムヘシ。而シテ此等耕種牧畜ノ外ニ林業モ本義ノ農業ノ中ニ含まルヲ得ルモノ也。農業ハ斯ノ如クソノ種々雑多ニシテソノ孰レノ種々ノ農業カ行ハルカハ土地氣候等ノ自然條件並ニ周囲ノ至濟並ニ社会事情ニヨリテ決定セラルヘモノナレハ一國農業政策上トノ方面ノ農種ヲ導ラトスルヲ適當トスルカノ問題ハソノ解決甚タ困難ニシテ一概ニ論結スルヲ得ス。各地方各佃ノ具體的事情ヲ顧慮シテ始メテ決セラルヘキ事柄也。然レトモ一國ノ土地ニハ限リアリ又一國ノ農業ニ期待スル効ノモノ略定マレリ。サレハ農種ノ方向ハ具ノ最モ必要トシ又一國ノ最モ利益トスル種々ノモノヲ選択セシムヘク農家ヲ指導スルヲハ極メテ必要也。従ツテ吾人ハ茲ニ吾國將來ノ發展ニ適シテソノ經濟ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルタメ如何ナル種々ノ農業ヲ選択スヘキカコレヲ論セント欲ス。

元來一國ノ農業ノ種々ヲ一方ニ偏セシムルノ不利益ナルヲハ人々ノ既ニ説ク處也。例ハハ耕種ノミニ偏シ、或ハ牧畜ノミニ偏スルカ如キ之レニシテコレ等ハ希望スヘキ状態ニ非ル也。然ルニ吾國ノ

一三一

農業力耕種ニノミ倚シ、而モ主穀農タルヲハ既ニ述ヘタル也。農ニシテ管ムル是タ單純ニシテソノ飼畜ノ行ハル、ト甚タ稀也。先ツ第一ニ此實ヲ改良セサル可ラス。歐洲ノ諺ニ「家畜ナケレハ農業ナシ」ノ言葉アリ、コレヲ以テ見レハ吾國ハ農業ナキニ異ラス。元ヨリ吾國ニ於テハ中古以來肉食ノ風ヲ禁シ、乳汁及乳製品ヲ食フヲナク又毛織物ヲ用フルヲモ甚タ少カリシカ故ニ飼畜ノ行ハレズ。又農耕ニ於テモ動物ノ力ヲ借ルト甚タ少ク、主トシテ人カニヨリ耕作具ノ他ノ業務ヲ行ヒ來リタルト共ニ農場ニ施用スル肥料トシテハ人糞尿ヲ最モ尊ヒ厩肥ヲ利用スルヲ少カリシカ故ニ動物ノ飼育ト農耕トハ全然分離シテ發達シ來レル也。然ツテ斯ル主穀ニ備セル農業ヲ生シ來レルヲ元ヨリ怪ムニ足ラヌト虫食モ今ヤ動物飼育ノ必要ハ甚タ大ナリ。ソノ理由トスル地誌ヲ第一ニ肉食ノ風一般ニ盛マリ來リタルト共ニ牛乳飲用者モ増加シ來リ、從ツテ食用トシテノ畜産品ノ需要甚タ増加シ來リタルノミナラス、コレハ又國民營養ヲ保持スルニ於テ甚タ必要ナルモノナルヲコレ也。第二ニ馬ハ軍馬トシテ甚タ

重要ナルノミナラス、農業上牧畜使用ノ擴張ヲ祈ルノ必要アルヲコレ也。吾國ノ農業ニ於テハ牧畜ハ未タ重要ナル地位ヲ占メ居ラサル也。欧米諸國ニ於テハ動物ニ非サレハ殆ト農ヲ行フコト能ハスト考ヘラル、ヲ常トシ、カノ西半球ニ於ケル新大陸カ現時農業上ノ有力ト競争者トシテ旧世界ニ現ハル、ニ至リタルハ、ソノ開墾力主トシテ牧畜ノ利用ニヨレルモノナリト主張スルアルヲ見テモ動物ノ農業ニ於ケル効用ノ大ナル察知スルヲ得ヘシ。元來吾國ノ農業經營カ種々ト過小ニシテ大農ノ成立シ難カリシト種々ノ原因存スレトモ牧畜ノ利用少カリシトソノ一因タルニ非ルヤ、疑ナキヲ得サルモノニシテ、將來農業上ニ於テ牧畜ノ利用ハ機械ノ使用ト相俟ソテ行ハルヘキモノナルヲ信ス。第三ニハ前欸ニ於テ述ヘタル如ク吾國農業ハ自給肥料トシテ人糞尿ニ代リ厩肥ヲ用フルニ至ルヘキヲ甚タ希望スヘキヲナレハコノ實ヨリ現テ家畜ノ飼育本重要也。斯ノ如ク吾國農業ニ於テモ欧米諸國ニ於ケルト同様農業ト飼畜トノ關係ヲ密接ニシ以テ兩者ヲ互ニ補助ケ、動植兩產物ノ自然的ニ相補助スヘキ特

性ヲ利用シテソノ生産ヲ増加セシムルトセサルハカラス。但シコ
コニ注意スハキトハ大体家畜ノ飼養ハ小動物ノ英ヲ除キ其ノ性質上
多ク大農組織ニ造スルモノニシテ小農ニハコレヲ造ナラシムルト困
難ナル事情存スルトコレ也。然ツテ吾國ノ如キ小農國ニアルテハ飼
畜ノ必要コレアリトナスト魚、ソレヲ實現スルノ不可能ヲ説クモノ
アリ。勿論畜産上一般ニ大農ハ小農ニ比シ多大ノ便宜ヲ有スルモノ
ナリト云モコトタル小農必スシモ大農ニ劣ルモノニ非ス。殊ニ
家畜ノ保護ニ付テハ恰モ家族ノ一員ニ与フルカ如キ親切ト注意トヲ
以テ取扱フト中小農家ニシテ始メテヨシ之ヲ為シ得ルモノニシテ、
又種畜ノ飼育、畜産製造ノ便宜等ニ於テノミ困難トスルモノナレハ
コレ等ノ良ニ因シ小農ニ於テ飼畜又ハ畜産利用組合等ヲ組織セシメ
小農ニ欠クル便宜ヲ与フルトナスハ甚ク必要也。小動物類ノ飼養
殊ニ飼豚、飼鶏ハ大農ヨリハ寧ロ小農ニ於テ殊ニ當ルト云
ルモノナレハ吾國ノ如キ小農國ニハ特ニ推廣セラルベシ。
第二ニ農種選取上注意スハキトハ吾國ノ耕種カ米田ニ偏セルトコ

レ也。米ハ吾國ニ要食料ニシテ而モ封建時代ニアリテハ租税トシテ
米ヲ要求セラレタルカ故ニ田地ハ非常ニ尊重セラレ土地ノ善良ニシ
テ灌溉ノ便アル竹ハ悉ク水田トシテ水稻力仕付ケラレツ、下ルカ如
キ有稔ニシテ一般農家ハ田ヲ作ラサレハ農ニ非サルカ如キ親食ヲ有
ス。然ツテ水田耕作ハ古來ヨリ蓄積セラレタル經驗上ノ耕種ノ技術
ヲ發達セシメ、極メテ巧妙ナル栽培ヲ行ヒ、現在ニ於テ畑ノ主要作
物タル小麦ハ稗麥トトニ比スルニソノ收穫率最モ大ナリトス。然
レトモ吾國農業ハアマリニ水田ニ偏シスヤタリ。然ツテ今や水田ニ
ナシ得ル限りノ土地ハ開拓シ盡サレ水田適地ハ既ニ耕作限界ニ達セ
リ、故ニ水田ヲ農業ノ中心トナス限リソノ新地ノ擴張ヲ期待スルコ
トヲ得ス。而シテ又新ニ農業ヲ開始セントスル者ニトリテハ水田ハ
余リニ高價ニシテ甚ク不利益也。加之農業上機械ノ利用シ難キト田
ニ優ルモノナク將來ノ農業ノ進ム可キ途ニ非ス。又水田ハ農用地ト
シテソノ用途ノ變化頗ル乏シク、稻以外ニハ簡單、運反甚等ヲ植
若シサルニ止マリ、周圍ノ經濟狀態ノ變化ニ在リテ便宜ノ作物ヲ選

収得シテ利益ヲ收ムルヲ得ス。又水田ト飼育トハ両立セザルモ
 ノニシテ吾国農業ノ備倚ヲ甚シカラシムル具ノ一因ヲナス。其ノ他
 耕作労働ノ不愉快十二指場災ノ如キ衛生上ノ危害ハ水田ニ於テノミ
 コレヲ見ルヲ得ヘク、勞力ノ繁困ヲ甚シカラシムルモノ水田ヨリ
 甚タシキハナシ、水田カ灌漑用水ヲ多量必要トスルモノナルカ故ニ
 国民經濟上ノ他ノ利益ト衝突スルモノナリ。ハ既ニ述ハレルトコ
 也、斯ク考ヘ來ルニ於テ吾国將來ノ農業カ水田本位ヲ高置スル必要
 アルハ明ニシテ烟本位ニ進ムト爲サ、ル可ラス。然レトモ吾国農
 業カ烟本位ニ進ムト爲、吾国主要食料カ米タル限り現在水田中ハ
 農業ハ改ムルヲ得サル、キカ故ニ主要食料變更ノハコノ向題トテ
 睚シテ考ヘサルヲ得サルナリ。然レトモ一国民ノ主要食料變更ノ困難
 ナルヲ披ヒニ於テ馬鈴薯ヲ食料トシテ普及セシムルニ約一世紀ヲ要
 シタルニ鑑ミラモ明ニシテ、コノコトタル實現スルニ甚タ困難也。
 依ツテ將來ノ農業トシテ不適當ナル水田ヲ賣レテ烟ニ進ムト欲セ
 ハ果非トモ稻ヲ烟ニ仕付クルコトヲ考慮セザル可ラス。少クトモ現

存ノ水田ハ其ノ存トシテモ現在ノ烟並ニ將來擴張セザル、キ烟ニ於
 シテ稻ヲ栽培スルヲ研究セザル可ラス。吾人ハ陸稻栽培ノ研究カ
 吾国農業ノ備倚ヲ救フヲ大ナルモノナルヲ信スル也。現在吾国ニ
 於テ烟ニハ米ヲ除キタル餘ヲノ穀物並ニ特用作物ハ栽培セザレツ、
 アリ、烟ハ農用地トシテソノ用途甚タ多種也。然ルニ然モ吾国ノ農
 業ハ水田ノ作物即チ米ニ付テハ外國トノ競争存セザリント云々烟作
 物ニ付テハ甚タ競争ヲ受ケタリ。何トナレハ我國ノ農業ハ烟作
 ニ於テ最モ多ク諸外國トハ様ナル作物ヲ耕作シタルカ故也。其最モ
 著シク海外ノ競争ヲ受ケタルハ綿、甘蔗、小麦、大豆、蠶、苧麻等
 ナリ。然レトモ斯ノ如ク海外ノ競争ヲ受ケタルトハ時ニ又海外國ト
 競争シテソノ市場ヲ石ムハキ業ノ作物ヲ栽培スルヲモ吾国ニ期待ス
 ルコトヲ得。農業上ノ妙味ハ水田ノ如ク既ニ作物ノ固也セザル烟ニ
 存スルモノニシテ將來經濟事情ノ衰遷ニ應シテ最モ有利ナル作物ヲ
 栽培スルキ可能性ヲ有スルハ烟ナリトス、吾人將來ノ農業カ、烟本位
 ナリトナスハ此實ニ存ス。又將來家畜ノ飼育盛ナルニ至ラハ貝等飼

用作物ヲ栽培スヘキ地モ畑ナラサル可ラス。牧畜盛ナルニ至ラハ牧
草耕作モ亦重要也。西部歐洲諸國ニ於テ牧草耕作ハ普通作物ノ收穫
ヨリ多量ニシテ、然ツテ牧草ハ多ク蓄積ナル地ニ耕作セラレ給モ
吾カ水田ノ地位ヲトルモノナリト云フ。現在吾國ニ於テ此等西歐
諸國ニ於ケル牧草耕作ニモ此スヘキハ桑ノ栽培也。桑ノ栽培ハ近年
著ク増加シタリ、コレ蠶桑ノ飼養ニ伴フモノニシテ養蚕ノ必要ニ
付テハ後ニ述フヘシ。吾人カ特ニ注目セント欲スルハ園藝作物ノ栽
培也。蔬菜ノ栽培ハ從來重要視セラレサリシモノナルカ商工業盛大
トナリ農業ヲ管マサル人々ヲ生スルニ及ハハソノ價值ヲ生シ来ルモ
ノニシテ特ニ大都市ノ近傍ニ於テ發達スヘシ。果樹栽培モ亦同様ニ
シテ特ニ肉食ノ風盛ナルニ及ビ精良ナル果實ノ需要益々生スヘシ。
歐洲ノ西南諸國特ニ仏蘭西、白耳英ハ此種園藝作物ノ栽培盛ニシテ
ソノ近傍ニ英、佛、如キ商工業盛ナル國存スルカ故ニソレ等ノ國々ニ
対スル輸出品トシテ重要ノ地位ヲ占メツ、アリ、吾國ニ於テハ近傍
ニ英、佛、如キ大商工業國ナク致レモ貧弱ナル農業國アルニ過キサレハ
ソノ園藝ハ到底白耳英、仏蘭西ノ如ク盛ニナス下能ハサル可シトモ

我國ノ將來商工業ハ向木發達スヘキカ故ニ、ソレ等生産物ノ需要増
加シ来ルヘキハ明也。而シテ之等園藝ノ栽培ハコレヲ工業ニ比較セ
ハ、カノ穀物栽培カ工場労働ノタリニ及シ、コハ寧ロ手工業的ニシ
テ吾國ノ如キ小農國ニ於テコレヲ普通作物栽培ノ傍ヲ行フニ過シ、
コレカタメ農業労働上ニ於ケル繁閑不整ノ状態ヲ調節スルノ手段ト
ナスコトモ得ヘシ。

最近ニ吾國ニ於ケル養蚕ハコレ吾國農業上ニ於ケル唯一ノ重要ナ
ル動物飼育業ナルカ、生糸カ現在吾國ノ輸出ノ大宗ニシテ國民經濟
上重要ノ地位ヲ占ムルモノナルトハ時ニ數條業並ニ絹織業カ吾工業
中重要ノ地位ヲ占ムルモノナルニ觀ミ且タ重要ナルモノト云ハサル
ハカラス。而シテ絹ノ世界的需要ハ増進シツ、アルモノニシテ吾國農
業ノ主力ヲコノ方面ニ注クコトモ亦考ヘサルヘカラス。而シテ今後
有利ニ開墾シ得ヘキ耕地ハ主トシテ畑地ナルカ、コハ桑園トシテ植
張シ得ヘキ余地尠分ニ存スヘク、特ニ小農カ自己ノ住宅ヲ蚕室ニ宛

テ養蚕ヲ行フ場合ノ如キ、固定資本ヲ多大ニ必要トセザル可ク、ソ
ノ有利ナル下ハ幾多吾國農業ノ不振ヲ補フモノナルベシ。

一四〇

第四章 農業金融論

農業ハ概リナキ銀行ノ増殖ニ應スルタメ限リアル土地ヨリシテ益
々多量ノ收穫ヲ得ル事ヲ必要トス、多額ノ收穫ヲ得ルニハ多額ノ資
本並ニ勞働ヲ土地ニ投下シ集約ニ農業ヲ經營スル事ト爲サ、ル可カ
ラス、然ルニ農業經營ノ基本トナルハ土地ノ價格亦益々騰貴スル
ニ至ルカ故ニ農業ヲ営ム者ハ資金ノ融通ヲ受テ之ヲ行フ事トナサ
ル、可カラズ、茲ニ農業金融ノ必要ヲ生スルナリ、農業金融トハ換
言セハ農業資本ノ供給ヲ意味ス

一般ニ現在經濟上ノ趨勢ニ鑑ミルニ資本ハ益々増加セリ。而シテ
又国内ノ資本不足セハ外国ヨリ供給モ亦期待スルコトヲ得、從ツテ
一般産業ニ對シテ資金ノ供給甚々潤沢トナリ、農業ニ對シテ亦然
ルハ々等ナルカ其ノ實際ハ然ラス、ソノ爲レ所以ハ農業資本ニハ商
工資本ト相合ンカラスナル也、モノ存スルカ故ナリ。

一四一

柳々農業ノ資本ハ商工資本ニ比較シテ一畝一回收ノ期間長シ。而カ
 モ年々ノ流通資本ニ付テ見レモ農作物ノ生産ハ一年一回一シテ小ク
 比數ヶ月ヲ要ス。此結果商工業ノ資金融通カ日ヲ以テ數入。週ヲ以
 テ數フルト甚タ趣ヲ異ニシ。農業ニ於テハ遂々收穫ノ日ヲ指定セサ
 ルヲ得サルノ状態ニアリ。
 如斯各生産期毎ニ必要トスル流動資本ニ付テモ比較的長期ノ借入ヲ
 必要トスルノ三ナラス土地改良ノ為メニ投セラル、固定的ノ資本ニ
 至リテハ永々期間ニ亘リソノ利益カ継続セラル、モノナル年々之
 ヲリ收メ得ルハ償還額ハ極メテ小額ナラサルヲ得ス。土地購入資金
 一如クハ資本ヲ投下シタル效果ハ永遠ニ存スルモノナルカ故ニ之ニ
 相當スレ報償モ亦其土地ノ永遠ノ經營ニ由テ回收シ得ルハモノニ
 シテ、甚タ永々期間ニ於テ僅ニ其全部ヲ回收シ得ルハ性質ノモノナ
 リ。而シテ農業ハ商工業ト比較スルハ此種固定資本ヲ要スル割合
 甚タ多ク、企業ノ規模小ナル割合ニ開業資本ノ多額ヲ要スル産業終
 ラシハ農業ニ過グルモノナルハシ。サレハ農業資本ノ第一ノ特性

トシテ長期ニ因テセラルハモノナル事ヲ導クルコトヲ得。加之農
 業ハ元來ノ収益率甚タ低ク、到底商工業ノ如ク高々収益歩合ヲ期
 待スルコトヲ得ス極メテ獲利ニ甘ンセサルヲ得ルヲ以テ、ソノ利
 子モ亦低安ナルコトヲ必要トス。コレ農業資本ノ第二ノ特性ヲ示
 セリナリ。
 斯クノ如ク農資本ハ長期ニシテ尚低利ナラハハニ大特色ヲ有スルモ
 ノナレハ依令一國ノ資本増殖スルト迄農業方面ニ対スルソノ供給ノ
 潤沢ヲ期待スルハモト甚タ無理ナルモノト云ハサルヲ得ス。従ツテ
 農業金融ノ問題ハ普通ノ方法ヲ以テハ解決スルコトヲ得ス。特ニ農
 業ニ対シテノニ特別ニ金融ヲ專ラニスルハ機關ヲ必要トセサルヲ得
 サルナリ。而シテ商工業方面ニ於ケル金融機關ハ普通ノ商業銀行、
 其任ニ當ル事ヲ得ルハク、而カセ一畝ニ大規模業ハ株式会社ノ如ク加
 織ヲ取ルカ故ニ、株式又ハ社債ノ如ク資本証券發行ノ形式ノ下ニ資
 金ノ需要ヲ充タス事ヲ得ルモノニシテソノ資金ノ募集ニ困難ナラス
 ト云、農業ニアリテハ長期且低利ノ資金ヲ供給スル機關ヲ必要トス

ルモノナレハ、ソノ機関カソノ金融ニ充当スヘキ資金ヲ蒐集スルニ
 際シテモ何等カノ特殊ノ便宜ヲ與フル事ト為サハルヘカラス。ソレ
 各國ニ於テ特殊ノ特权ヲ有スル農業金融機関ヲ國家保護ノ下ニ聯
 セシメ未レル所以ナリ。
 而シテ農業金融ハソノ資金ノ融通ヲ受クル者カ提供スル担保ノ有無
 ニヨリテ對物信用ト对人信用トニ分ツコトヲ得ヘク、又ソノ担保ヲ
 供スル場合ノ對物信用ハ不動産信用及動産信用ノ二ツニ分ツ事ヲ得
 ヘシ。然ルニコレ等諸担保ノ中不動産持=土地ハ減少スル虞ナリ、
 極メテ確實ノモノナレハ農業金融機関トシテハ不動産担保ノ下ニソ
 ノ資金ノ融通ヲナスモノ最モ容易ヲ未セリ。然ツテ現在ニ於テハ不
 動産金融ハ農業金融ノ別名タルカ如キ状態ニ存スルナリ。吾國ニ於
 テ此種農業金融機関トシテ日本勸業銀行ト各府縣農工銀行ト存ス。
 コレ等ノ銀行ハ公田、產業組合ニ對シテ無担保ノ对人信用ヲ以
 テ貸付ヲ為スコトアリト虽一觀ノ個人ニ對シテハ不動産ヲ担保トシ
 テ貸付ヲナスモノナリ。而シテコレカ貸付ハ前ニ述ヘタルカ如ク長

期且低利タルコトヲ必要トスルモノナレハ債券ヲ發行シテ資金ヲ蒐
 集スルノ特权ヲ有セシム。従ツテ農業金融機関トシテ專ラ活動スル
 處ノモノナリト虽ソレノミナラス市街地ニ對スル貸付等ノ一般不動
 産金融ヲモ當ムモノナルカ故ニ農業ニ對シテノ專ラ便宜ヲ計ル事
 ヲ得ス。而シテ銀行ノ立場ヨリ見レハ市街地ヲ担保トシテ貸付ヲ
 ナス方、都市土地價格騰貴ノ傾向著シキ今日ニアリテハ寧ろ安全ナ
 レハ農業金融機関トシテ完全ニ機能ヲ發揮シ難キノ憂ナシトセス。
 而モ又コレカ農業金融機関トシテモ不動産金融ニ限ラレタルモノナ
 ル事ハソノ範圍極メテ狭シト云ハサルヘカラス。吾國現在ニ於テ農
 民ノ約三割カ自作農タルニテ、他ハ小作農タルカ又ハ自作農ニシテ
 小作農ヲ兼スル者ニシテ金融ヲ受クヘキ資本タル土地ヲ有セサルモ
 一也。従ツテコレ等多數ノ農民ハコノ金融機関ヨリ資金融通ヲ受ク
 ルコトヲ得ス。換言セハ吾國農業金融機関ハ大多數ノ此等農民ニ對
 シテハ金融機關タル使命ヲ有シ居ラサルナリ。改羅巴ニアリテハ土
 地ノ所有者ト土地ノ經營者トカ大體一致セル事ハ莫ニ述ヘタル如ク

十レハ不動産金融ハ農業金融タルノ実ヲ有スハシ。然ツテ農業ニ対スル不動産金融機関トシテ最モ古キ者ヲ有テ、其組織ノ完備セル者ニ於ケル地主金融組合 (Landeschaft)、土地信用金庫 (Landes Kreditkassen)、土地改良地代銀行 (Landeskulturbank)、Rentenbankieren) 如キ、又作爾四ヶ於ケル不動産銀行 (Banques foncières) 如キハ農業金融上 (活動) 頗ル大ナルモテ、於テハ然ラズシテ寧ロ農業ヲ管マサル地主ノ金融機関タルノ実状ニテリ。吾國ノ地主ハ土地ヲ小作ニ貸シ付ケ、小作料トシテハ米ヲ收納スルモノニシテ、吾國市場ニ賣リ出サレ、米ノ一半ハ地主ノ手許ニ集メラル、モ、徒ツテハ吾國民ノ主要食料タル米、供給ハ地主ニヨリソノ一半ハ支配セラル。而セ此等地主ハ前記金融機関ヨリ土地担保ニヨリ金融ヲ受クルノ便宜アルカ故ニ此等ノ借入レヲシテタル資金ハ農業ノ農業ニ使用セラレ、ニ非スシテ地主ノ米ニ関スル投機ニ使用セラレ、ノ傾向ナキニ非ス。コレ地主ノ米ニ関スレ投機カ吾カ米價ノ騰落ヲ隨性的ニ甚シカラシムルモノナルコトニ付テハ、後ニ述ブレル所

ルハシ。要之吾國ニ於テ農業金融機関トシテ將欲セラレタル此種機關カソノ実ヲ有セサルコトハ、甚シク欠陥ナリ。吾國ノ農業力勞力ノ方面ニ於テハ既ニ十分ニ集約ナリト云、資本的ニ極メテ組織ナレトハ既ニ迷ヘレル處ナリ。吾國農業ノ健全ナル不達ヲ企圖センカ為メハ農業上ノ機械ノ使用、土地改良ノ為メニスレ投資、此力維持ノタメニスル合理的金融ノ使用等ヲ促シ、以テ資本的ニ更ニ集約ナラシムル事ハ極メテ必要ナリ。コレカ為メニハ特ニ農業金融ヲ円滑ニ為サバムルヘカラス。ソレカ為メニハカハル地主金融ノ三ニ備スル不動産担保金融ヨリ更ニ進ンテ動産信用並ニ対人信用ノ金融機関ニ関テ考フル處ナカルヘカラス。然ルニ農業金融ニ関シテハ諸國ニ於ケル現状未ダ動産信用並ニ対人信用ノ方面ニ関シテハ不達セズ主トシテ不動産信用ノ制度ノ三不達セリ。コハ前述セル如クソノ上シ地ニヨリ担保能力ニ富ムモノナルニ及シ、動産信用ニ関シテハ担保タルハ適當ノ動産小フ又対人信用ニ関シテハ經濟一銀ニ不達シ個人ノナル信用ノ基礎十分堅固ナルニ至リタル上ナラテハ故ク行ハ

難々事情アルカ故ニ他ナラス。動産信用ニ付テハ大体ニ種アリ。
 ソハ担保ニ依セラル、動産カ債権者ニソノ占有ノ移サレ、場合トアリ
 マ移ス事ナク債権者ノ手許ニ於ケル低担保ニ依セラル、場合トアリ
 然レモ普通一級ニ動産担保ハ借入ノ形式ニ行ハル、例トスルモノ
 ナルカ故ニソノ担保ニ依セラル、ノ動産ノ占有ヲ移スヲ例トシ、或
 ハ之ヲ債権者ノ手ニ渡スカ、然ラサレハ之ヲ倉庫ニ寄託シ、倉庫ハ
 債権者ノ為メ之ヲ保管スルコト、トスヲ一級トス。而シテ動産担保
 トシテ提供スヘキ物件ハ農産物即農家カ收穫シタル生産品ヲ最モ適
 当トスルモノナルカ故ニソノ農産物ヲ倉庫ニ寄託シ以テ担保ニ依ス
 ル方法度ク行ハレツ、アリ。而シテコノ事タル倉庫業務ノ發達ト共
 ニ此等ノ寄託物件ヲ物权的ニ代表スル証券ハ時ニ倉庫証券トテ發行
 スルコト一級ナルカ故ニ農業ニ在ツテモ農業倉庫又ハ普通ノ穀物倉
 庫業務達セル所ニアツテハ其在庫農産物ヲ物权的ニ代表スル証券カ
 發行セラレ、之ニヨツテ貸入担保ノ行ハレ、場合小カラス。然ツテ
 農業ニ於ケル動産信用ノ發達ヲ期スルニ付テハ農業倉庫發達ノ必要

ナルコト明カナルヘシ。農業倉庫發達セサルニ於テハ農民ハ農産物
 ヲ担保ニ提供スルコトヲ得ス、従来農産物トテモソレカ農民ノ手ヲ
 離レ商人ノ手ニ入り、揮金ニ於テ商品化シタレ場合ニアリテハ容易
 ニ金融ノ目的物トナルコトヲ得タレモノナレモ、農村ニ於テ農民ノ
 手ニアル間ハ從來絶対ニ金融ト交渉ナカリシモノナリ、コハ甚農産
 物保管機關タル農業倉庫發達セザリシカ故ニ他ナラス。元ヨリ農業
 倉庫ノ目的ハ又單ニ金融上ノ目的ヲ有スルニ止マラス、農民ニ於ケ
 ル農産物販賣ヲ容易ナラシメ且又農産物ノ保管ヲ完全ナラシメ、一
 面一因ニ於ケル食糧ノ減損ヲ防止スルノミナラス、主要農産物ニ関
 スル價格ノ調節ヲ計レカ如キ目的ヲ有スルモノナリ。然レモソノ
 主トスル必農家ニ動産信用ノ途ヲ開クノ便宜ヲ得セザルニイリ、
 此等農業倉庫 (Grain Elevator) ハ北米合衆國ニ發達セリ。然レモ
 コハ當利事業トシテ営マレ、モノニシテ其目的穀物ノ保管ニ存セリ
 ト云、一級倉庫業者ノ營ム倉庫ト大シタル相違ナク純商業的ノモノ
 ナリトス。故ニニ於テモ米國ノ倉庫ヲ模倣シテ穀物倉庫 (Kosher)

kindeu) 設立セラルハニ至リシカソノ制度ハ北米ノソレト異リ産
 業組合又ハ地方自治体或ハ政府ノ設立スルモノニカハリ、農民ノ利
 益ヲ計ラント欲スルニアリ。吾國ニハ古来ヨリ米券倉庫ナルモノ存
 ンタリシカ大正六年農業倉庫法ヲ制定シ農家經濟ノ補助機關トシテ
 存立セシムルコトヲ期セリ。而シテ産業組合、農會又ハ農業ニ關係
 アル公益法人並ニ市町村カ經營スヘキモノトナシ、穀物又ハ商ノ保
 管ヲ目的トシ、其倉庫ハ等穀物ニ對シ自身金融ヲ爲シ得ルモノトス
 即此等ノ倉庫ニ對シテハ國庫ヨリ低利ノ資金ヲ貸付シ以テ其引受資
 金ニ充當セシムルカ如クハ動産信用ノ健全ナルヲ希達ヲ期スルニ有效
 ナル手段ナルハシ。本邦農民ノ多クハソノ資力極メテ薄弱ニシテ、
 一畝ニ經營費即肥料代金、種子代金又ハ自家ノ生計費ノ如クモ多ク
 ハ農産物ノ收穫期ヲ支取ノ期限トシテ掛買ヲ爲スモノ多數ニシテ農
 家ハ生産物ノ收穫ヲ爲スニ至ルニ、是等ノ費用ヲ支弁スル爲ニ時ヲ移
 サスシテ其收穫物ヲ賣捌クコトヲ要スルノ状態ニ存スル也。従ツテ
 此等生産物ハ秋ニ一時ニ賣リ出サル、コトノ十リ、コレカ爲メ

此等農産物ハ一時ニ市場ニ殺到シ来リ、此際農産物ノ價格ハ暴落カ
 ス下落スルヲ常トス。コノ状態ハ農産物ノ價格ヲ一ヶ年内ニ於テ奉
 節ニヨリソノ騰落ノ状態ヲ甚シカラシムルモノニシテ、コノ災ヨリ
 見テ甚タ面白カラサルノミナラス、經濟力ノ衰弱ナル農家ハ假令其
 收穫物ノ價格騰貴スヘキコトヲ知ルトモ、ソノ時ヲ待ツ事能ハス
 ス各佃農家ノ賣却スヘキ收穫物ノ数量ハ極メテ小口ノモノニシテソ
 ノ大商品トシテノ便値ハク、多クハ商人ヨリ買倒シテ受クル機會多
 ク、ソノ状態甚タ悲惨ナルモノアリ。此等ノ場合ソノ收穫物ヲ農業
 倉庫ニ寄託シテ金融ヲ受ケ、或ハ販賣機關トシテ利用スルトモ、其
 有利ナル状態ニ等クコト勤カラス。従ツテ農業倉庫ハ將來健全ニ保
 持セラザルヘカラス。

農業上ニ於ケル對人信用ハ動産信用トシテ一徹ニ其手達達レタ
 リ。然レトモ現在此種ノ機關ハ漸次衰達セントシツ、アルモノニシ
 テ甚タ喜ハシキ事ナリ、尤米農業ヲ牽連セシメシカ爲メ資金ノ供給
 ヲ計ラントスルニハソノ資金ヲ活用スヘキ人如何ヲ吟味シテ以テ融

通ヲ許ルコト、為サ、ルハカラス。然ルニ信用ニ依リテハ、又ソノ担保物件タルハ、物ノ三ヲ見テ資金ヲ借リ受クハ、人ノ性行如何ヲ向ハサルモノ也。サレハ農業ヲ行フニ不適當ノ者ナリト云担保物体タル物ニガニ所有セハコレヨリテ金融ヲ受クルコトヲ得ハク、又之勤勉正直ニテ農業ヲ行フニ極メテ適當ノ者ナリト云担保ニ供スハ、物件ヲ所有セサルニ於テハ遂ニ資金ノ供給ヲ受クハ、道ナカラシ。斯クノ如ク状態ハ限リアル資本ヲ農業上有效ニ使用セシムハ、道ニ非ス。サレハ農業上ノ対人信用ハ、資本ヲ最モ適用ナル人材ニ配シテ以テ健全ナル農業ノ發達ヲ計ル上ニ於テモ極メテ必要ナリ。現在対人信用ノ金融機關トシテ存スルハ信用組合也。信用組合ハ産業組合ノ一種ニシテ一文区域内ニ住居スル者ハ相互組織ヲ以テ結合セシムル一種ノ經濟機關ニシテソノ組合員間ノ金融ヲ目的トスルモノナリ。十人以上ノ設立者アラハ隨處ノ地域ヲ範圍トシテ設立スルコトヲ得ヘク、組合ハ組合員ノ出資ニヨリテソノ資金ヲ得ルト同時ニ組合員ニ資金ノ便宜ヲ得セシムル也。従ツテ此種信用組織組織セラルハ、

至ラハ、此等互助的ノ經濟ハ農民間ニ於ケル其ノ精神ヲ養成セシムルノミナラス、又經濟上地方ノ資金ヲ地方ニ使用セシムルニ至ルノ便宜存スルニ至ルモノトス。何トナレハ現在農村ニ於テ收吸セラレタル銀行貯金、郵便貯金ノ如クハ孰レモ主トシテ中央ノ都合ニ利用セラレ得ヒ田舎ニ分配セラルコトナシト云信用組合存スルコトニヨリ田舎ノ資金ヲ田舎ニ保存シ、以テ利用スルコトヲ得ルニ至ルモノニシテ、併セテソノ貯蓄心ヲ刺戟セシムルノ作用ヲ有スヘシ。信用組合ニ類似セル經濟組織ハ吾國ニ於テ古クヨリ穀子ノ如ク制度ヲ以テ存シタリシカ徳川時代ニ於テニ宮尊徳翁ニヨリテ唱ヘラレタル報徳社ハ、一道德上ノ目的ヲ有スル健全然今日ノ信用組合ト云シ組織ヲ有スルモノニシテ、現存引統々行ハレツ、アルモノナリト云吾國現在ノ信用組合ハ明治三十三年産業組合法ノ制定以後存スルニ至リタルモノナルカ、コレハ主トシテ穀子ニ於テ發達シタルソレニ範リ定メラレタルモノ也。独乙ニ於テ信用組合ハ早クヨリ發達セリソレニ種アリ、Schulze 式信用組合ト Raiffeisen 式信用組合

トコレニシテ、シユルツ工氏ノ定メタルモノハ普通コレヲ底民銀行
 (Volksbank)ト林ハレ、ライプアイゼン氏ノ定メタルハ貸付金
 庫 (Darlehens kassen)ト林ハレ、事一般ナリ。シユツ工氏組
 合ハ元來都市ニ於テ最初メラレ、主トシテ中ハ商工業者ヲ基礎ト
 シテ設ケラレタルモノニシテ、而テ農民ノ利用ノ為メ設ケラレタル
 モノナキニホスト虽大體ノ傾向ハ都會的ナリ、而テテ業務ノ及フ區
 域ヲ出來レ限リ大ナラシメ多数人ヲ把握センコトヲ期シ、組合員ノ
 貯金ヲ積ルト全時ニ組合員ニ對シ信用貸付ヲ為スモノナルガソノ貸
 付ハ短期ニシテ三ヶ月以内ナルヲ原則トス。而シテ純然タレ經濟上
 ノ利益ヲ連スルタメニ設ケラレタルモノニシテ其他普通銀行ニ似タ
 レ業務ヲモ併セ行フモノナレハ極メテ銀行ニ類似ス、コレソノ底民
 銀行ト林ハレ、所以ナリ。ライプアイゼン式組合ハコレト異リ、都
 会ニホスシテ主トシテ田舎ニ於テ設立センコトヲ期シ、ソノ組合ノ
 及フ區域モ一町村ヲ限リトシ單口組合員ノ多数ナラサルヲ期シ相互
 ノ親睦ヲ計ランコトヲ欲スルモノナリ。ソノ業務ハ組合員ノ貯金並

養付ヲ取扱フモノナルガ、ソノ貸付ハ主トシテ長期信用即一年乃至
 三年^{以内}信用ヲ原則トシ更ニ必要ナル場合ニハソノ期間ヲ延長スルコ
 トヲ厭ハス。而シテソノ組合ノ目的トスル所ニ當テ是ニ當テ是ニ當
 ノニ止マラス、合時ニ精神の結合ヲランコトヲ期シ修養的、宗教
 的ノ薫育ヲナス事ハ組合ノ重大任務トセラル。今日コノ二種ノ組合
 独乙ニ並ビ行ハレツ、アル有様也。吾國ノ信用組合ハ大體ニ於テ農
 村本位ニシテ農業經濟ノ改善ヲ計ラント欲スルノ目的ヲ相スル莫並
 ニ其他詳細ノ莫ニ於テシユルツ工式ヨリハ單口ライプアイゼン式ニ
 傾ケルモノナリ。

信用組合ハ貸付機關タルト全時ニ貯金機關タルハ貸付ニ運用スハ
 又資金トシテハ組合員ノ出資、預金、組合ノ積立金ニ求ムル事ヲ得
 ハント云、其他日本勸業銀行並ニ農工銀行ハ無担保ノ貸付ヲ為シ得
 ハク國庫ハ此等ノ銀行ヲ通シテ低利資金ヲ組合ニ供給シツ、アルト
 共ニ又全一地方ニ於ケル組合相互間ニ聯合會ヲ組織センメ、所屬組
 合ニ對シテ信用ノ授受ヲ得セシムル事トシ相互融通ノ便ヲ計リツ、

アリ、最近此等組合並ニ聯合会ノ中大機關トシテ産業組合中央金庫
 設立セラル、ニ至リ、資金融通ノ便宜ヲ計ルコト、セリ、信用組合
 ハコレカ組織完全ニシテ經營宜シキヲ得ハコレカ為メ農民ノ利スル
 處甚ダ大ニシテ、コレトマニ於テハ或ハ対人信用ノミヨリテ資金
 ノ融通ヲ得サレハ資金ヲ得難キ農民カ或ハ商人、地主トヨリ高利
 ナル資金ヲ借り来リソノ境運益々悲惨ニ陥ラサルヲ得サルヘシ。然
 レトモ元來信用組合ハ人的結合ヲ基礎トスルモノニシテ、コレカ完
 全ナル率達ヲ計ルカ為メニハ農民ノ自覺ヲ必要トスルト共ニ、ソノ
 經營者ニ適材ヲ得サルヘカラス。然ラサレハ信用組合ハ又物數ノ三
 存ヲテソノ突後ヲ失フニ至ルヘシ

以上農業金融ノ大畧ヲ述ヘタルガ、現在農業金融ノ状況如何ナル
 ヘキカヲ見ンカタメ農民ノ負債ニ付テ述ヘンニ、大藏省ノ調査ニヨ
 レハ大正元年ニ於ケル農民ノ負債總額七億四千六百萬円ニ上レリ。
 其後ハ調査ナケソハ不明ナルカ恐ラクハ之レニ數倍セルモノナルハ
 シ。而シテ此等ノ債務ハ如何ナル處ヨリ融通セラレオルカソノ状態

ノ類ブルニ

| | |
|---------------|--------|
| 勸銀、農銀、北海拓殖 | 一〇、二七% |
| 其他ノ銀行 | 一七、六二% |
| 保險会社 | 〇、〇九% |
| 産業組合、報機社、其他団体 | 二〇、二六% |
| 個人貸金業及貸金会社 | 一、一六% |
| 質屋 | 一、六五% |
| 商人 | 八、四三% |
| 親母子講及類似ノモノ | 三五、九一% |
| 私人 | 一、五九% |
| 其他 | |

ノ状態ニアリ、即私人及貸金業者ニヨルモノ七割六分ヲ占メ、勸業
 銀行並ニ信用組合ノ如キ農業金融機關トシテ存立スルモノ、融通
 ハ約一割三分ヲ占ムルニス。此状態ハ農村金融機關ノ運用上ニ
 於ケル缺陷ヲ語ルモノニシテ、吾人ノ深ク注意スヘキ事柄ナリ。

第五章 産業組合

農業ハ元来小規模業タルニ違シ工業ニ於ケル如ク小企業カ大企業ニ至ルコトノ傾向ハ如キ事ナカルヘシハ既ニ述ヘタル如ク、農業ニ於ケルコトノ傾向ハソノ利益様々存スヘシト云、コレカ為メ農業ニ於テハ大規模業トシテ受クヘキ企業上ノ利益ハ全無享受セラレザルコトハナル也。従ツテ農業ニアリテソノ小規模業ノマヽニテ而カモ大規模業ニ於ケルトシテ利益ヲ收メル方法ヲ考慮シエラルレハ甚ダ好都合ナルヘシ。換言セハ中小業ニシテ大業トシテ利益ヲ享受セシムルコトコレ也。コノコトタル吾國ノ如キ大部小業ノニヨリナレバ、於テハ特ニ必要也。コノ種ノ企テトシテ生シタルモノコレ即産業組合 (Co-operation, Genossenschaft) ナリ。元来組合トハ個別ノ経済ノ助成又ハ補充ヲ目的トスル一極ノ公共経済ヲ云フ。即組合トシテ公共経済ハソレ自身独立ノ経済上ノ目的ヲ達成スル

カタメニ存スルモノニハ非ヌシテソノ組合ヲ組織スル者ノ経済上ノ目的達成セムカ為メ、ソレヲ援助スルノ機能ヲ有スルニスルナルナリ。組合ハソノ発達上ヨリ見テニ種アリ。個人ノ家計経済ノ補助ヲ目的トスルモノト、有利経済ノ発達ヲ企圖セシムルモノト、ソレヲ援助スルコトヲ目的トスルモノトコレナリ。前者ハ経済ノ消費的活動ニ関スルモノニシテ、後者ハ経済ノ生産的活動ニ関スルモノ也。ソノ前者ニ屬スルモノトシテハ消費組合及住宅組合アリ。ソノ後者ニ屬スルモノハコレ産業組合也。産業組合ハ農業上ニシテ成立セラルヘシト云、元来非ス。アラユル産業ヲ通シテ組織セラルヘシモノナルヘシト云、元来個々ノ生産業ヲ補助スヘキ援助スルコトヲ目的トスルモノニシテ元来小規模業ニ限リテ必要トシ、又ヨク成立スルコトヲ得ルモノ也。ソノ発展上大規模業ニ発達スルコト可能ナル程度ノ産業ニアリテハ概テ産業組合ノ如キモノ、援助ヲ必要トセス。ソレ自身大企業トシテ発達スルニ至ルヘキカ故ニ此種類ノ産業ニ関テハ産業組合存立セズ。コレ並一級商工業ニ産業組合ノ発達セザル所以ナルト云、

農業又ハ小賣商業或ハ手工業ニ於テ産業組合ヲ必要トスル所以也。
 然ルニ産業組合ノ最モ急速セル故ニ付テ見ルニ組合ノ約ハ割ハ
 農民ノ組織スルニ係リ、手工業者ニ付テ組合ノ組織ニ関係セル
 者ハ僅カニ一割五分ニ過クスト云フ。ソノ然ル所以ハ農民ハ平素商
 工民ノ如ク激烈ナル競争関係ヲ有セサルヨリ相互一致シ易ク加フルニ
 其性質拮据ハ從順ナレヨリ先覺ノ士ヲシテ欲ク之ヲ團結統禦セシムル
 事ヲ得ルニ及シ、商工業者ノ關係ハ寧ロ反對ノ事情多ク故ニ其間
 ニ組合ヲ組織スルコトノ困難ナルモノ存スルカ故ニ也ナラス、産業
 組合カソノ經濟上ノ機能トシテ、ヨク各個ノ生産者ヲ保護セシムル
 事ニ関シテハ手工業モ取テ農業ニ於ルモノニ非ス。又實際上ノ事情
 カ斯クノ如ク情勢ヲ生セシメタルモノナルハテ、然レトモ産業組合
 カソノ特ニ農業ニ於テ重要ナル所以ハコレニ依テ知ルコトヲ得ハ
 シ。一級ニソノ農業ニ於ケル産業組合ヲ農業組合ト称ス。産業組合
 ハソノ速セントスル目的ニヨリ三種ニ分ツ事ヲ得ヘシ。購買組合ト
 販賣組合ト貸付組合トコレ也。購買組合トハ各個ノ生産者カ産業ニ

必要ナル原料ヲ買入レテコレヲ組合員ニ賣却シ又ハソレニ加工シテ
 組合ニ賣却スルコトヲ目的トスルモノニ付テ個別經濟ニ於テ小規模
 ノ買入ヲナスノ不便、不潔ナルヲ大同ノ購買ニヨリテ利益ヲ得ント
 欲スルニ付リ。販賣組合トハ組合員ノ生産シタルモノヲ加工又ハ加
 エテスシテコレヲ大同ニ販賣シ、各別ニ販賣スルヨリ出スル不便、
 入費ヲ節約セント欲スル也。貸付組合ハ一種ニ別タル、ソノ一ハ前
 節ニ於テ述ヘタル信用組合ニ付テ組合員ニ産業ニ必要トスル金銭ヲ
 貸付ケ及ヒ貯金ノ便宜ヲ得セシムルコトヲ目的トスルモノニ付テソ
 ノ金融上ノ援助ヲ計ラント欲スルニ付リ、ソノニハ利用組合ニ付テ
 組合員ニ對シ産業ニ必要トスル物品ノ貸付、又ハ設備ヲ利用セシム
 ルコトヲ目的トシ、ソノ利便ヲ計ラント欲スルニ付リ。此等産業組
 合ニ付テ相當ニ急速スルニ係リ、各地方ニ聯合会ヲ組織シ更ニ全國一巨
 ル中央聯合会ヲ設クルヲ得策トス。コノ聯合会ハ組合ノ業務ノ一部
 ヲ引受ケテ大規模ニ行フモノニ付テ例ハ、多數ノ購買組合又ハ販賣
 組合ノ為メニ大量ノ購買又ハ販賣ヲ爲シ若クハ多數ノ信用組合ノ中

心トナリテ相互ノ間ノ資本ノ過不足ヲ媒介シ且時合会ノ大ナル信用ヲ以テ低利ノ資本ヲ世間ヨリ吸收シテ之ヲ各組合ニ供給スルカ如ク異也。而シテ聯合会ハ此等組合業務ノ共同の執行ノ外大ナル指導的任務ヲ負担スルモノ也。即組合ノ専断ノ尽力、其他組合ニ因スル之ヲ行政ノ改善ヲ促カスカ如クコレ也。元來多數者ノ完全無碍タル組合ハ微リ個々ノ者ニ就テモ必要ナルノミナラス、又組合ニ對シテモ必要ニシテ聯合会ノ組織ナクハ組合ヲマテ真正ニ有效ナラシメ又之レヲ進步普及ヲ促カス事困難也。

産業組合ハ之ヲ組合ノ債務ニ對スル各組合員ノ責任ノ程度ニヨリテ分ツ氏ハ三種アリ。第一ハ有限責任、第二ハ連帶無限責任、第三ハ保証責任也。保証責任トハ各組合員カ其引度タル持分ノ抵込ノ外尙ホ其持分高ノ幾倍迄ハ組合ノ債務ニ付テ責任ヲ有ストヌフカ如ク持分抵込以上ニ一限度ノ責任ヲ負担スル制度也。而シテ何レノ責任制度カ組合ニ適スルカハ各組合ノ事業ノ性質ニ由ツテ全シカラス本末産業組合ハ小規模業者ヨリ成立スルカ故ニ各組合員ノ持分高ハ

大ナルコトヲ得ヌ。従ツテ会社ノ如クト異ナリテ組合ハ其財産ノ信用ニ由ツテ世間ニ活動スル事ヲ得ヌ。従ツテ組合ハ概シテ無限責任ニヨルテ適當トシ、特ニ世間ヨリ多ク信用ヲ受クルコトヲ要スル組合ハ無限責任ニアラハレハ其目的ヲ達シ難ク所以ナリト云ヌ又一方ニハ共同一致ノ能力ト高ク場合ニ非レハ容易ニ無限責任ハ成立スル事ヲ得ヌ。此ノ如ク場合ニハ保証責任ノ制度ハ特ニ有利也。何レノ責任制度ヲ採ルモ要スルニ組合ハ人ノ団体ニシテ其成立ニハ組合員ノ團結一致ノ精神ヲ缺クコトヲ得ヌ。故ニ各組合員ハ持分高ノ多小ニ係ラス業務執行上凡テ全一ノ権利ヲ有セサルヘカラス。又組合員ノ持分ヲ全然平等ニスルニ必要ナント云ヌ一人ノ有シ得ル持分高ニハ制限ヲ付シテ他ノ組合員トノ間ニ甚シク差等ヲ生スルヲ防カサルヘカラス。然ラサレハ組合ハ汎ク組合員ノ生活又ハ産業ヲ利益スルニ代リテ組合員自身ノ利益ヲ増大シ、以テ組合員ノ持分ニ對スル配当ヲ大ニセントスルノ弊ヲ生スレハナリ

購買組合ハ我國産業組合法ハ茲ニ述ハタル消費組合ヲモ比中ニ包

合セシム。農業上ノ購買組合ハ有利ナルヘシ。蓋シ肥料又種子ヲ購
 入スル場合、如ク商人ノキチ省々組合員ニ廉價ナル物品ノ供給ヲナスノ
 ミナラス併セテ組合ハ組合員ニ良好ナル品價ヲ送括シテス、ムル事
 ヲ得ルモノ也。又従来農民カ商人ヨリ掛買ヲナシ商人ニ求購セラレ
 居タルカ如ク状態セ、別ニ信用組合ニヨリ金融ノ道ヲ得テコレト向
 ヲ相俟ツテ利用ノ途ヲ計ルトハ、ソノ便益尠シカラサルヘシ。購買
 組合カ物資ヲ購入スル場合三種ノ方法アリ。組合員ノ代理人トシテ
 ソノ購入ヲ行フノ方法ト組合員ノ指定注文ニ應テ購入ヲナシ方法
 ト注文ヲ送タメテ組合員自身ヲ進ンテ仕入物ヲ購入スル方法コレト
 リ。ソノ第三ノ方法ハアマリ行ハレズ。
 販賣組合ハ共ニ販賣機關ヲ設ケルコトニシテ各組合員販立ヲテ
 為ス能ハサル有利ノ販賣ヲ為サシムルコトヲ得ルモノトス。而シテ
 コノ組合ハ組合員ヲテ常ニ大量取引ノ便益ヲ享受セシムルノニテ
 ラス代金ノ前渡割引尙為管掌ノ方法ニ由リテ資金ヲ農業ニ供給スル
 ノ機能ヲ有ス。故乙丁株ニ於ケル販賣組合ハ共同力ニヨリテ協力

ニ余ル機械生産ヲ為ス事ヲ目的トシ、各箇ノ販賣費用及時間ノ節約
 ヲ為サシムルモノニシテ、如ク新産物ノ加工販賣ノ場合ニ販賣組合
 ハ甚シク有利也。

信用組合ニ付テハ前節ニ於テ既ニ述ヘタリ。農業上ノ信用組合ハ
 器具機械又ハ工場ノ設備ヲ組合員ニ貸付利用セシムルモノニシテ、
 各組合員カ或機械ヲ便宜ニ單枚ニ使用セシムルカ或ハ特殊ノ設備ヲ
 有スル乾燥場ヲ設備シテ別ニ管理者ヲ設テ生産作業ノ一部ヲ各組合
 員ノ手ヨリ取ツテ共同機關ニ由リ行ハシムルカ如クコレナリ。近時
 故乙ニ於テ電気利用組合非常ニ飛躍セリ

要之産業組合ハ組合員ノ独立ニ經營セル業種ニ対シ大企業ノ有ス
 ル所ニ類スル利益ヲ與フモノニシテ、販賣組合、購買組合、信用
 組合ニヨツテ生産費ヲ節約シ以テソノ總收入ヲ増加セシム。如ク之
 用組合ニヨリテ外部ニ支拂フハ、利子ヲ節約シ得ルナラハ従前ニ比
 シタス若干ノ余裕ヲ生ヲ得ヘク是ヲ共ニ貯蓄シテ始メテ將來ノ為
 メニ幾度タル農業資本ヲ準備スルノ日ヲ期シ得ヘクナリ。故レハコ

レカ約メ国家ハナルヘク之カ寄達ヲ圖ルコトヲ必要トスルモノニシテ、之ヲ誘導奨励スルノ策ハ先ツ適當ナル組合法ヲ制定シ模範ヲ設ケテ公衆シテ業務執行上觀ルヘキ方針ヲ明カニシ又一般ニ組合ニ関スレ智識ヲ普及シテ之カ寄達ヲ促スト合時ニ場合ニヨリテハ組合ニ對シテ旭等ノ資本的補助ヲ爲スヲ適當トス。但コレヲ是リニ補助スルコトハ農民ノ依拠心ヲ助長スルニ適セサルヲ以テ国家カ補助ヲ行フニハ或ルヘク個々ノ組合ヲ補助セシメテ聯合會ヲ補助スルヲ可トス

第六章 農事教育

農業上ノ生産ノ増進ヲ計ント欲セハ各個農民ノ多量上ノ向上ニ関シ留意セサルヘカラス。元來土地利用ニシテ一定ノ程度ニ達シタル後ハ人口増進ハ必ズ農村ノ勞力ニ一平ノ余剩ヲ生セサルヘカラス。然ルニ文明進歩スルニ從ヒコノ余剩中オアリ、野心アリ依拠了ル者ハ不利益トシ農業ヲ捨テ、都市ニ去ル傾アリ。町農民ハソノ數ヲ方

面ハ外部ヨリ補充スルノ必要ハ永ク生スル事ナカルヘキモ其要領ニ関マテハ之ヲ自然ニ放任スルトモハ漸次ソノ減退ヲ防ク事難ハス。吾國ニ於ケル農狀ハソノ悉ルモノニシテ、故一於テ農事教育上ノ阿難ハ起ラサルヲ得ス。農事教育ニニ義アリ。廣義ノ農事教育ハ農ヲ農業ニ關スル智識ノ普及、判断力ノ養成、熟練ノ増進ヲ促進スルノ設備ヲ意味スルモノニシテ即農民ノ生活ヲ改メシメ、其幸福ヲ増加スルヘキ一切ノ手段ノ片契ヲ總括シ如何ナル機會如何ナル方法ニヨリテ向ハサルナリ。又之狹義ノ農業教育トハ將來ヲ荷フテ立ツヘキ若年ノ青少年ニ對シ、一定ノ規律ヨル方法ヲ以テ農業ニ關スル智識、並ニ判断力ノ養成、ソノ熟練ニ資セシムルヘキ此ヲ謂スルヲ云ノベシナリ。廣義ノ教育ニ付テハ勸業會、博覽會、農産共進會等ヲ附從スルカ如キ実見の設備ヲ整ヘ又圖書館、農事試驗場ノ設置ノ如キ、或ハ政府カ模範農場ヲ設ケ、外國ヨリ農民ヲ誘致ラテ農耕ヲ行ハシムルカ如キ、コレニ屬セシムル事ヲ得ヘシ。又国家カ補助金、奨励金ヲ下附シテ農業技術ノ進歩ヲ計ルカ如キモ本一極ノ農業教育トシ

テ見ル事ヲ得。然レヒコレ等補助金、奨励金カ教育的効果ヲ生スル
 ハ、経営方法ノ変更ニ対スル費用ノ補填又ハ危険ノ保障ニ対シテ為サ
 ル、場合、並ニ市場ニ対スル新等々關係ヲ開示ヒシメント人ル場合
 ノ如クニ生スルモノニテ一般的ニ教育的効果ヲ期待スルコトハ得
 サルハシ。而カモ經濟的手段ヲ以テ教育上ノ文ヲ補フハ面白カラサ
 ルコトニシテコレカ為メ改良セラル、コトアリト至ヒソハ一時的ニ
 シテソノ永續ハ困難ナルモノナリトス。元來吾國ノ如ク大農小ナク
 小農全ヨリナル國ニイツテハ狹義ノ農業教育ノミヲ以テシテハソノ
 效果尠ク、廣義ノ農事教育ニ及カスルノ必要アリ。何トナレハ小農
 ハ新智識ヲ吸收スルコト困難ナルト同時ニ、小農ノ子弟ハ特ニ專門
 ノ農業教育ヲ受クル機会ナク、多ク父祖ノ為シ来リタル經營耕作方
 法ヲソノ伝繼承シユクモノ大多數ヲ占ムルカ故ニ、農業上ノ改良ヲ
 計ルカ為メニハ此等現況ニ農耕ニ從事シツ、アレ農民自身ヲ明瞭ス
 ルコト必要ニシテ、此等ノ者明瞭セラル、コトナカラフニハ農事ノ
 改良ノ實現セラルハハ機会ナカルハシト結スルカ故ナリ。小農國ニ

於テ此等ノ農民開示ニ必要トスル、一面農民カ労働者トシテソノ勞
 働ノ效果ヲ發揮セシムルコト即主トシテ農業技術上ノ方面ニ関スル
 事柄ト、他面農民カ企業者トシテ又經營主体トシテソノ經濟方面ニ
 関スル事柄ト名ナリ。而シテ又注意スルモノトハコレ等ノ組織ノ開
 示カ部分的ナラサルコトコレ也。元來一人ノ經濟ハ總括セラレタ
 ル一體トシテ初メテ效果アル活動ヲ期待ヲ得ルモノニシテソノカ
 ヲ往々部分的ノ改良カ全体ノタメ有苦ナル結果ヲ生スルカ如ク事珍
 ナシカラサル也。廣義教育トシテ最モカク瓜シテ效果アルハハ農
 事講習会也。然レトモ此等講習会モ一時的ノモノニテハ效果ナカル
 ハタ、ナルハク農閑期ヲ選ビ多少継続的ニコレヲ行フコトハ必要ナ
 ルハタ、又年々繰リ送シテ行ハル、カ如ク場合ニハソノ講習カ重複
 ナサレ様階級の不適切ノモノナルハ也。又講習会ニ於テ困難トス
 ル向題ハ適當ノ講師得難キコトナリ、コレハ何等カ工夫アルハ
 ナリ。

狭義ノ農業教育トシテハ即学校ナリ、学校教育ニアリテハ大農國

ト小農園トニ付テハソノ方針ニ相違アルハモ事ヲ知ラサルハカラス
 大農園ノ組織大ニシテ高等ナル技術者ヲ管理人トシテ産備ヲ得ル
 モノニシテソノ然ラサル場合ニテリテモソノ経営者ハ高等ナル教育
 ヲ必要トスルモノナリ。従ツテ大農園ニ於テ此等高等ノ技術者ヲ養
 成スルコトハコレ即各小農園ニ新知識ヲ吸収セシムル所以ナレハ高
 等農業教育ハ必要クハカヲサルモノナリ。然レニ小農園ニテリテ
 ハ高等農業教育ヲ施ストモ、ソレ等教育ヲ受ケタルモノハ各小農園
 ハコレヲ用フルノ余地ナク従ツテ高等技術者ハ農業ノ実地経営ニ向
 ハスシテ或ハ卒者、教員、官吏トナルノ他ナカレハシ。サレハ農業
 上ノ教育方針ハ大農園ニ於テハ高等農業教育ニ精力ヲ注クコトヲ必
 要トスルモノナレト。小農園ニ於テハ無論高等農業教育ヲ無用トス
 レニハ非レドモソノ望心ヲ下級ノ農業教育ニオクコト所要也。小農園
 ニ於テ實地農業経営者ハ高等教育ヲ受クモノハシ。又小農園ノ自身
 ニ於テモ高等ノ農事教育ヲ必要トヒス。従ツテ下級ノ農業教育ヲ接
 収シテ多大ノ設備ヲ加フルトナスコト必要也。而シテソノ専門的教

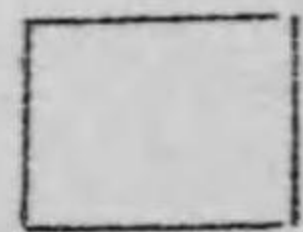
育ヲ施スニ当リテモソノ理論ノ三ニ主カヲ注カス。ソノ実地方面ノ
 時間ヲ増加シテソノ学校生活ト小農園トシテ日常生活ノ状態ト密接ナ
 ル関係ヲ保タシムルコト必要ナリ。今日甲種農業学校ヲ卒業シタル
 モノハ多クハ農場ニ復帰セシテ大部分官吏、技術者、教員トナル
 カ如ク傾向ハコレ即ソノ学校ニ於ケル生活状態カ日常生活ノ生活状
 態トアメリニ相異アルカ爲メニ他ナラス。彼等スレハ学校教育ニテ
 リテハ労働力ニ腕力ノ熟練ニ疎ナレカ故ニ他ナラス。尚此等下級ノ
 農業教育ニ期待スヘキコトハソノ経済ノ方面ニテリ。小農園ナリトモ
 企業主トシテノナレハ、農業ヲ企業トシテ如何ニ経営スヘキカ、ソ
 ノ方面ノ指導ハ極メテ必要也。而シテソノ技術上ノ方面ニ於ケル教
 育モ同大ノ農場ヲ通シテ教レモ差支ナキ理論ノミヲ専ラトセス。
 各地方ニ於ケル特殊ノ自然状態ヲ顧慮シタル具體的知識ノ注入ニ主
 カヲ注カサルハカラス。要之吾國ニ於ケル農業教育ハ欧米ノ大農園
 ニ於ケル農業教育方針トハ全然別トラサレテ得サレモノナレハ此莫
 ニ注意スルコト極メテ所要ナリトス。

大正十三年二月十八日印刷
大正十三年二月廿一日發行

大内農業政策要附

定價金壹圓貳拾錢

不許
複製



講述者 大内 武次

東京市本郷区本郷六丁目二番地

發行兼 印刷者 石田 嘉一

東京市本郷区本郷六丁目(赤門前)

印刷所 文信社

東京市本郷區本郷六丁目(赤門前)

發行所

文信社

電話石川三一四七番
振替東京三〇九八番

14
721

終

